

令和6年度 島根県子どもの生活に関する実態調査

報 告 書

(概要版)

島 根 県

－ 目次 －

1	調査概要	1
	(1) 目的	1
	(2) 調査対象、調査方法、回答数	1
	(3) 調査項目	1
	(4) 本調査における「生活困難」の定義について	2
2	主な調査結果	3
	(1) 生活困窮の状況	3
	(2) 子どもの生活状況	4
	① 朝食を食べる頻度	4
	② 休みの日に昼食を食べる頻度	5
	③ 放課後の過ごし方	6
	(3) 子どもの健康状態	7
	① 保護者からみた子どもの健康状態	7
	② 過去1年間に子どもを医療機関で受診させなかった経験	8
	③ 受診させなかった理由	9
	(4) 子どもの自己肯定感	11
	① 自分は価値のある人間だ	11
	② 自分の将来が楽しみだ	12
	(5) 子どもの学びの状況	13
	① 勉強の理解度	13
	② 学校以外での学び	14
	③ 進路希望（子ども、保護者）	16
	(6) 子どもの体験の機会	18
	① 海水浴に行く	18
	② 博物館・科学館・美術館などに行く	19
	③ キャンプやバーベキューに行く	20
	④ スポーツ観戦に行く	21
	(7) 利用したいサービス	22
	① 子どもの参加意向	22
	・無料か低額で子どもだけで安心してご飯を食べに行ける場所	22
	・無料又は低料金で、勉強を教えてくれる場所	23
	② 保護者の参加意向	24
	・無料か低額で子どもだけで安心してご飯を食べに行ける場所	24
	・無料又は低料金で、勉強を教えてくれる場所	25
	(8) 公的制度、支援サービスの認知状況	26
	① 生活福祉資金貸付制度	26
	② 母子・父子・寡婦福祉資金貸付制度	27
	③ 生活保護制度	28

④ 生活困窮者自立支援制度.....	29
⑤ 就学援助制度.....	30
⑥ 就学援助を受けているか.....	31
⑦ 就学援助を受けていない理由.....	32
⑧ 児童扶養手当の受給.....	33
(9) 保護者の就労状況.....	34
① 母親の雇用形態.....	34
② 父親の雇用形態.....	34
③ 共働きの状況.....	35
(10) 保護者の勤務形態.....	36
① 母親の勤務形態.....	36
② 父親の勤務形態.....	37
(11) 保護者の相談先.....	38
(12) 子どもの相談先.....	39
(13) 保護者の要望.....	40
(14) 子どもの要望.....	43
(15) コロナ前と現在の比較.....	46
① 世帯全体の収入.....	46
② 生活に必要な支出.....	46
③ 家族が一緒に出掛ける機会.....	47
④ 子どもと話をすること.....	47
3 資料.....	49

1 調査概要

(1) 目的

次世代を担う子どもたちが、生まれ育った環境に左右されることなく、健やかに育ち、夢や希望、意欲にあふれ自立した人間へと成長することができる社会づくりに向けて、子どもの貧困対策における効果的な支援のあり方を検討するための基礎資料を得るため、県全体の子どもの生活実態や学習環境等について調査を行った。

(令和元年度に続いて2回目の実施)

(2) 調査対象、調査方法、回答数

島根県内の学校に通学している小学5年生、中学2年生、高校2年生とその保護者を対象に、学校を通じて配布を行った。(原則 Web 回答)

配布数、有効回答数を以下に示す。

		配布数	有効回答数		親子のマッチングができた数	
小学5年生	子ども	5,779	1,606	(27.8%)	1,529	(26.5%)
	保護者	5,779	2,058	(35.6%)	1,529	(26.5%)
中学2年生	子ども	5,839	1,366	(23.4%)	1,224	(21.0%)
	保護者	5,839	1,857	(31.8%)	1,224	(21.0%)
高校2年生	子ども	6,049	1,388	(22.9%)	1,120	(18.5%)
	保護者	6,049	1,771	(29.3%)	1,120	(18.5%)
総計		35,334	10,049	(28.4%)	7,746	(21.9%)
調査時期		令和6年5月				

(3) 調査項目

- ・子どもの貧困状態を表すもの(家計の逼迫状況、子どもの体験や所有物の欠如、保護者の就労状況等)
- ・子どもの生活状況(放課後の居場所や過ごし方、欠食状況、地域等とのつながりや相談相手等)
- ・子どもの健康状態
- ・子どもの自己肯定感
- ・子どもの学びの状況
- ・公的支援の利用(公的制度の利用状況、支援サービスの今後の利用意向)
- ・コロナ感染症による生活の変化

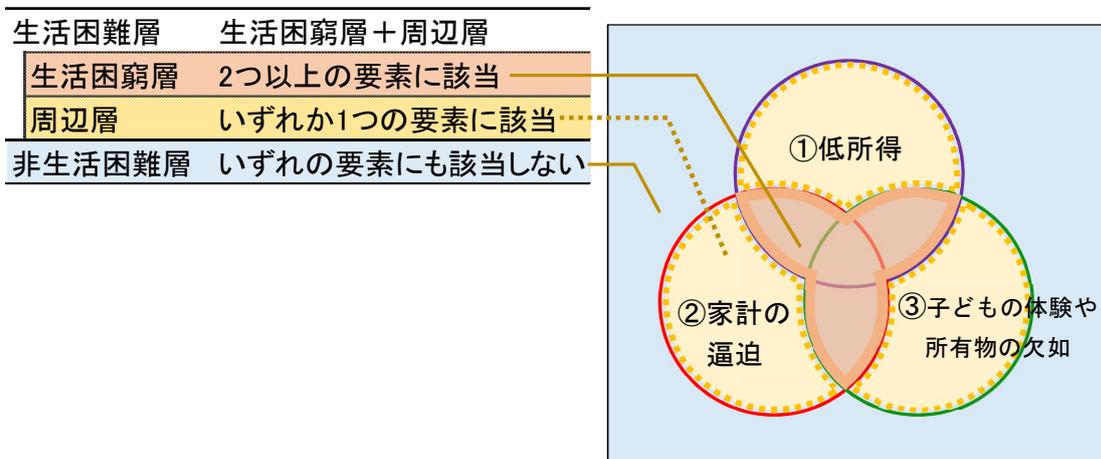
(4) 本調査における「生活困難」の定義について

本調査では、子どもの生活における「生活困難」を次の3つの要素から分類する。

- ① 低所得 ②家計の逼迫 ③子どもの体験や所有物の欠如

①低所得	年間収入が 200 万円以下
②家計の逼迫	<p>経済的な理由で、公共料金や家賃を支払えなかった経験や食料・衣類を買えなかった経験などの 7 項目のうち、1 つ以上に該当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話料金 ・公共料金(電気代、ガス代、水道代) ・家族が必要とする食料が買えなかった ・家族が必要とする衣類が買えなかった ・家賃
③子どもの体験や所有物の欠如	<p>子どもの体験や所有物などに関する次の 15 項目のうち、経済的な理由で、欠如している項目が 3 つ以上該当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海水浴に行く ・博物館・科学館・美術館などに行く ・キャンプやバーベキューに行く ・スポーツ観戦や劇場に行く ・遊園地やテーマパークに行く ・毎月お小遣いを渡す ・毎年新しい洋服・靴を買う ・習いごと(音楽、スポーツ、習字など)に通わせる ・学習塾に通わせる(又は家庭教師に来てもらう) ・お誕生日のお祝いをする ・1年に1回くらい家族旅行に行く ・クリスマスプレゼントや正月のお年玉をあげる ・子どもの年齢にあった本 ・子供用のスポーツ用品・おもちゃ ・子どもが自宅で宿題をすることができる場所

●生活困難層（生活困窮層、周辺層）、非生活困難層の分類



2 主な調査結果

(1) 生活困窮の状況

- 生活困難層の割合は、小学生で39.4%、中学生で42.8%、高校生で46.9%と子どもの学年が上がるほど高くなっており、低所得だけでなく、子どもの成長に従い「家計の逼迫」の経験が増加していることが想定される。
- また、回答世帯のうち1割強がひとり親世帯であったが、そのうち母子家庭に関しては約8割が生活困難層に分類されており、父母が一緒にいる世帯と比較し生活状況の厳しさが伺われる。

【小学生】

	実数	割合	親の状況			その他 (n=13)	無回答 (n=41)	
			父母が一緒にいる (n=1359)	ひとり親				計 (n=116)
				母子家庭 (n=99)	父子家庭 (n=17)			
生活困難層	467	39.4%	36.0%	79.3%	38.5%	74.0%	50.0%	30.5%
生活困窮層	204	17.2%	13.8%	56.3%	30.8%	53.0%	16.7%	23.1%
周辺層	263	22.2%	22.3%	23.0%	7.7%	21.0%	33.3%	15.4%
非生活困難層	718	60.6%	64.0%	20.7%	61.5%	26.0%	50.0%	61.5%

【中学生】

	実数	割合	親の状況			その他 (n=17)	無回答 (n=48)	
			父母が一緒にいる (n=1027)	ひとり親				計 (n=132)
				母子家庭 (n=109)	父子家庭 (n=23)			
生活困難層	401	42.8%	38.0%	77.7%	76.5%	77.5%	36.4%	44.4%
生活困窮層	187	19.9%	14.8%	59.6%	41.2%	56.8%	36.4%	11.1%
周辺層	214	22.8%	23.2%	18.1%	35.3%	20.7%	0.0%	33.3%
非生活困難層	537	57.2%	62.0%	22.3%	23.5%	22.5%	63.6%	55.6%

【高校生】

	実数	割合	親の状況			その他 (n=32)	無回答 (n=34)	
			父母が一緒にいる (n=897)	ひとり親				計 (n=157)
				母子家庭 (n=138)	父子家庭 (n=19)			
生活困難層	407	46.9%	41.4%	79.0%	66.7%	77.3%	56.0%	27.3%
生活困窮層	209	24.1%	19.5%	54.5%	22.2%	50.0%	24.0%	18.2%
周辺層	198	22.8%	21.9%	24.5%	44.4%	27.3%	32.0%	9.1%
非生活困難層	460	53.1%	58.6%	20.9%	33.3%	22.7%	44.0%	72.7%

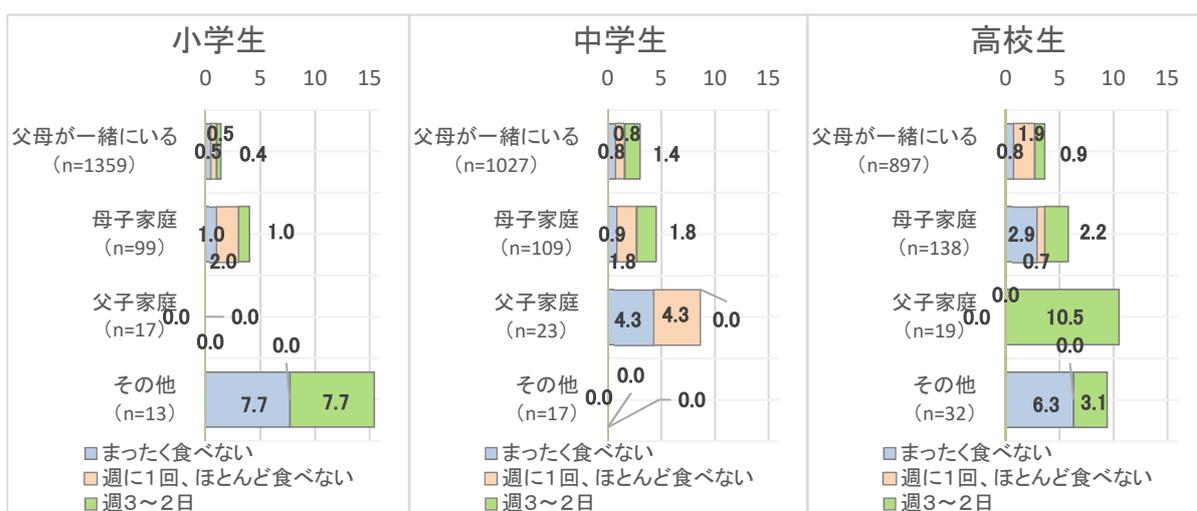
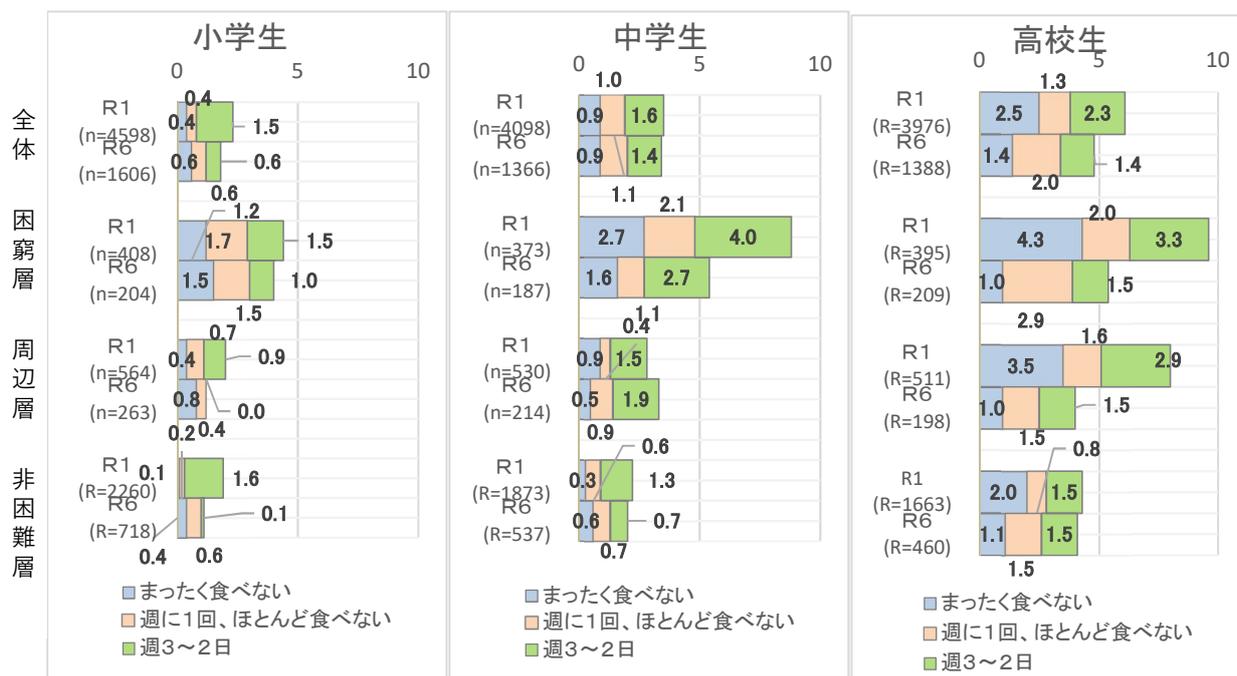
【全体】

	実数	割合	親の状況			その他 (n=62)	無回答 (n=123)	
			父母が一緒にいる (n=3283)	ひとり親				計 (n=405)
				母子家庭 (n=346)	父子家庭 (n=59)			
生活困難層	1,275	42.6%	38.1%	78.7%	62.5%	76.4%	50.0%	38.1%
生活困窮層	600	20.1%	15.7%	56.7%	31.3%	53.1%	25.0%	16.7%
周辺層	675	22.6%	22.5%	22.0%	31.3%	23.3%	25.0%	21.4%
非生活困難層	1,715	57.4%	61.9%	21.3%	37.5%	23.6%	50.0%	61.9%

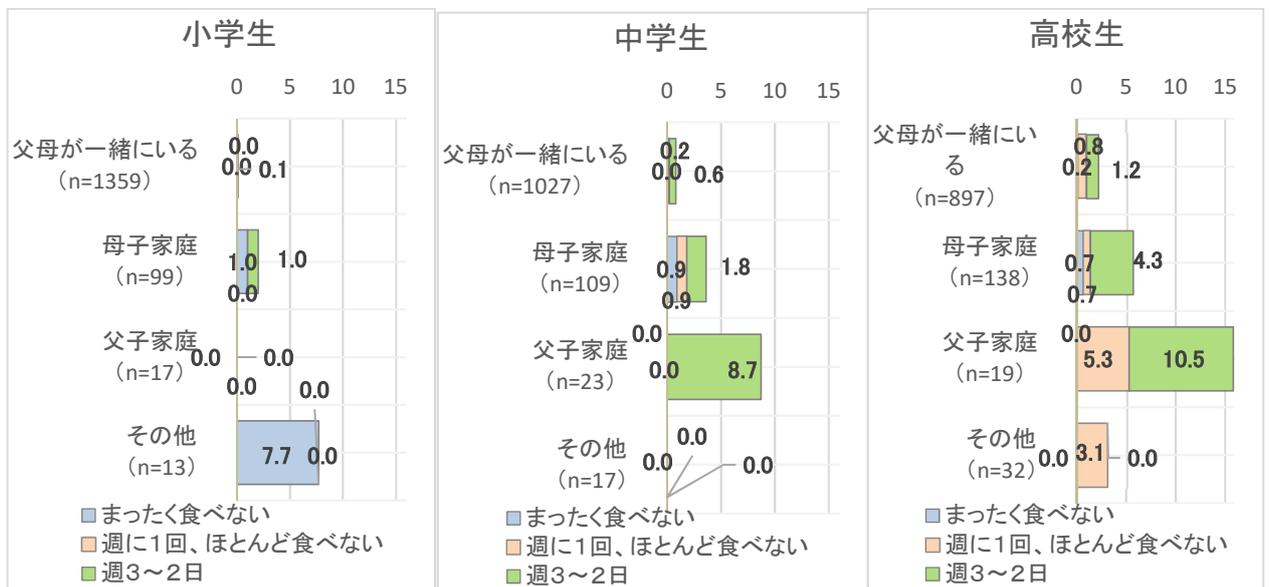
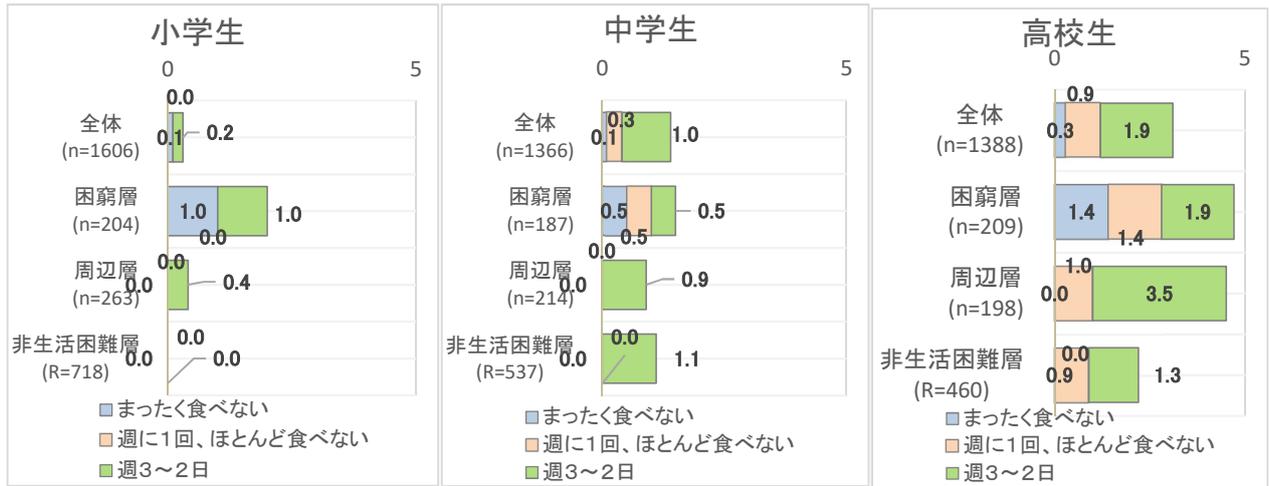
(2) 子どもの生活状況

- 子どもの生活状況を「朝食を食べる頻度」「学校が休みの日に昼食を食べる頻度」で見ると、多くの子どもは「朝食」や「学校が休みの日の昼食」を食べている(注)が、生活困難層は非生活困難層に比べ「食べる頻度が低い」割合が総じて高くなっている。
- 世帯状況別にみると、母子家庭の小中高生と父子家庭の中高生で「頻度が低い」割合が高くなっている。
- 放課後一人で過ごす子どもの割合は、小学生、中学生で生活困難層は非生活困難層に比べ高くなっている。
- 最も年齢が下の小学生では、母子家庭の28.3%、父子家庭の23.5%が放課後(児童クラブ等の終わった後)、「自宅で一人でのいる」との回答で、全体の19.1%を上回っている。

① 朝食を食べる頻度



② 休みの日に昼食を食べる頻度

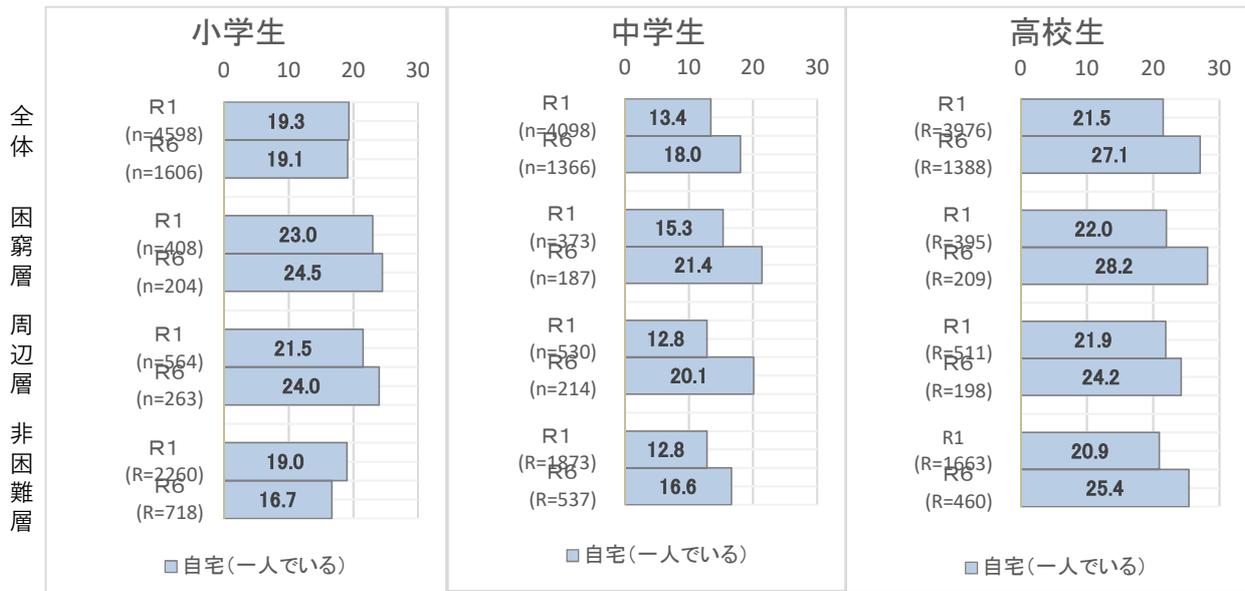


(注) 朝食を食べる頻度、学校が休みの日に昼食を食べる頻度

	朝食を食べる頻度 (%)			休みの日の昼食を食べる頻度 (%)		
	週7~6日	週5~4日	計	週7~6日	週5~4日	計
小学生 (全体)	94.1	2.5	96.6	96.7	1.3	98.0
中学生 (全体)	89.6	5.3	94.9	92.3	4.5	96.8
高校生 (全体)	82.6	9.9	92.5	87.8	6.0	93.8

③ 放課後の過ごし方

放課後（放課後児童クラブ等が終わったあと）どこで過ごすことが多いか。

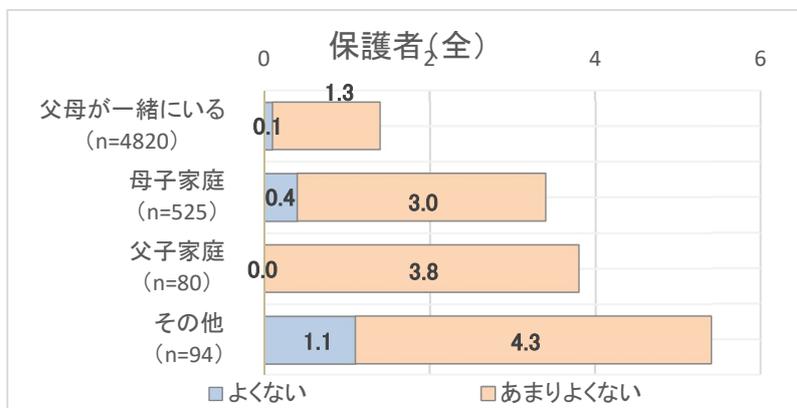
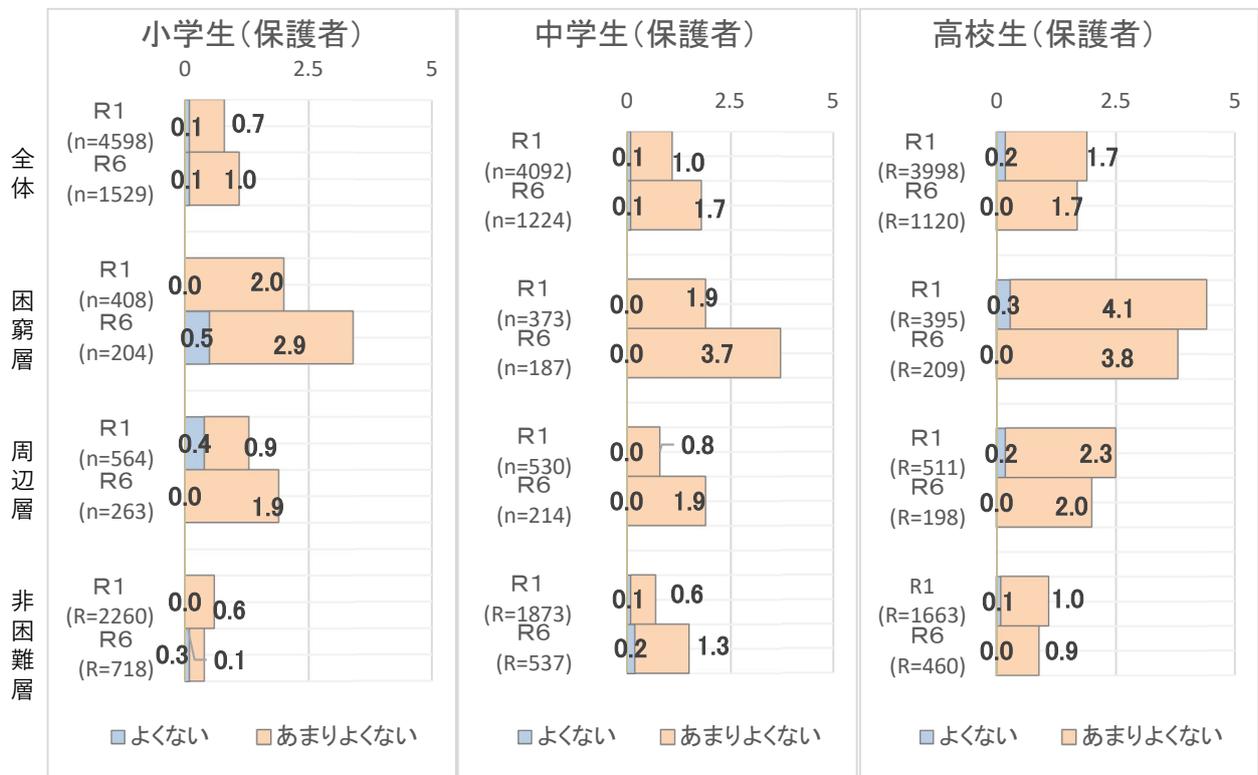


(3) 子どもの健康状態

- 子どもの健康状態を、「保護者からみた子どもの健康状態」で見ると、生活困難層は非生活困難層に比べ「よくない・あまりよくない」の割合が高くなっている。また、世帯状況別にみると、母子家庭と父子家庭で割合が高くなっている。
- 「過去1年間に子どもを医療機関で受診させなかった経験」は、生活困難層が非生活困難層に比べいずれも割合が高くなっている。また、世帯状況別に見ると、母子家庭で割合が最も高くなっている。
- 受診させなかった理由は、各層とも「多忙で医療機関に連れて行く時間がなかった」が最も多かった。

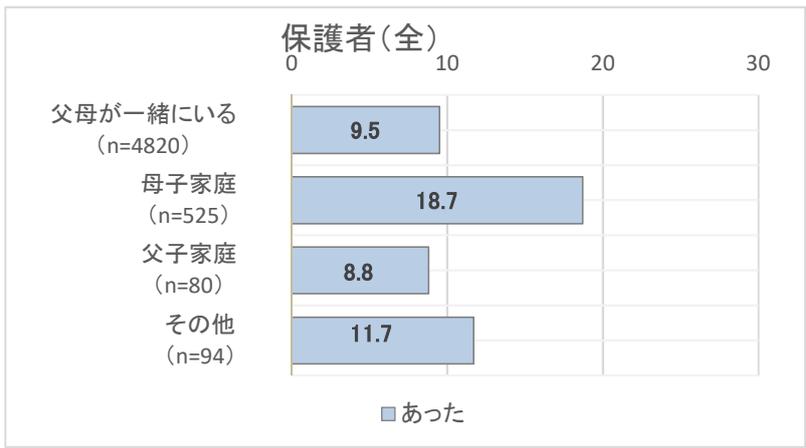
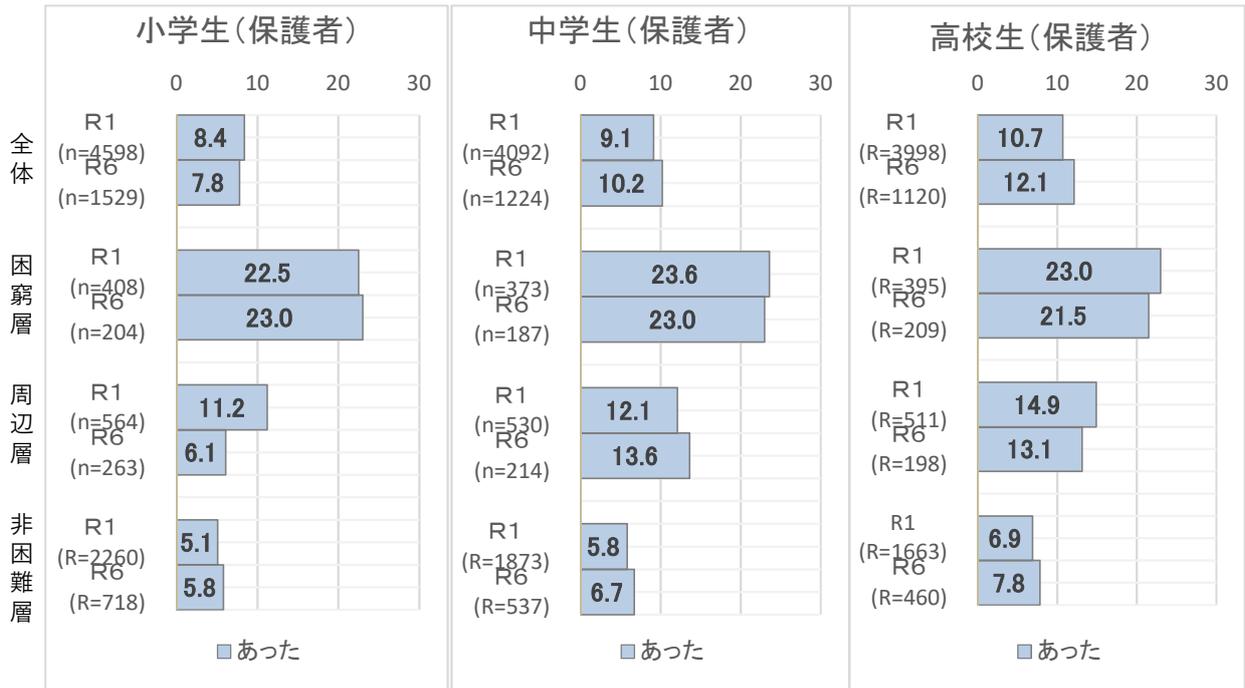
① 保護者からみた子どもの健康状態

子どもの健康状態について保護者が回答した割合

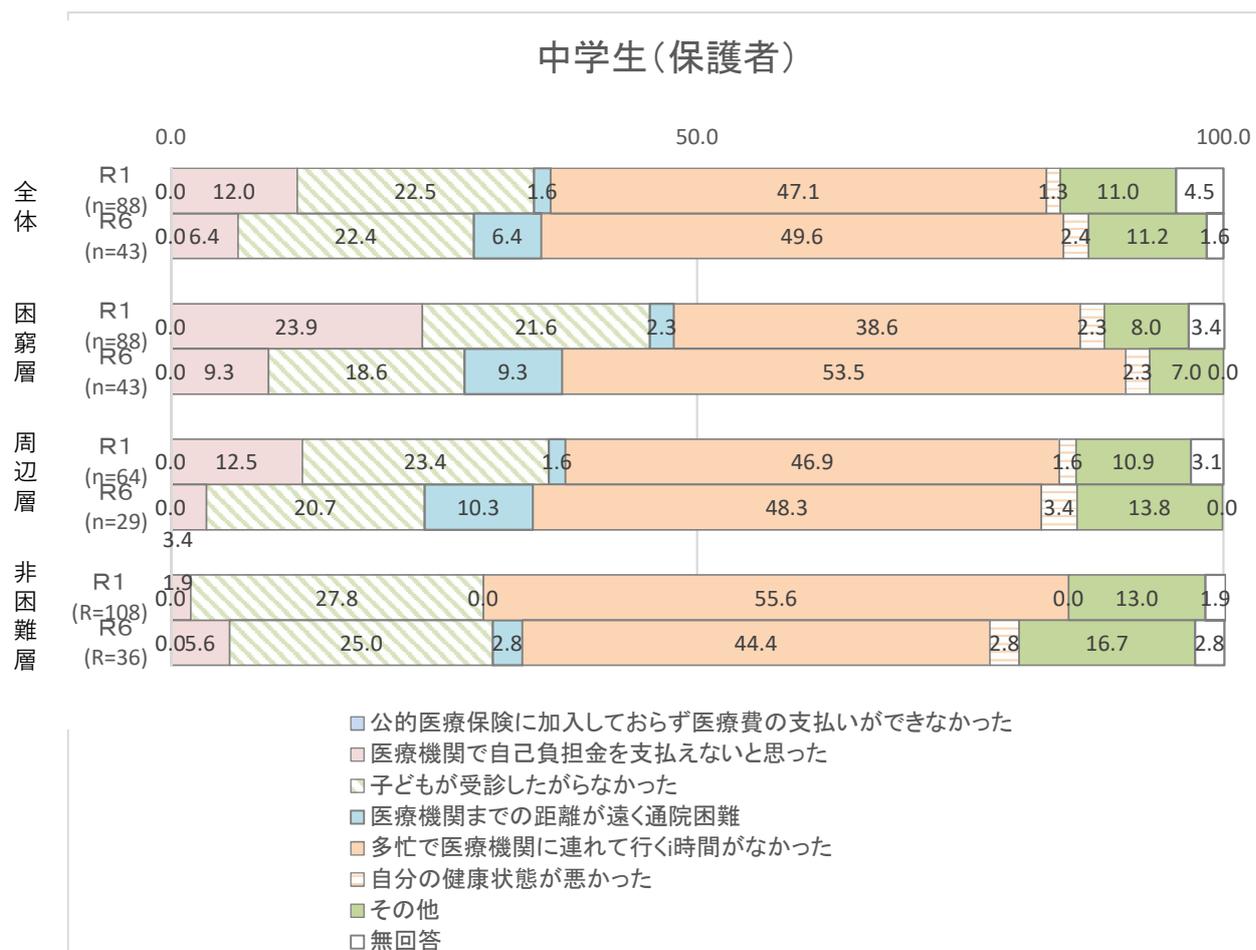


② 過去1年間に子どもを医療機関で受診させなかった経験

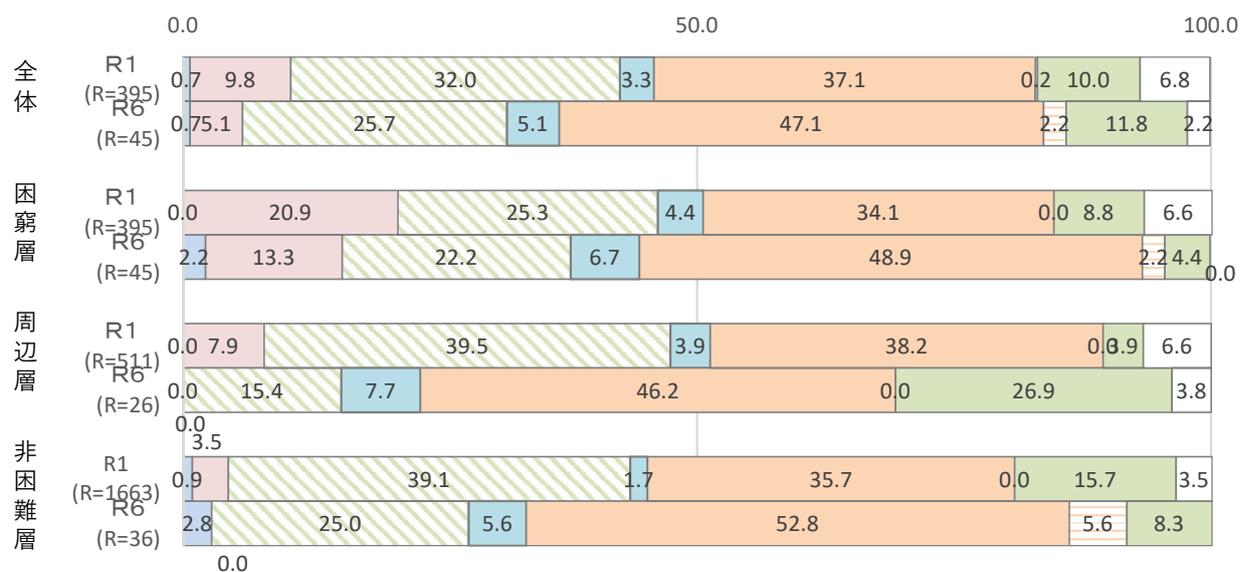
受診させなかった経験が「あった」と回答した保護者の割合



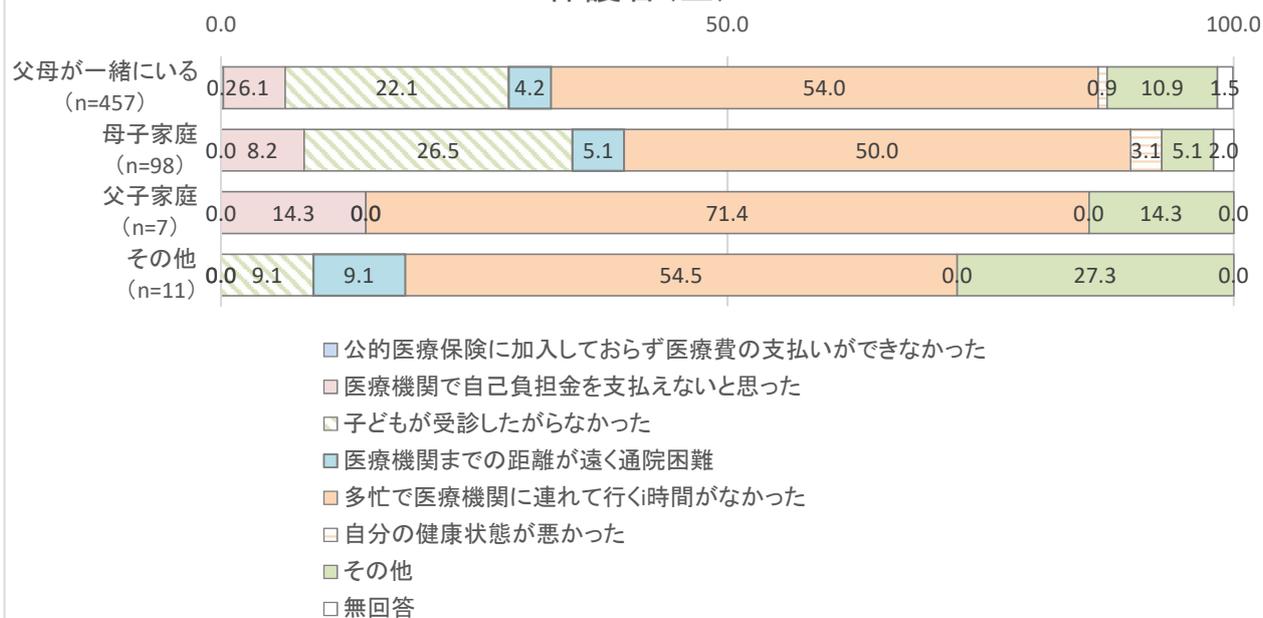
③ 受診させなかった理由



高校生(保護者)



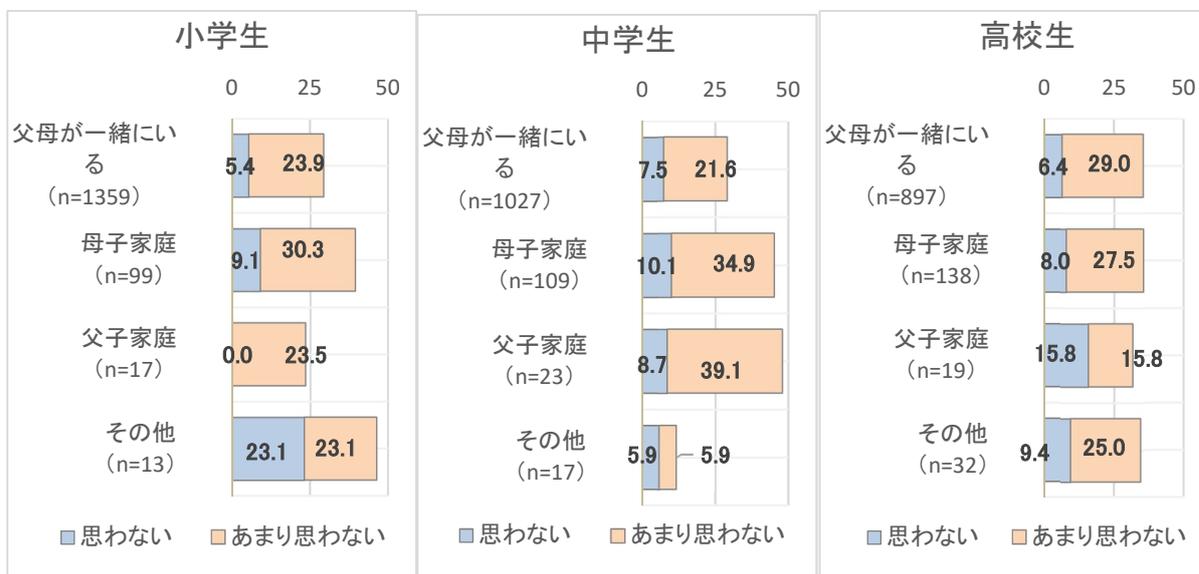
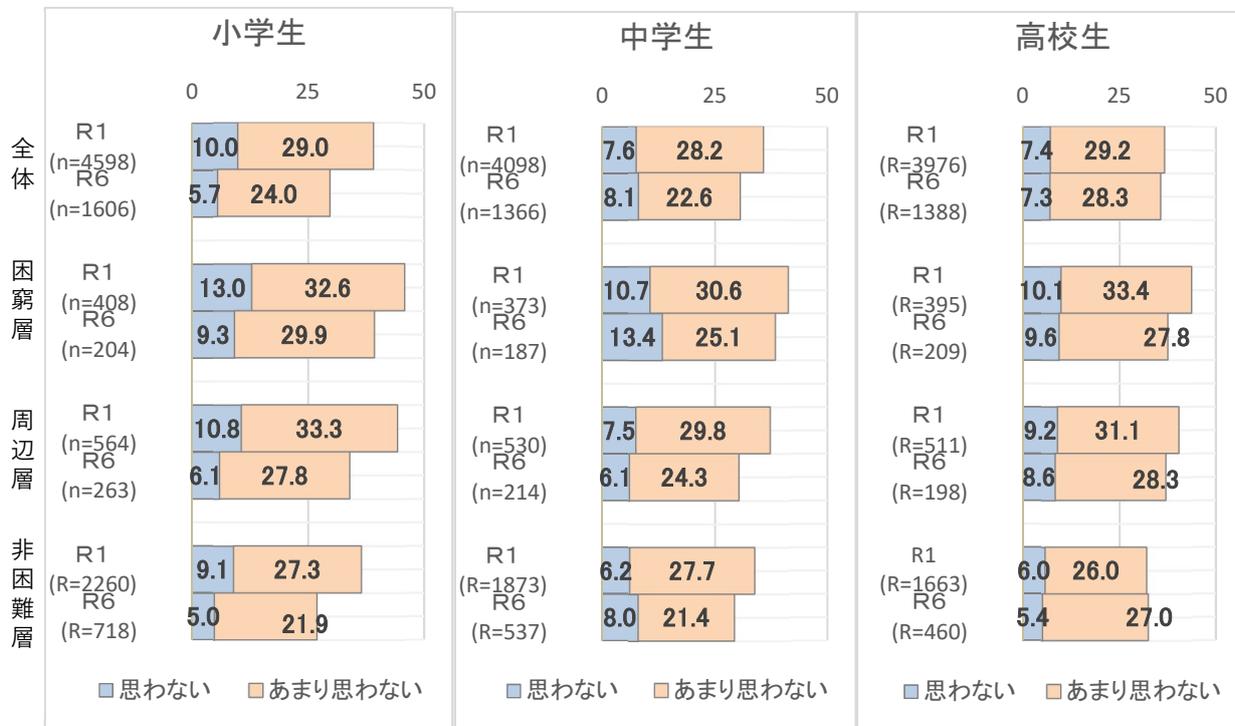
保護者(全)



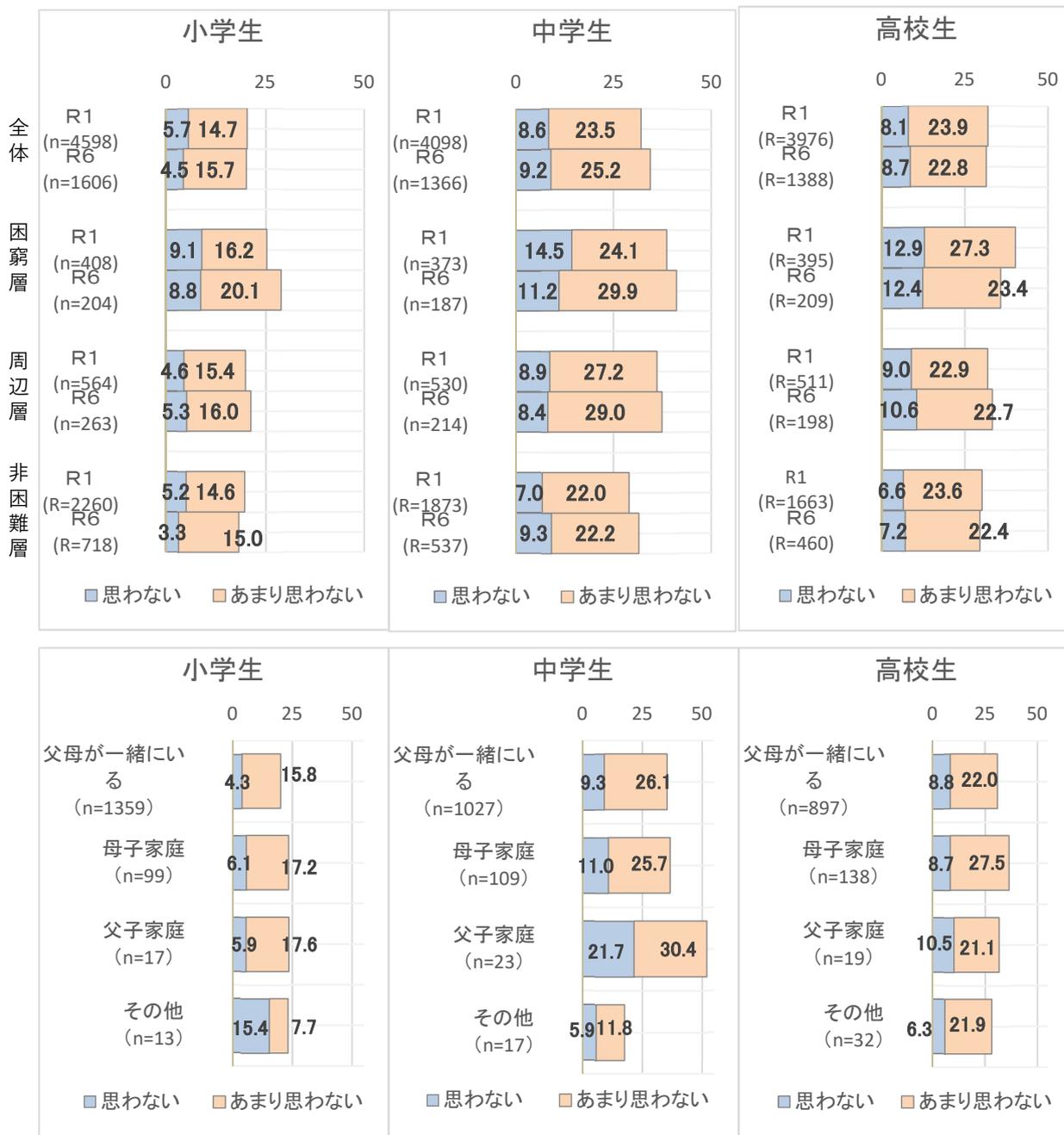
(4) 子どもの自己肯定感

●子どもの自己肯定感を、「自分は価値のある人間だ」「自分の将来が楽しみだ」の問いでみると、生活困難層は非生活困難層に比べ「思わない」「あまり思わない」割合が高くなっている。

① 自分は価値のある人間だ



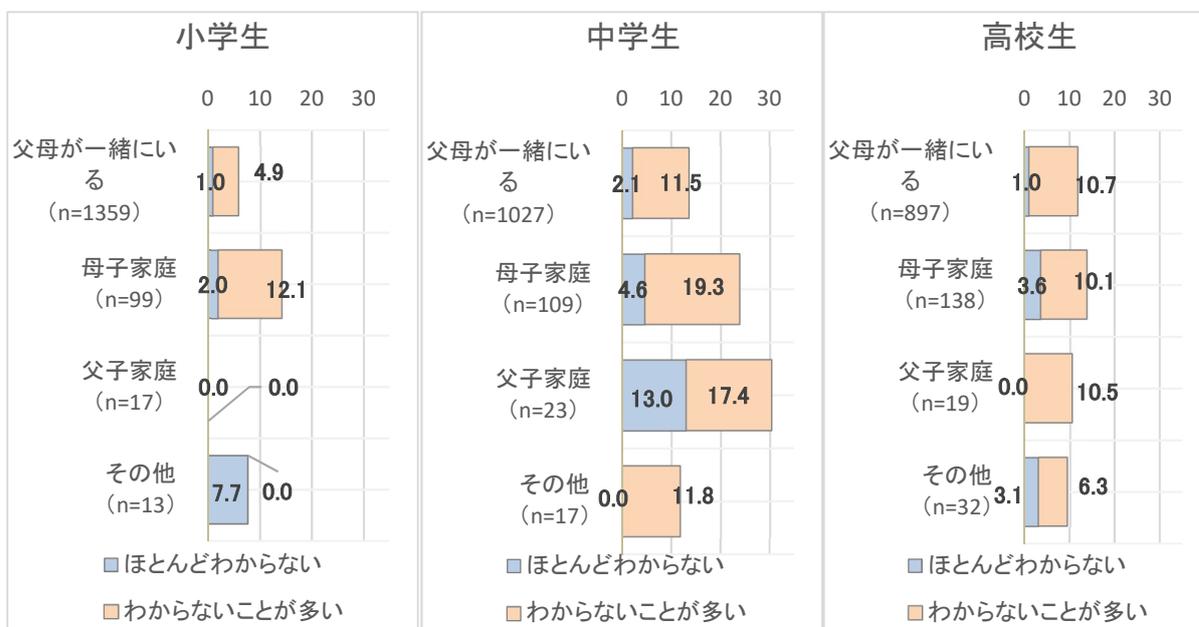
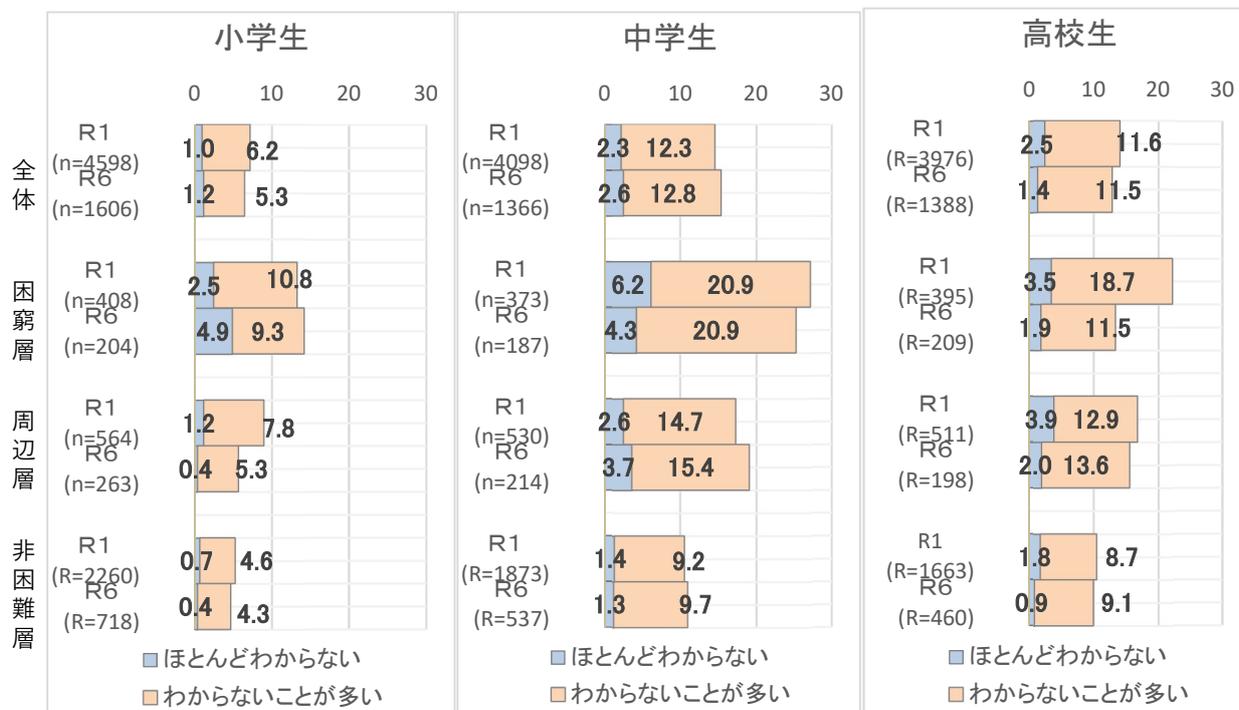
② 自分の将来が楽しみだ



(5) 子どもの学びの状況

- 子どもの学びの状況を、「勉強の理解度」でみると、「ほとんどわからない」「わからないことが多い」と回答した子どもは、各層で一定数いるが、生活困難層は非生活困難層を比べ、その割合が高くなっている。
- 世帯状況別にみると、「ほとんどわからない」「わからないことが多い」と回答した割合は、小学生では母子家庭で、中学生では母子家庭と父子家庭で高くなっている。

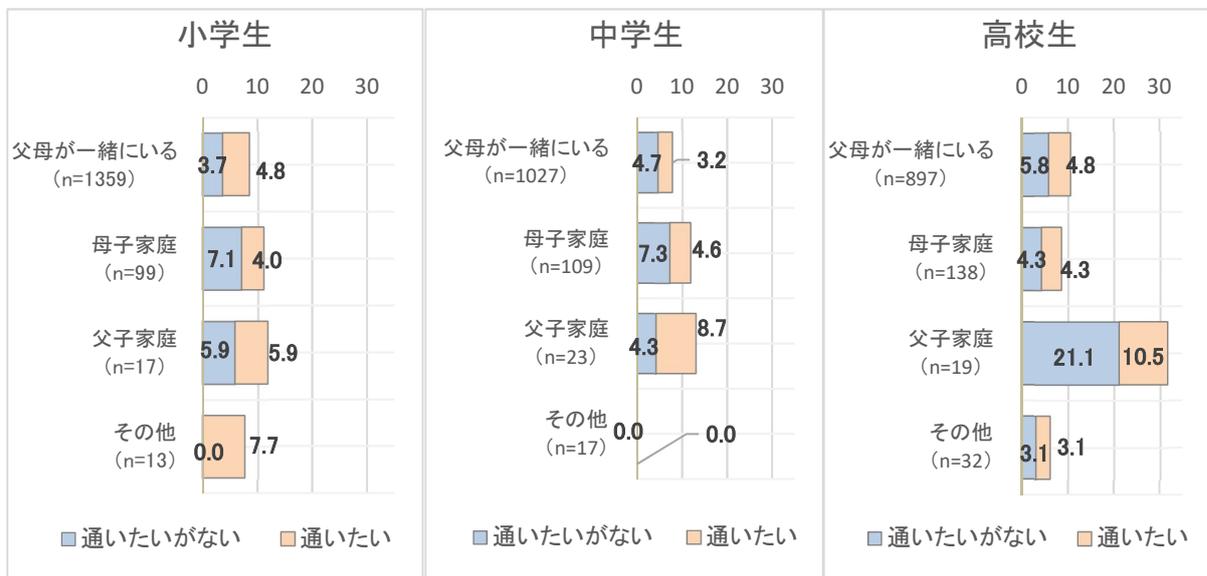
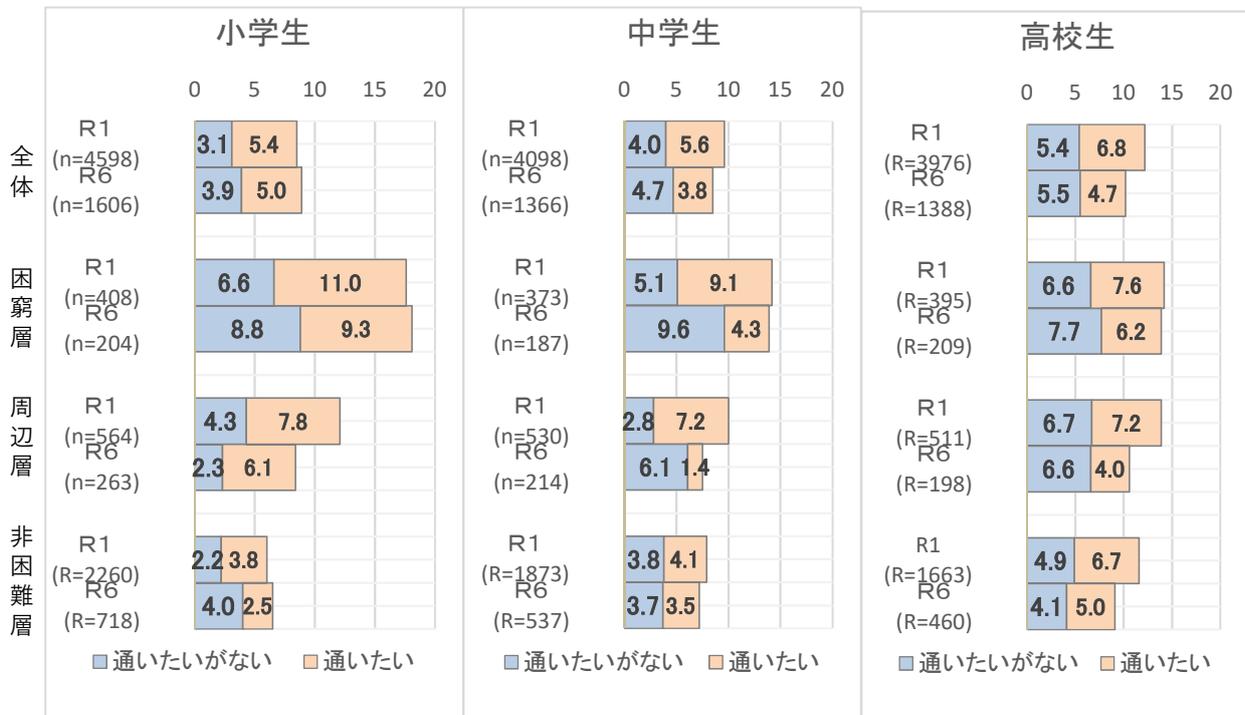
① 勉強の理解度



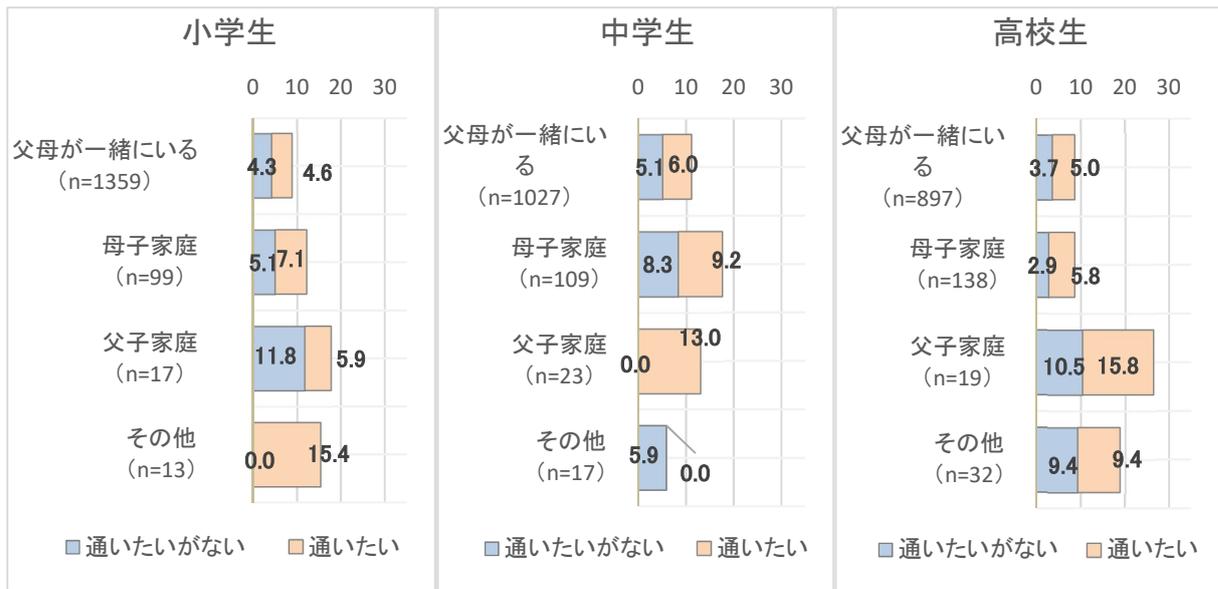
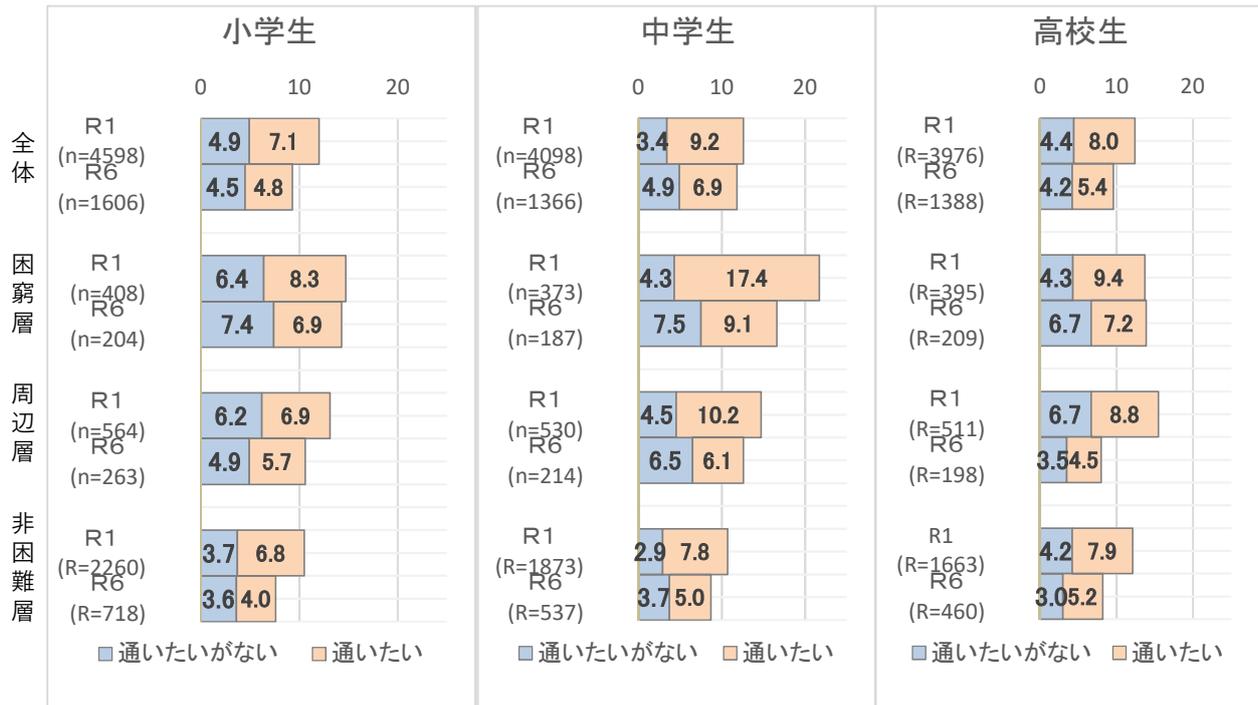
② 学校以外での学び

- 生活困難層は、非生活困難層に比べて、習いごと、学習塾（家庭教師を含む）に「通いたくない」「通いたい（現在通っていない）」と回答した割合が高くなっている。
- 世帯状況別に見ると、母子家庭や父子家庭で比較的高くなっている。

○習い事



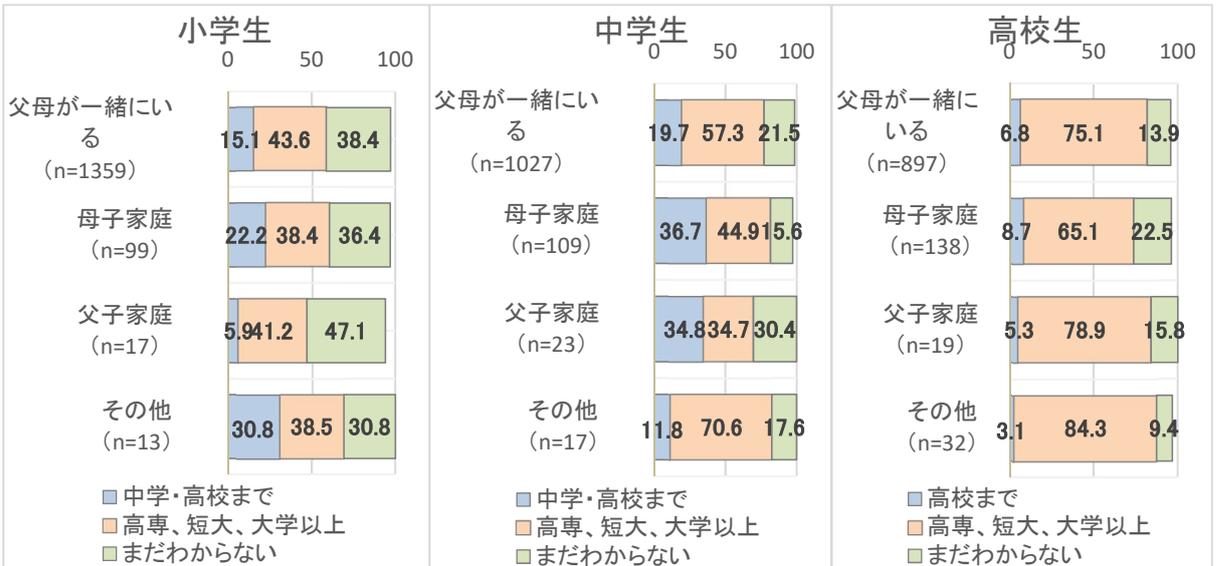
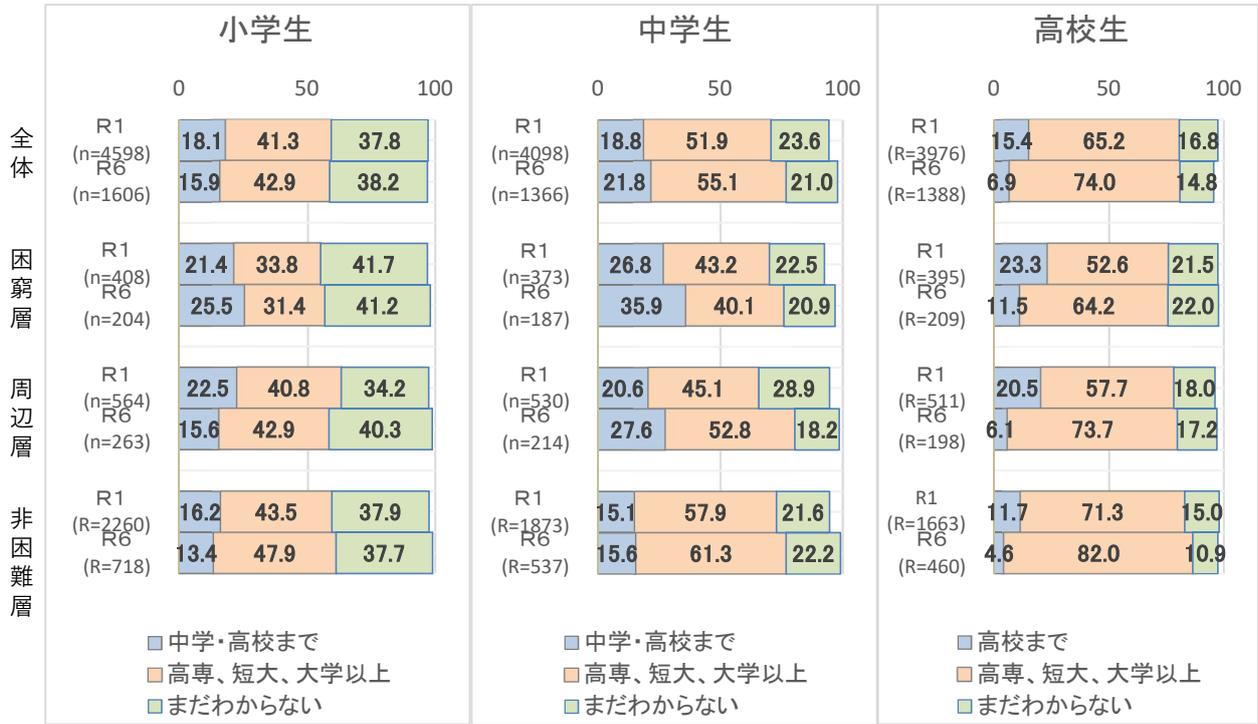
○学習塾や家庭教師（通信教育も含む）



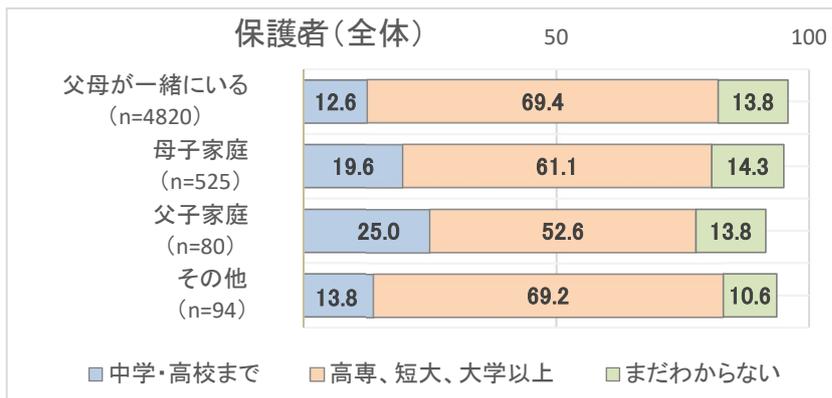
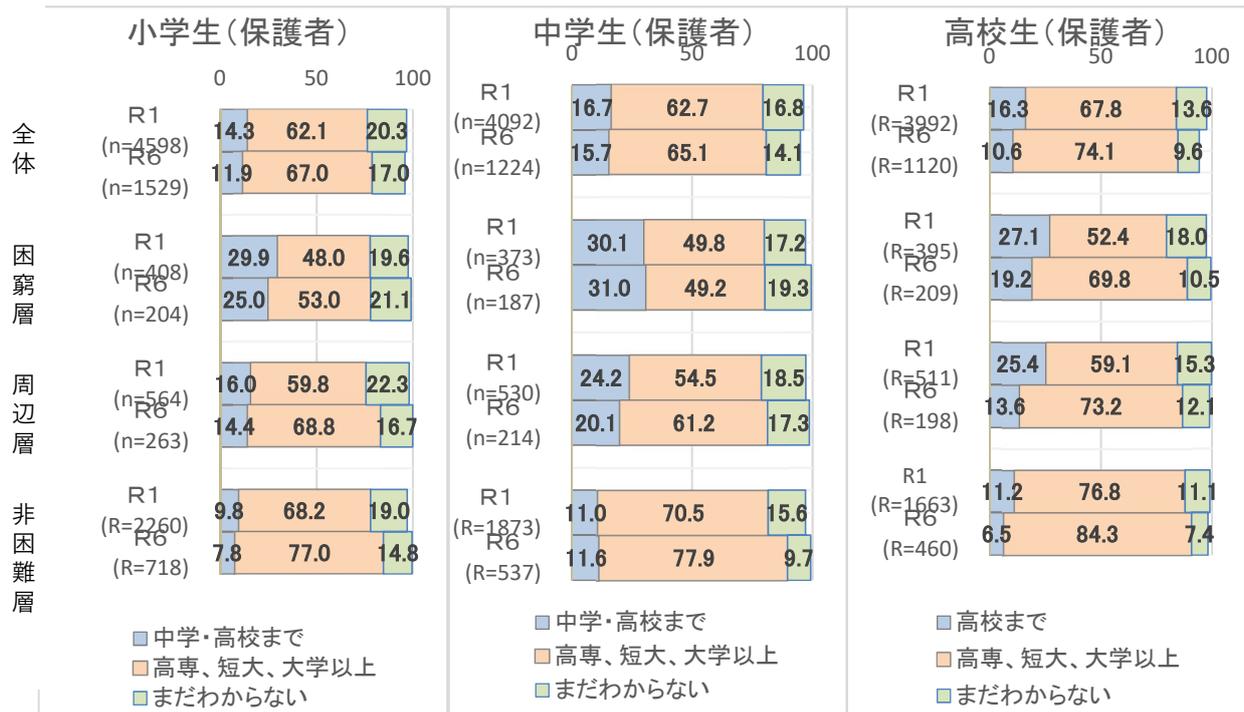
③ 進路希望（子ども、保護者）

- 「進路希望」をみると、生活困難層は非生活困難層に比べ「中学・高校まで」の割合が子ども、保護者の両方で高くなっている。
- 保護者の回答を世帯状況別に見ると、母子家庭や父子家庭で高くなっている。
- 進路を考える時期となる高校2年生で、進路希望を「まだわからない」と回答した子どもの割合は、母子家庭の子どもで最も高かった。

○児童・生徒に聞いた希望する進学段階



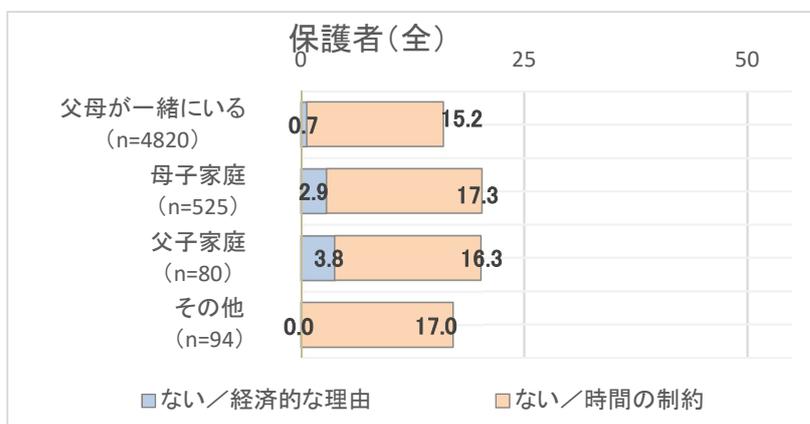
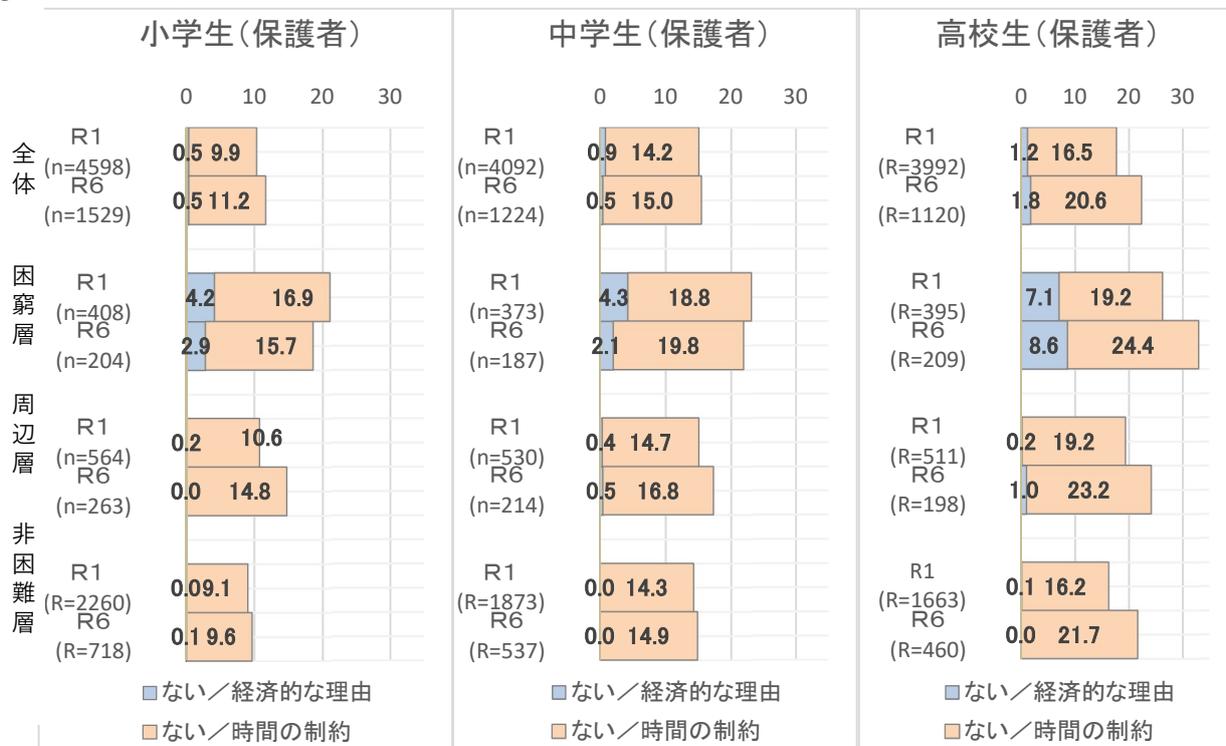
○子どもに受けさせたい教育の段階（保護者）



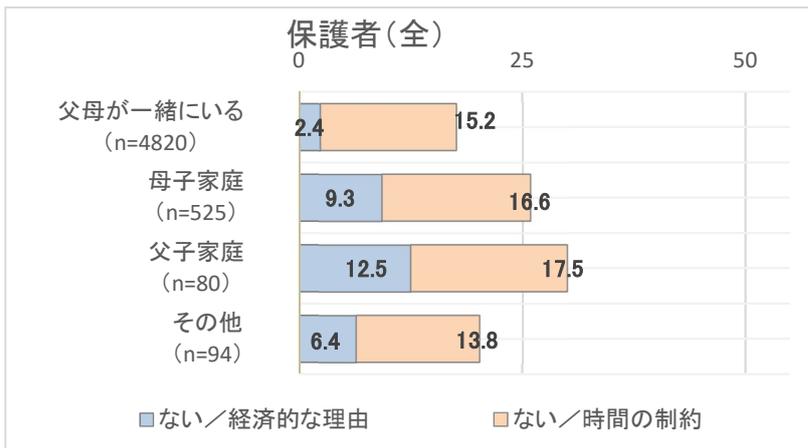
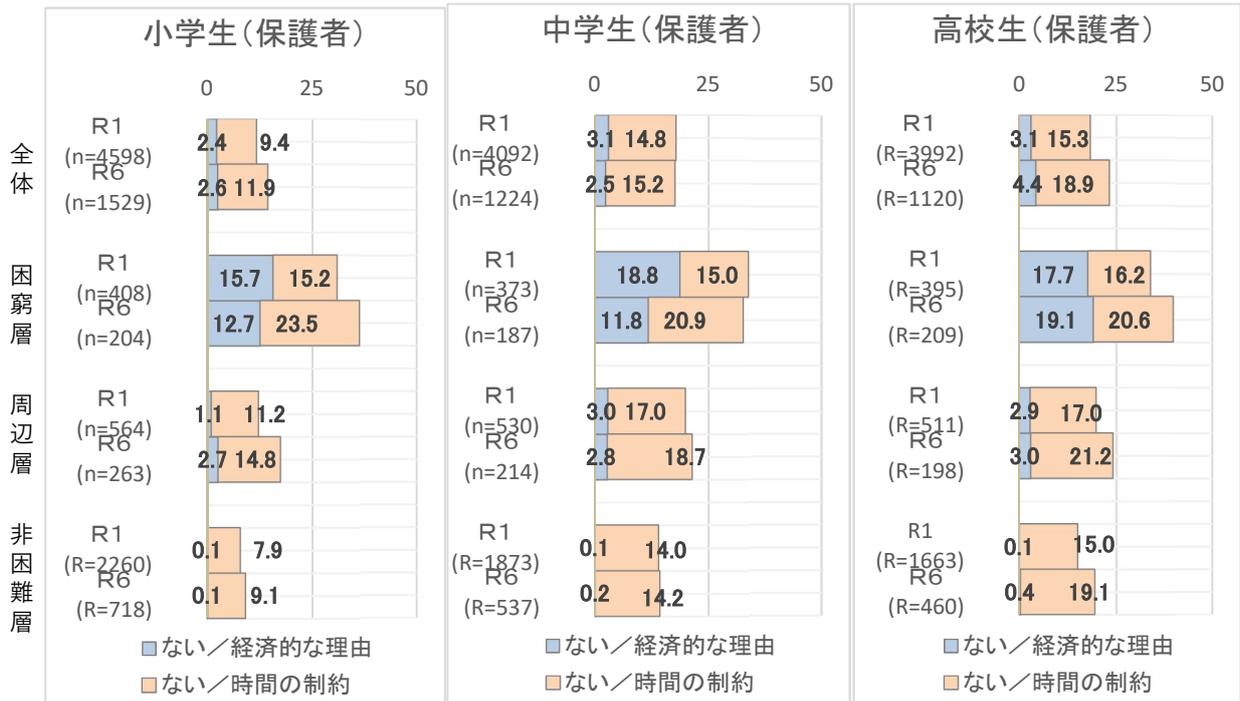
(6) 子どもの体験の機会

- 保護者に聞いた「子どもの体験の機会」では、生活困難層は非生活困難層に比べて、「ない」と回答した割合が高い傾向となっている。
- 世帯状況別にみると、母子家庭、父子家庭で「ない」と回答した割合が高くなっている。

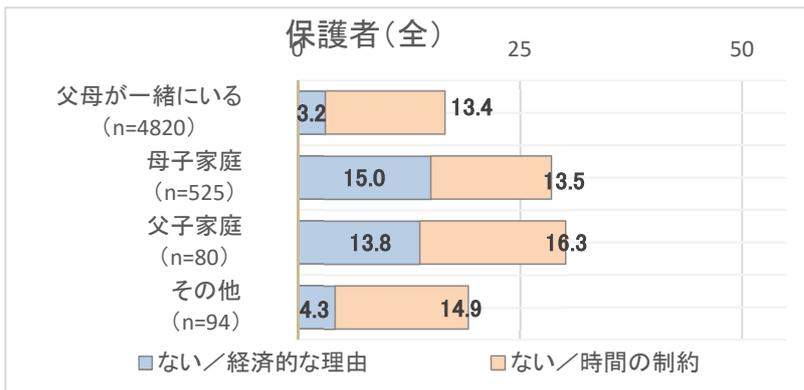
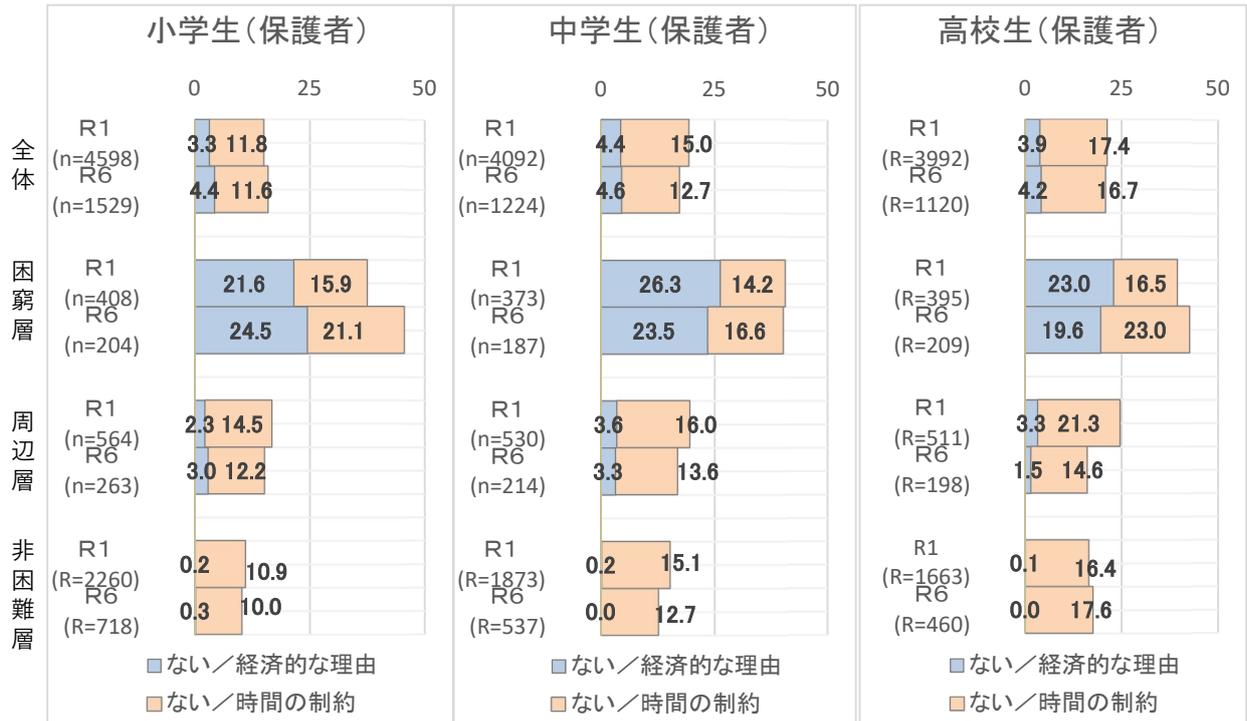
① 海水浴に行く



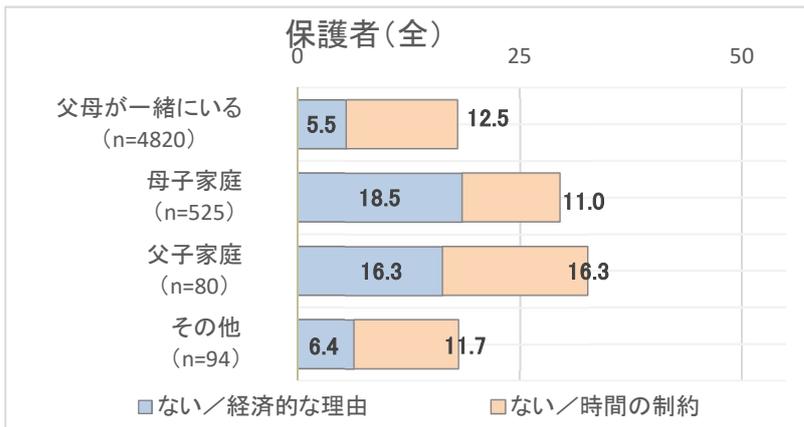
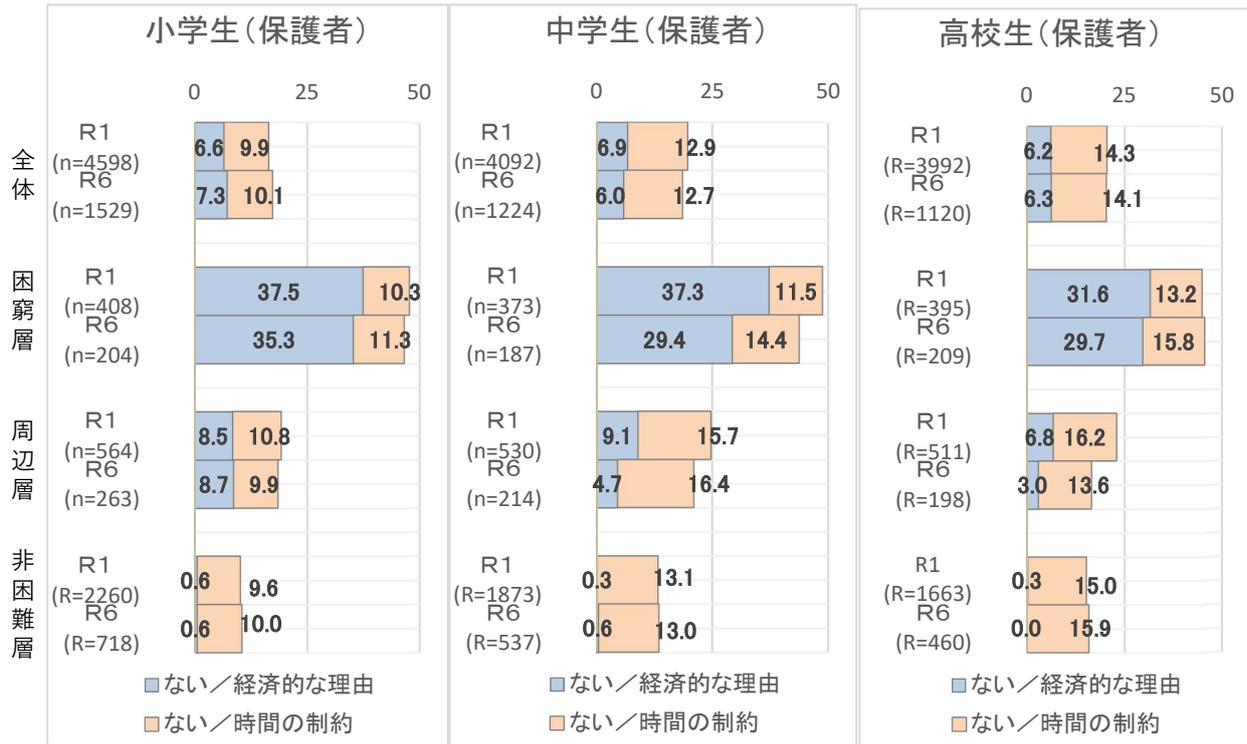
② 博物館・科学館・美術館などに行く



③ キャンプやバーベキューに行く



④ スポーツ観戦や劇場に行く

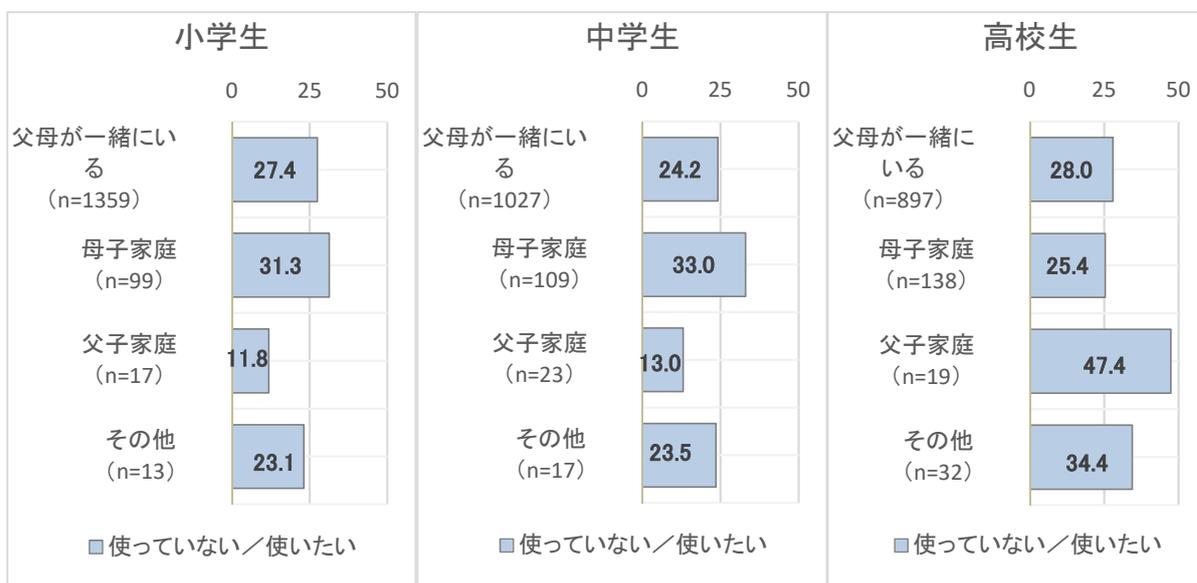
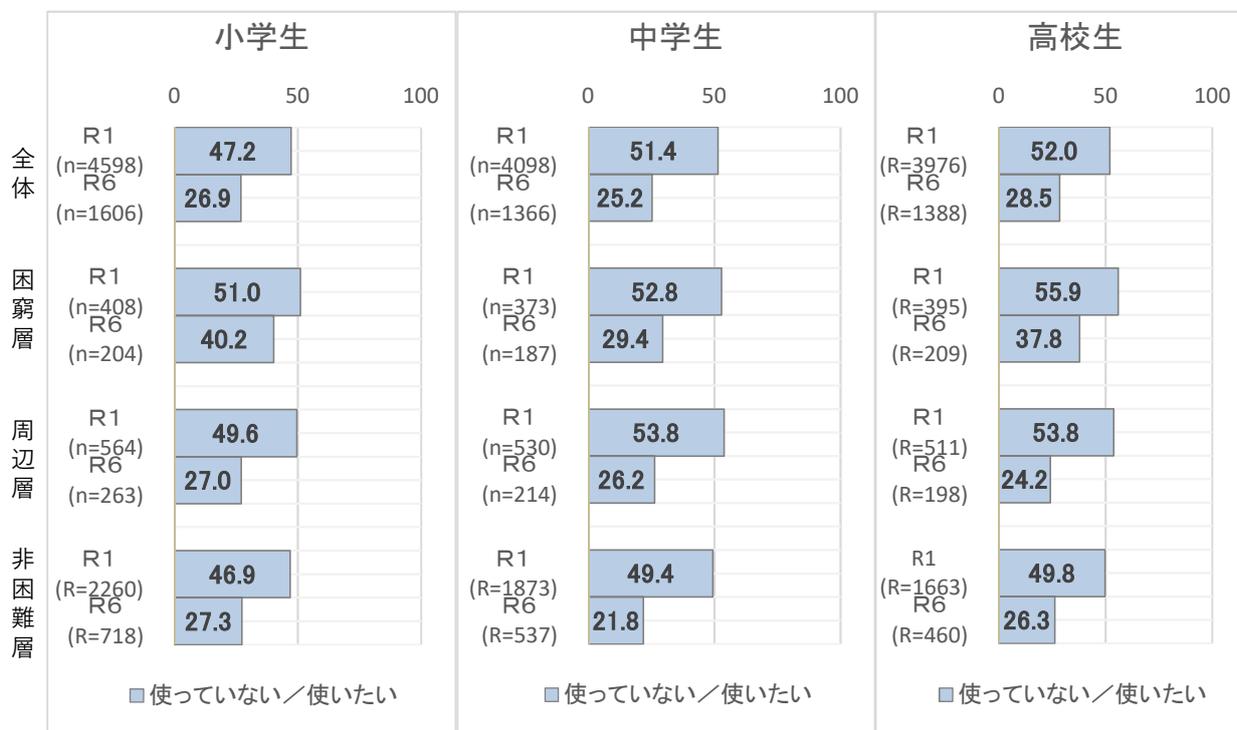


(7) 利用したいサービス

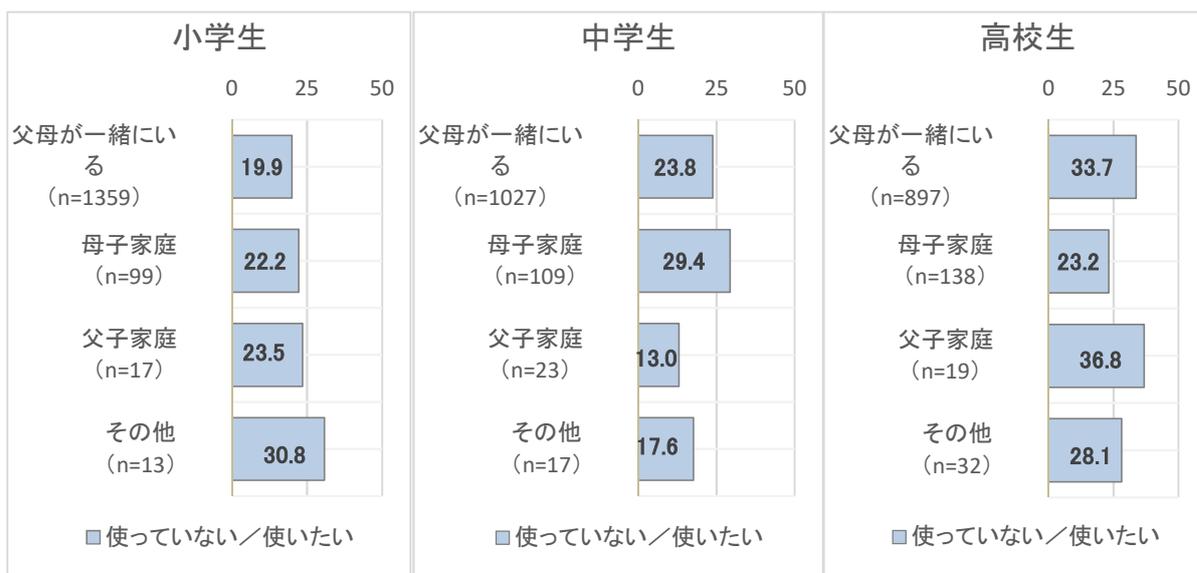
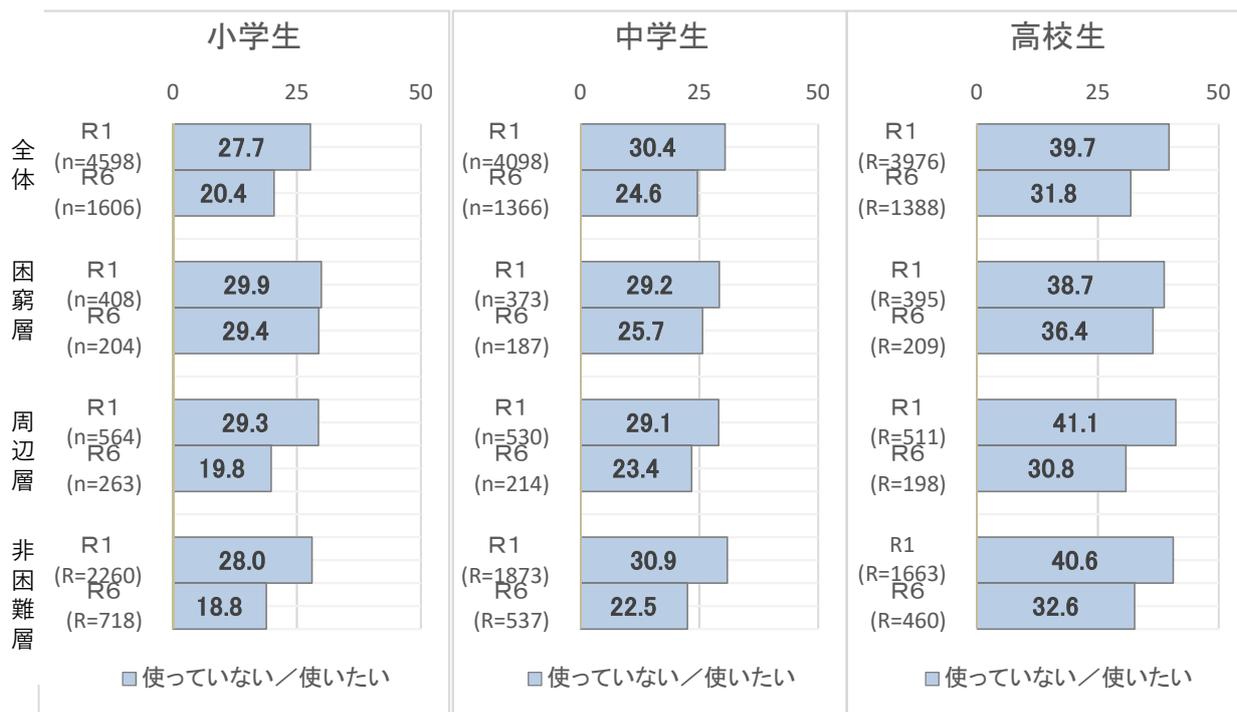
- 「無料か低額で子どもだけで安心してご飯を食べに行ける場所への参加意向」「勉強を無料で教えてくれる場所への参加意向」をみると、困窮層の子どもはその他の層の子どもに比べて、「現在使っていないが、使いたい」と回答した割合が高くなっている。
- 保護者の回答では、生活困窮層は非生活困窮層に比べて、「利用させてみたい」と回答した割合が高くなっている。
- 世帯状況別にみると、母子家庭の保護者で「無料か低額で子どもだけで安心してご飯を食べに行ける場所」を「利用させてみたい」と回答した割合が高くなっている。

① 子どもの参加意向

○無料か低額で子どもだけで安心してご飯を食べに行ける場所

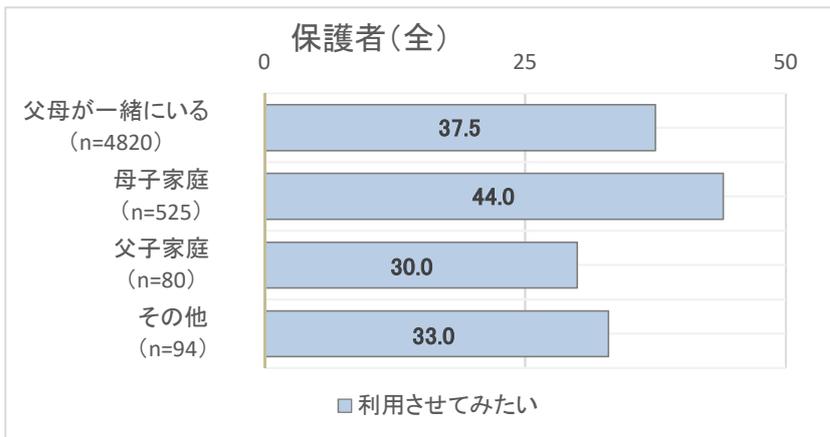
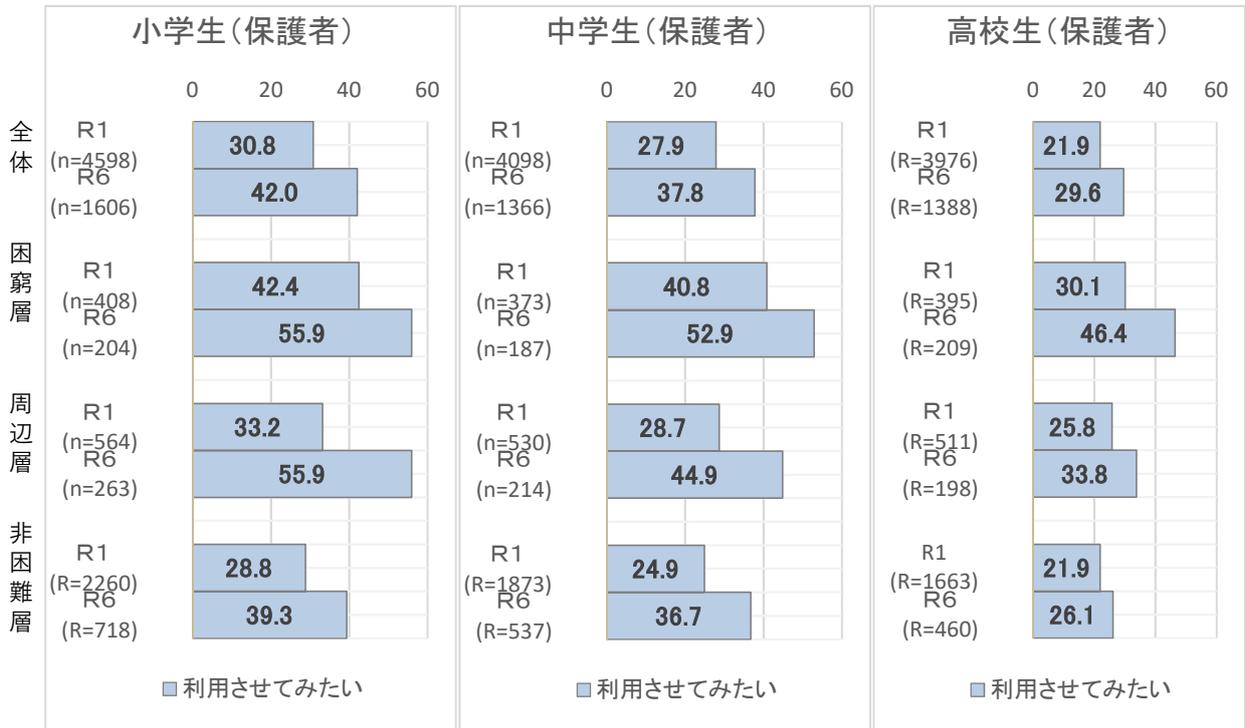


○無料又は低料金で、勉強を教えてくれる場所

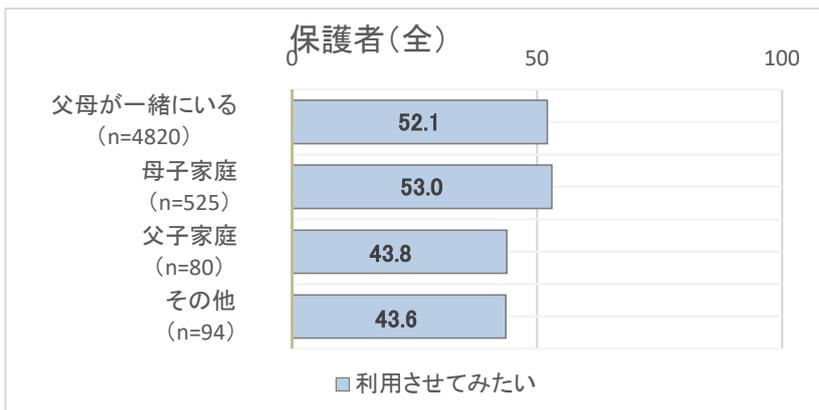
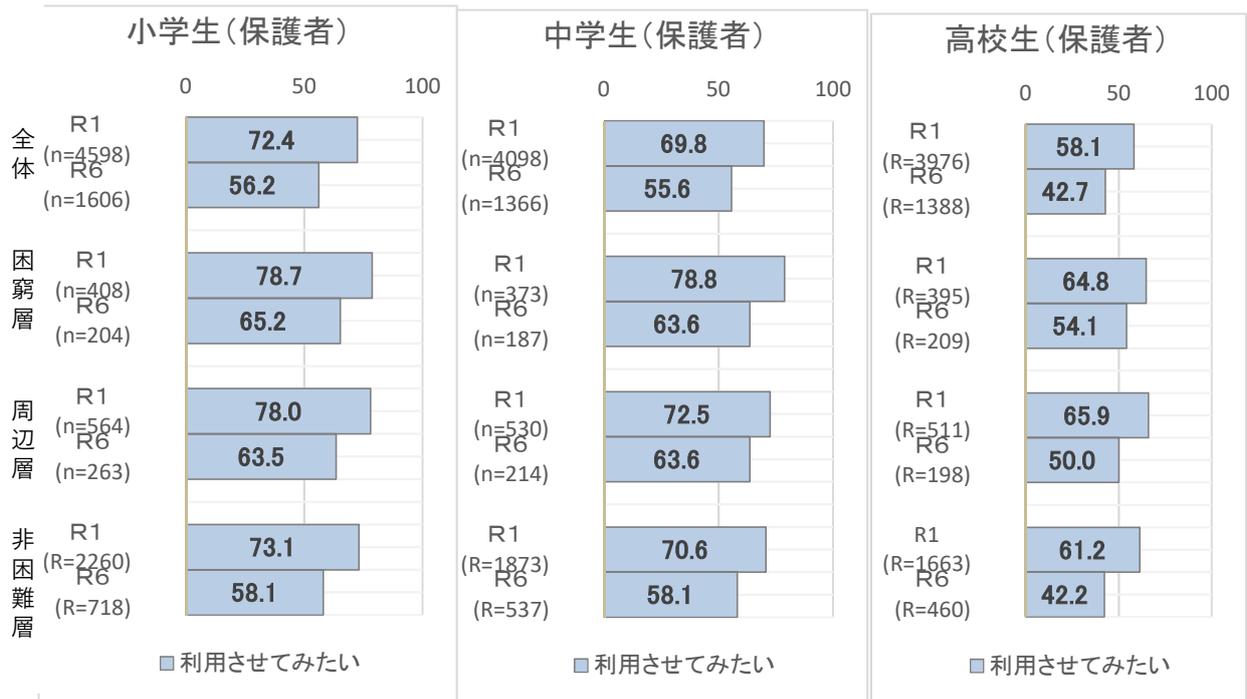


② 保護者の意向

○無料か低額で子どもだけで安心してご飯を食べに行ける場所（子ども食堂など）



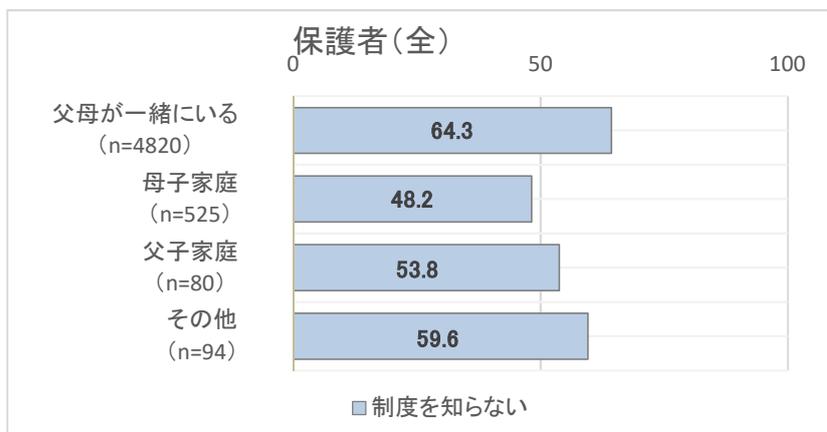
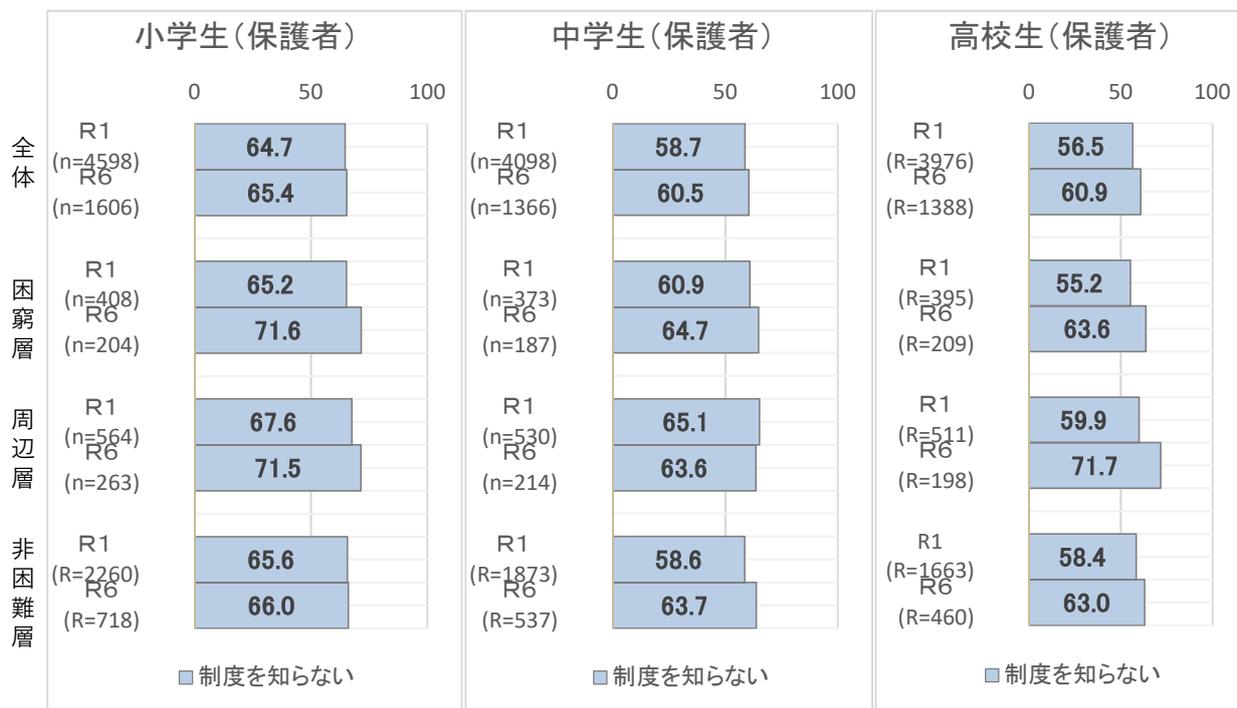
○無料または低料金で勉強を教える場所



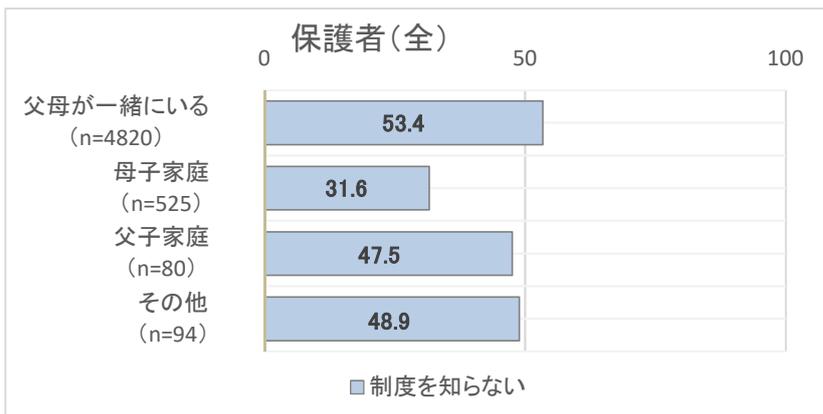
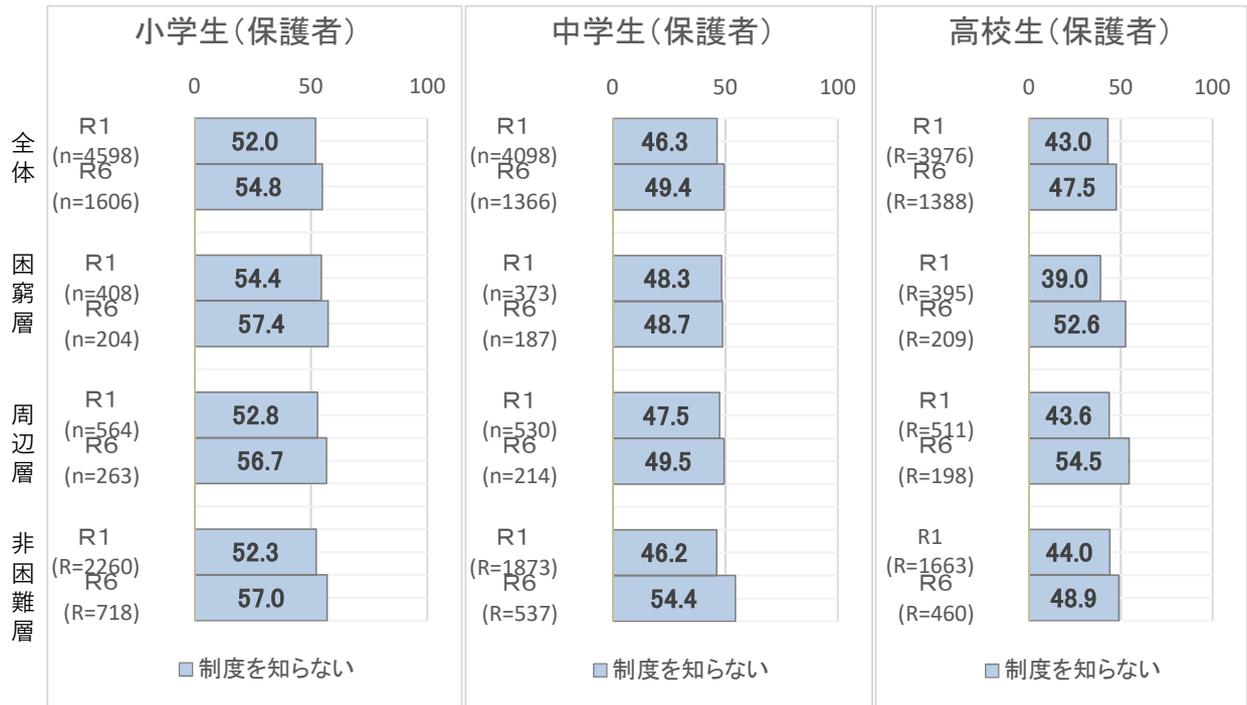
(8) 公的制度、支援サービスの認知状況

●各支援制度の認知状況は、いずれの層でも認知が進んでいない状況が見られる。

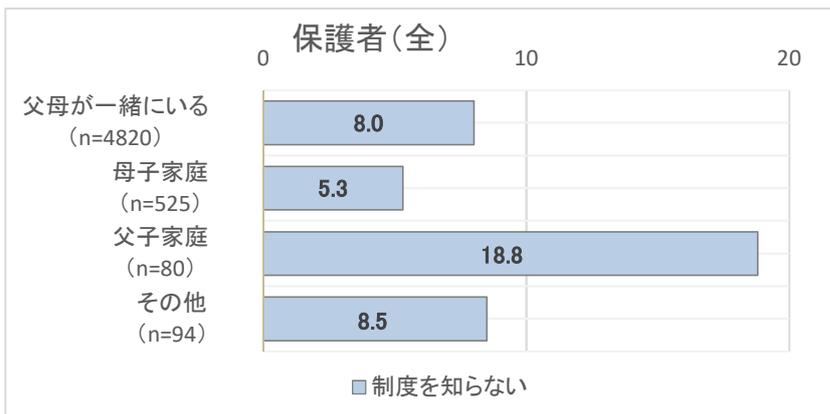
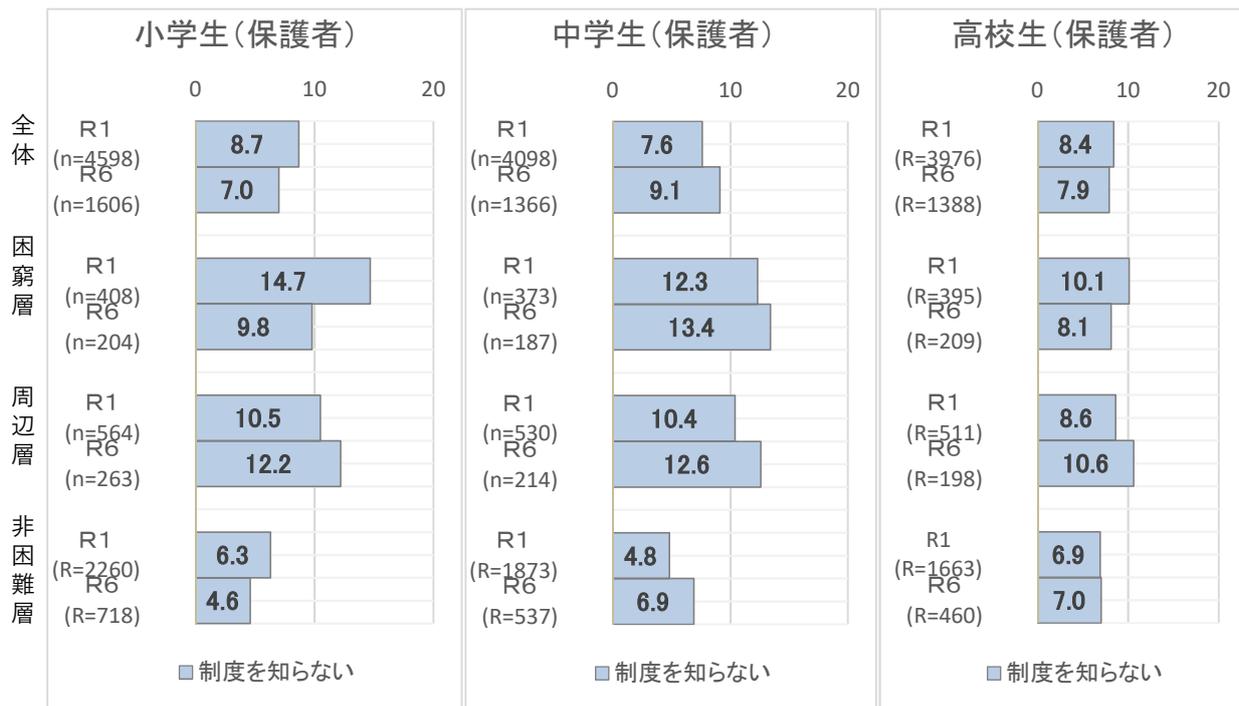
① 生活福祉資金貸付制度



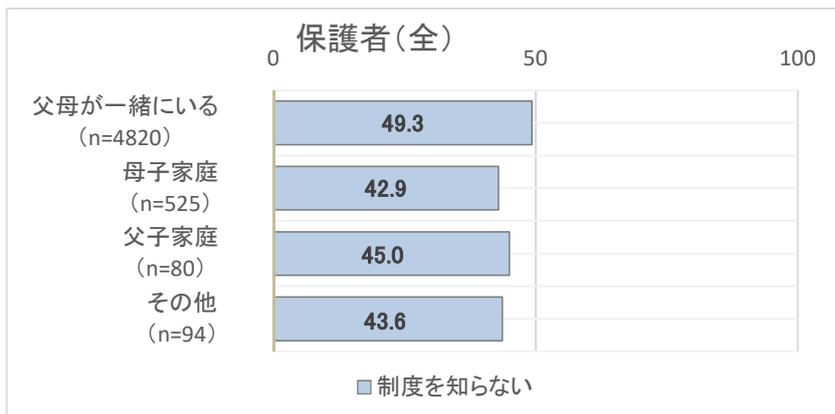
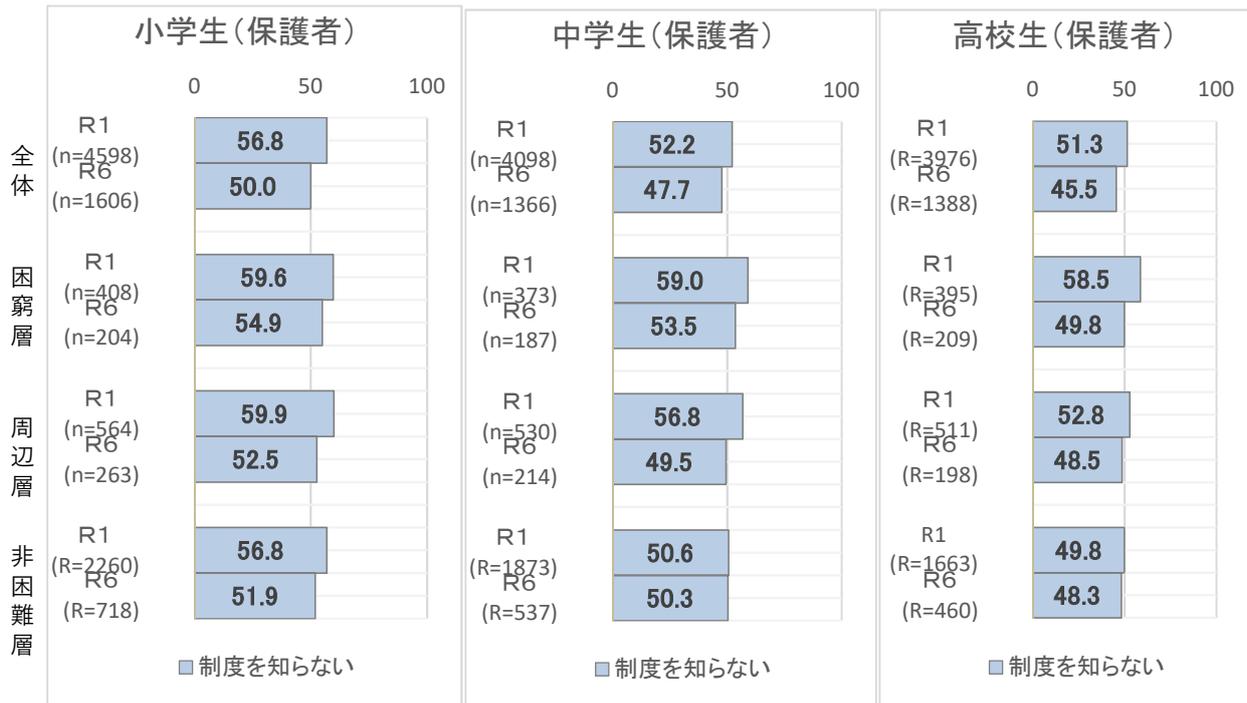
② 母子・父子・寡婦福祉金貸付制度



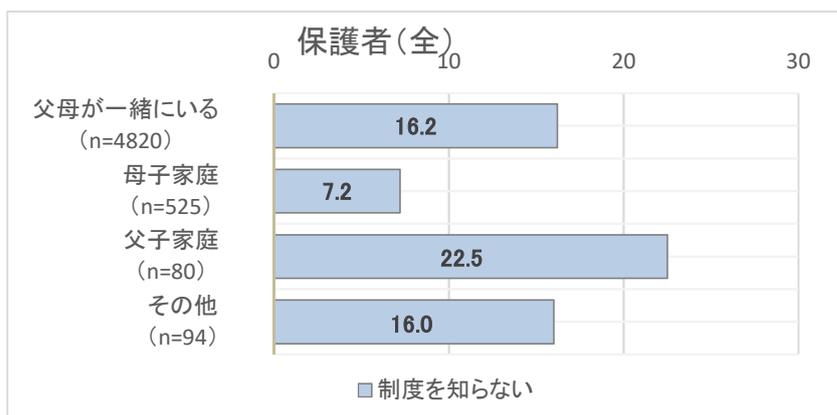
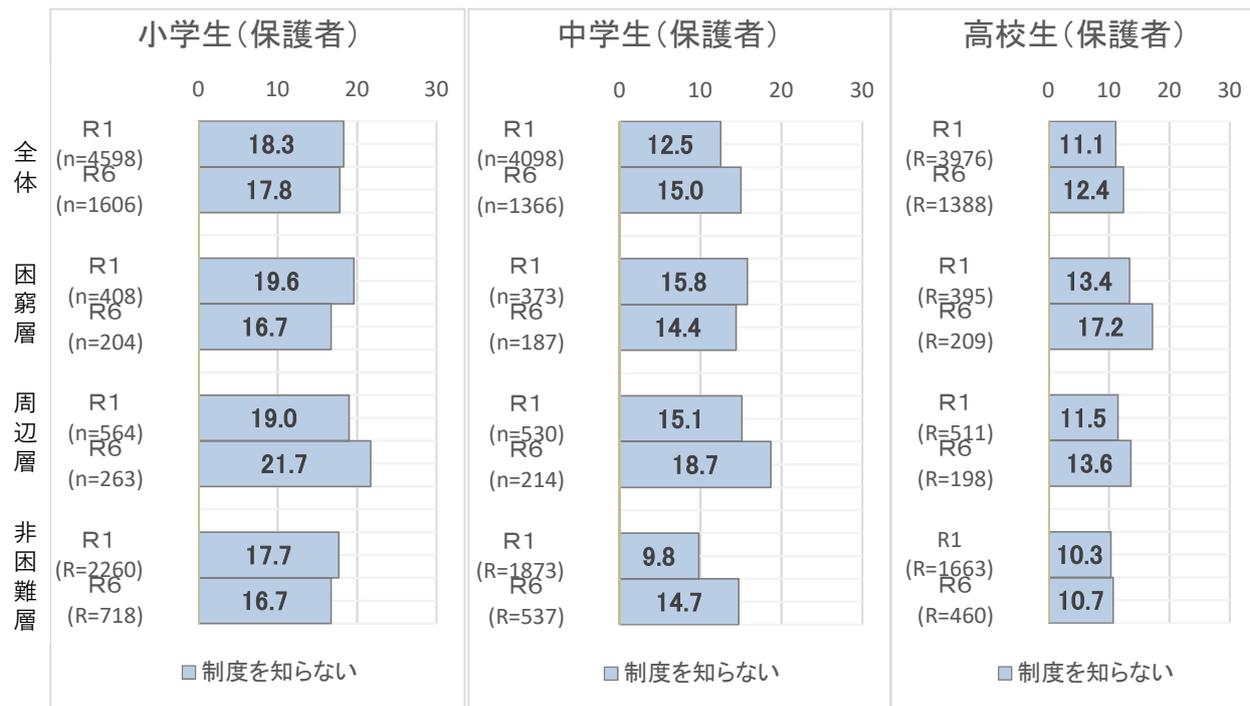
③ 生活保護制度



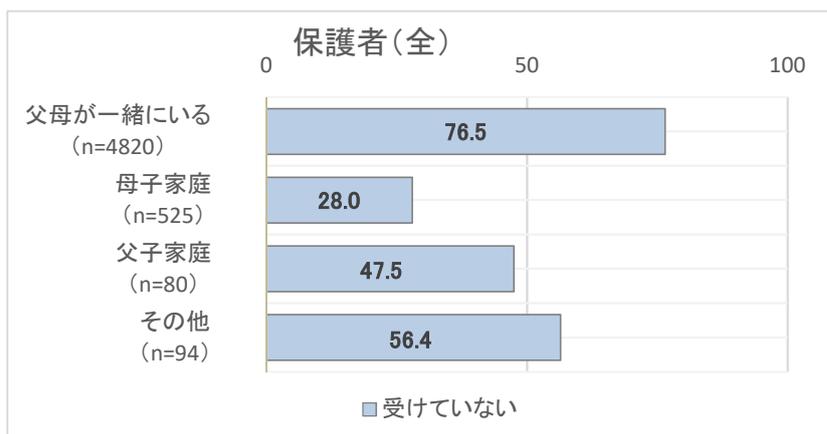
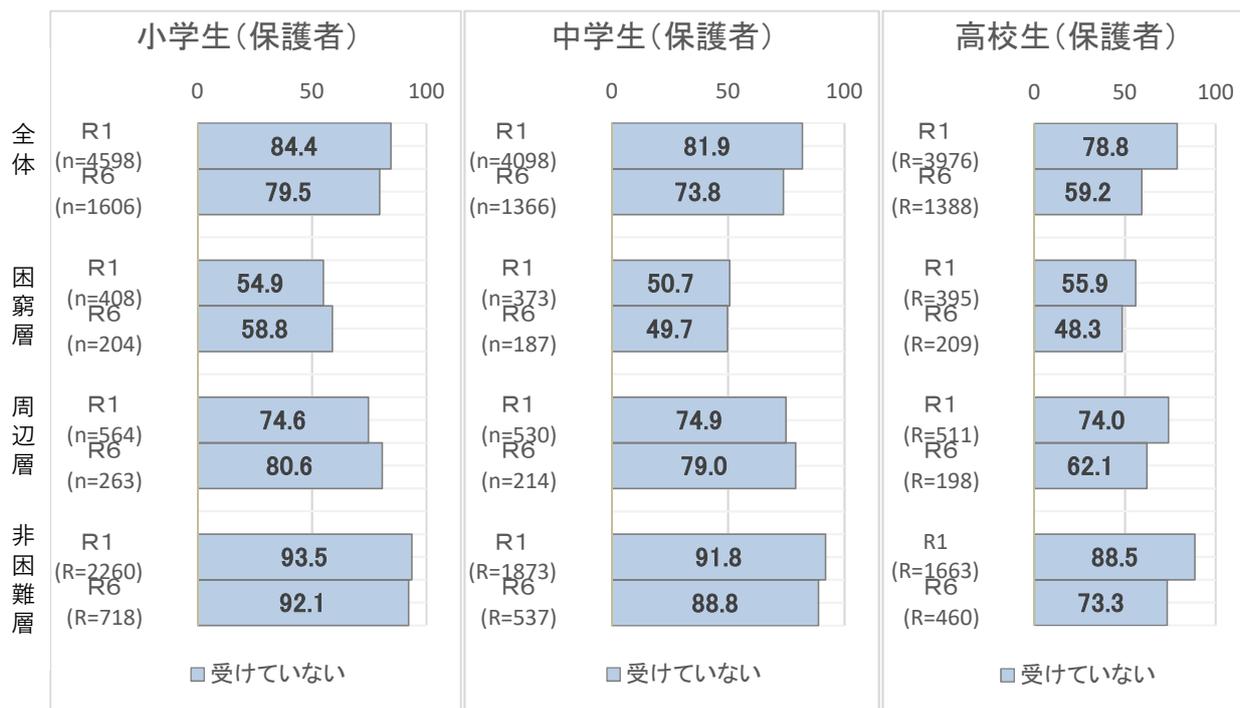
④ 生活困窮者自立支援制度



⑤ 就学援助制度

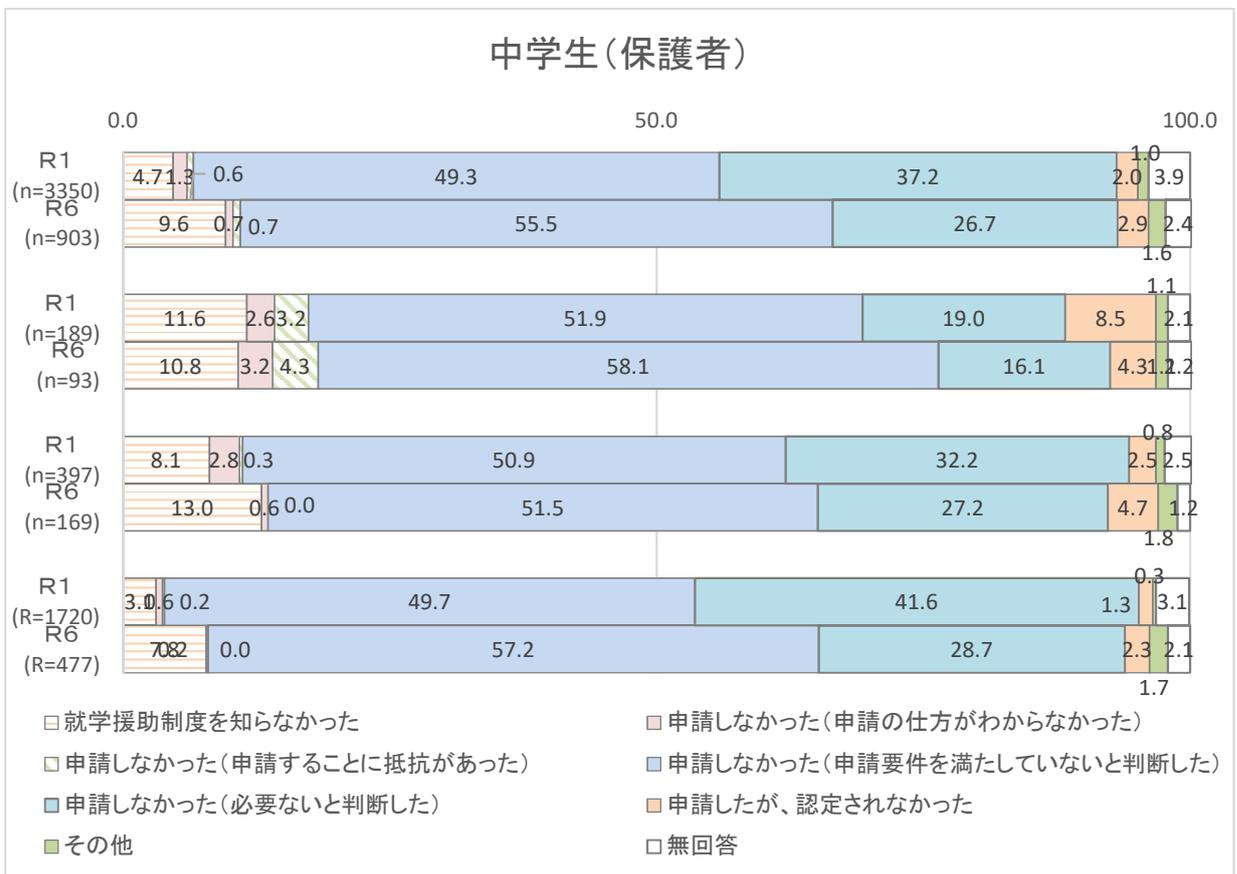
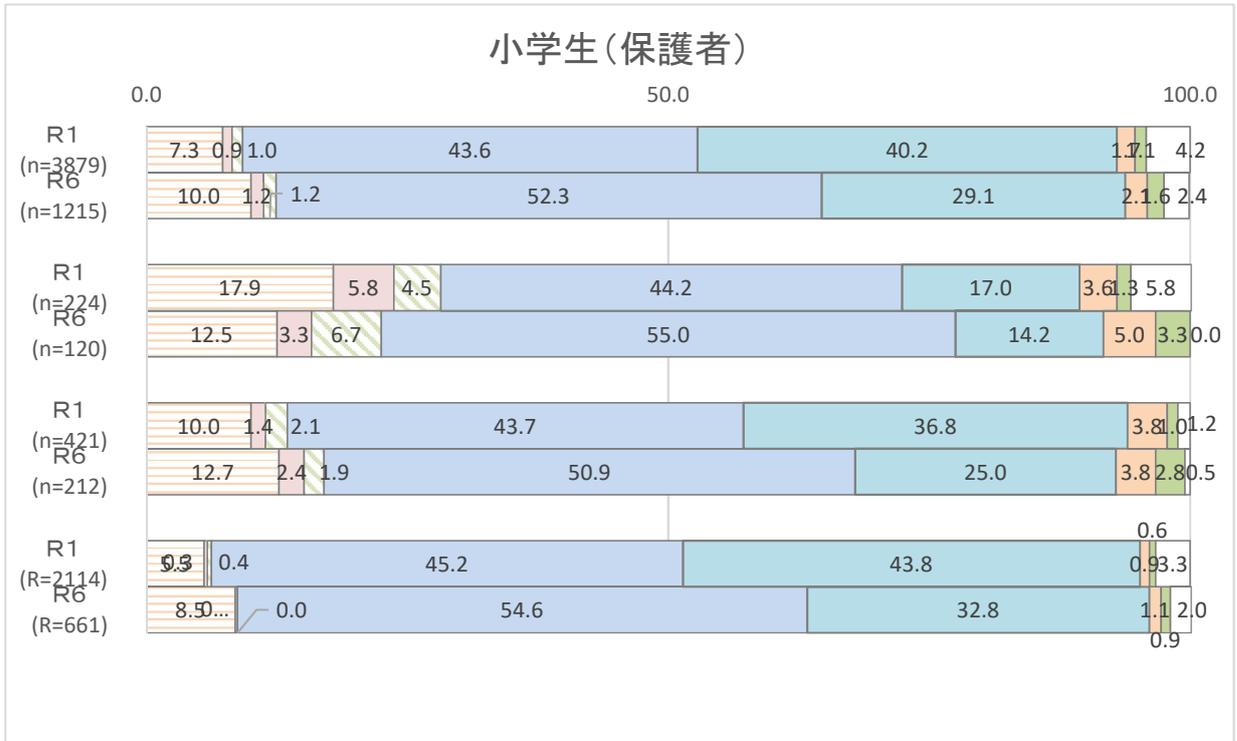


⑥ 就学援助を受けているか



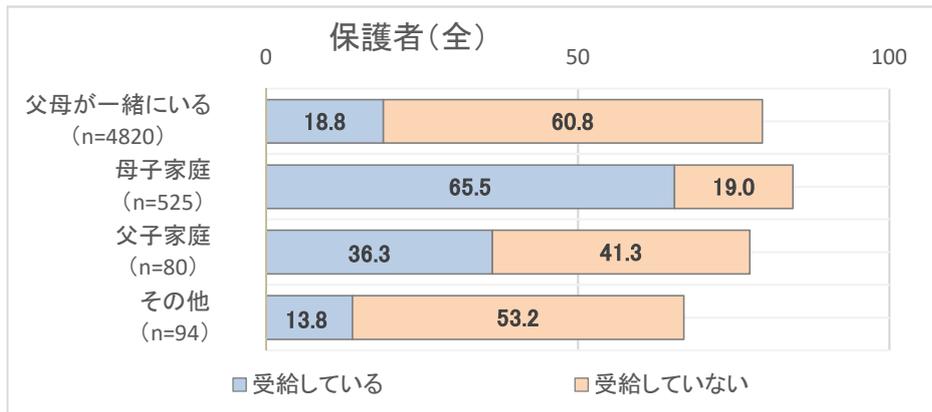
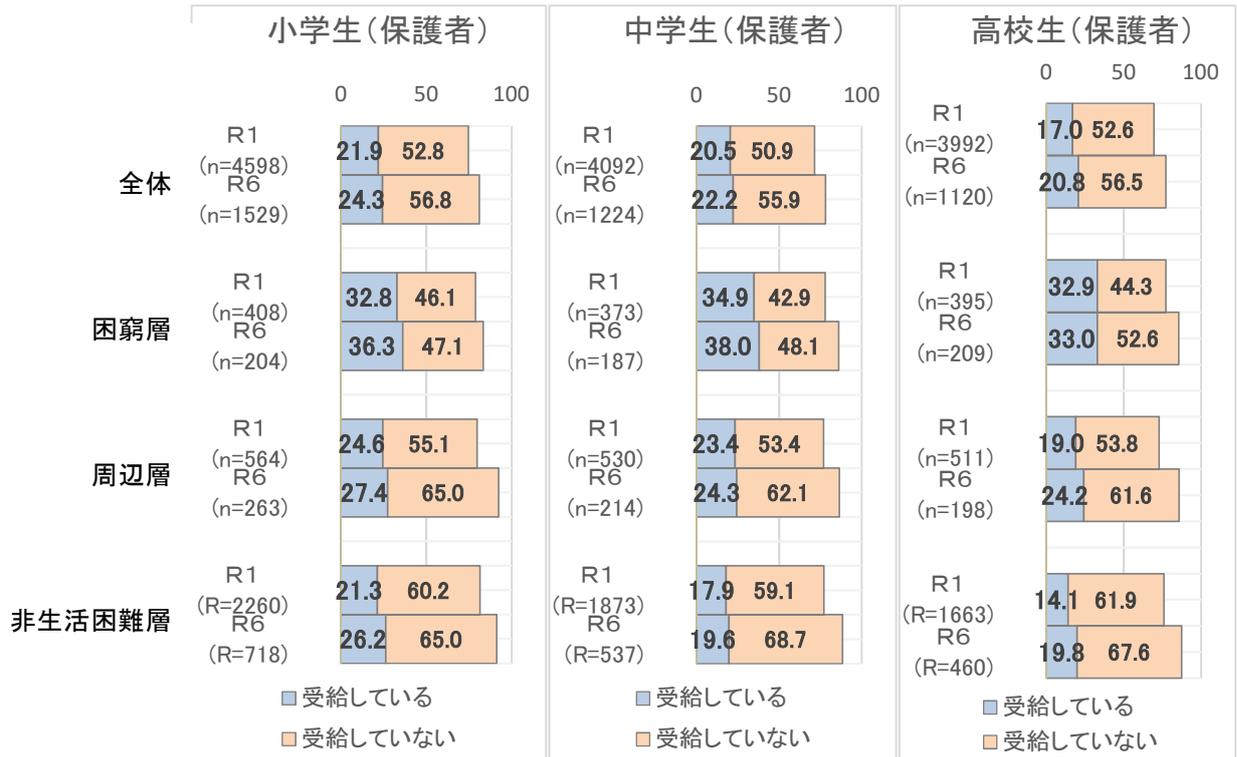
⑦ 就学援助を受けていない理由

●「制度を知らなかった」「申請の仕方がわからなかった」「申請することに抵抗があった」と回答した割合は、困窮層では、小学生保護者で22.5%、中学生保護者で18.3%、周辺層では、小学生保護者で17.0%、中学生保護者で13.6%となっている。



- 就学援助制度を知らなかった
- 申請しなかった(申請することに抵抗があった)
- 申請しなかった(必要ないと判断した)
- その他
- 申請しなかった(申請の仕方がわからなかった)
- 申請しなかった(申請要件を満たしていないと判断した)
- 申請したが、認定されなかった
- 無回答

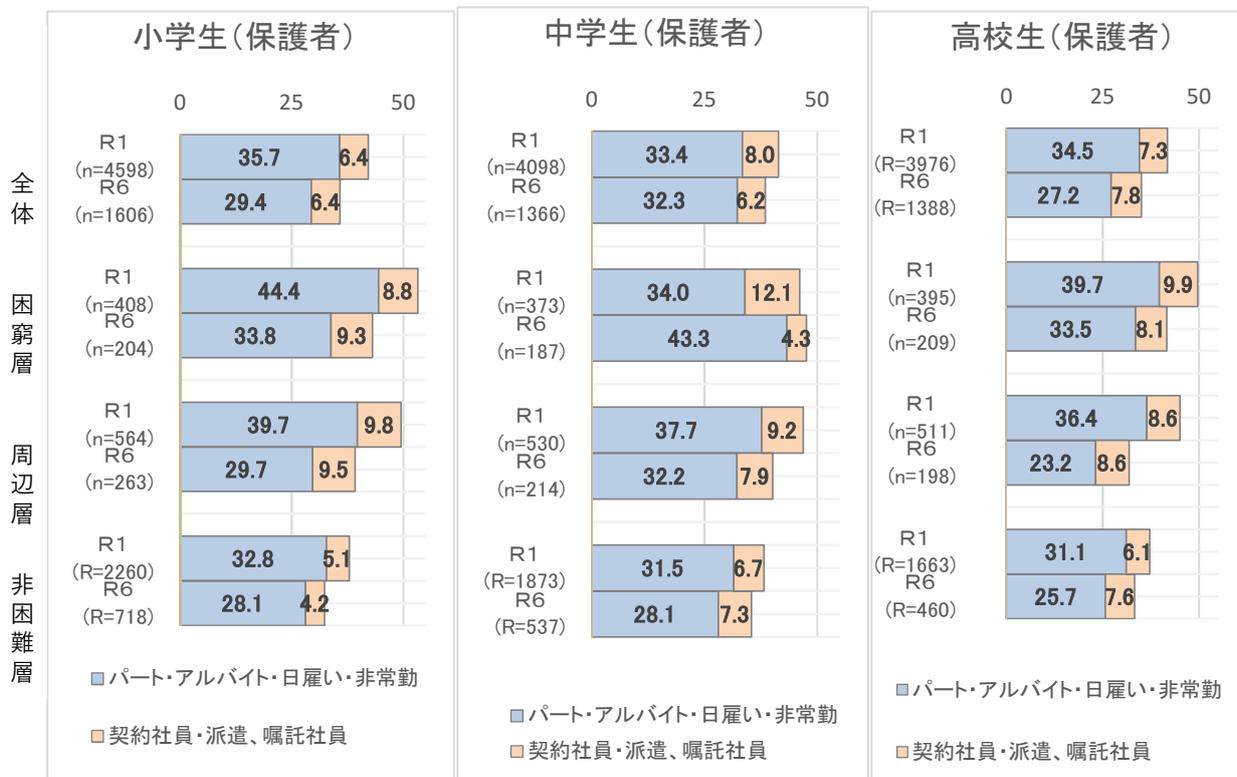
⑧ 児童扶養手当の受給



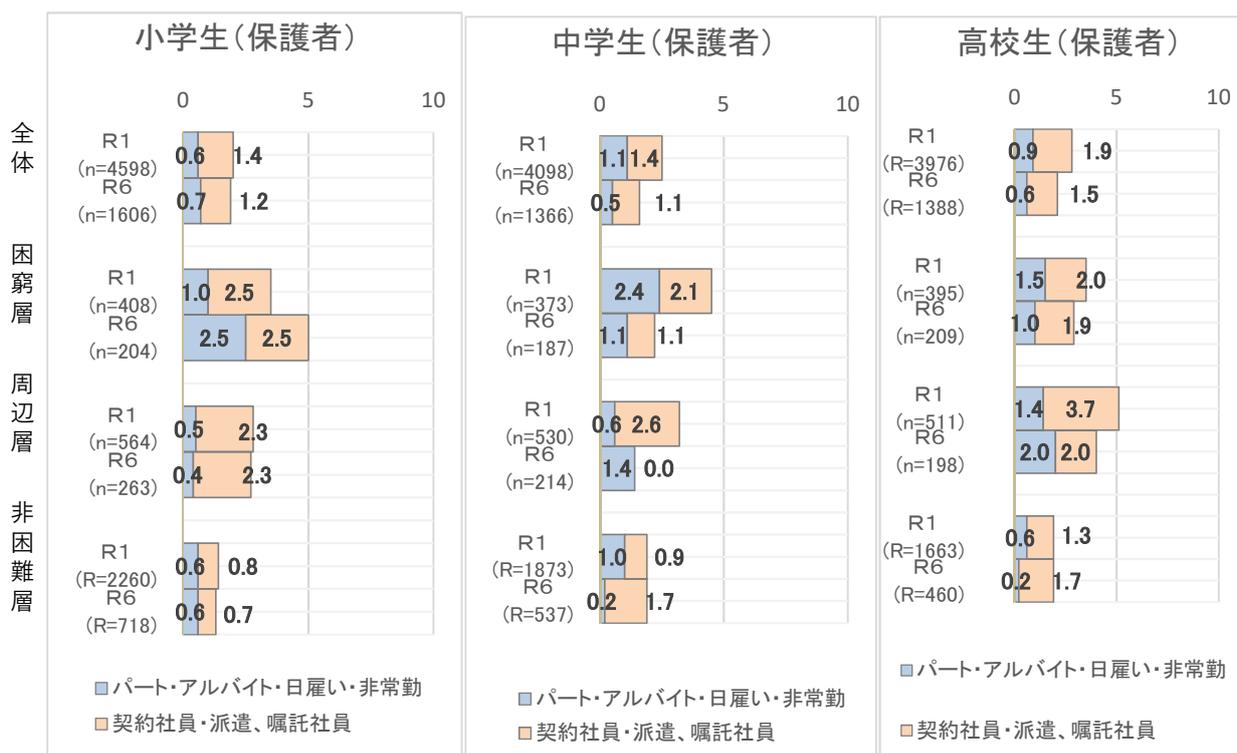
(9) 保護者の就労状況

- 保護者の雇用形態をみると、母親、父親のいずれも生活困難層は非生活困難層に比べ非常勤雇用が多くなっている。
- 夫婦の共働き率は、小学生と中学生の保護者で約8割であり、高校生の保護者も7割を超えている。

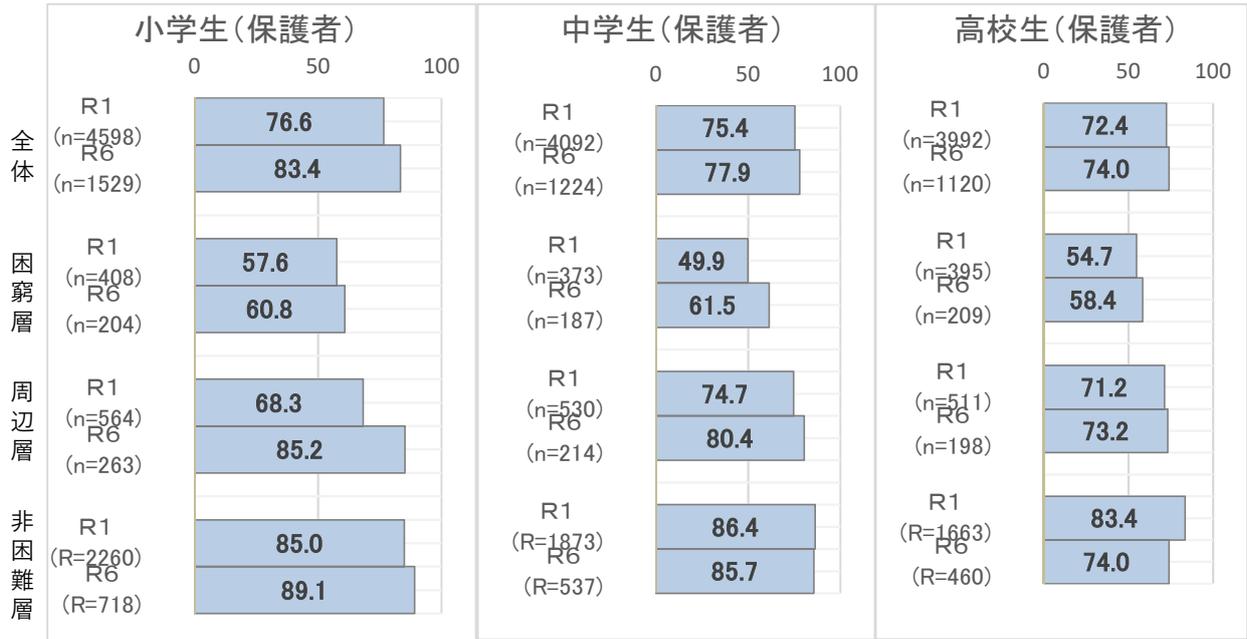
① 母親の雇用形態



② 父親の雇用形態



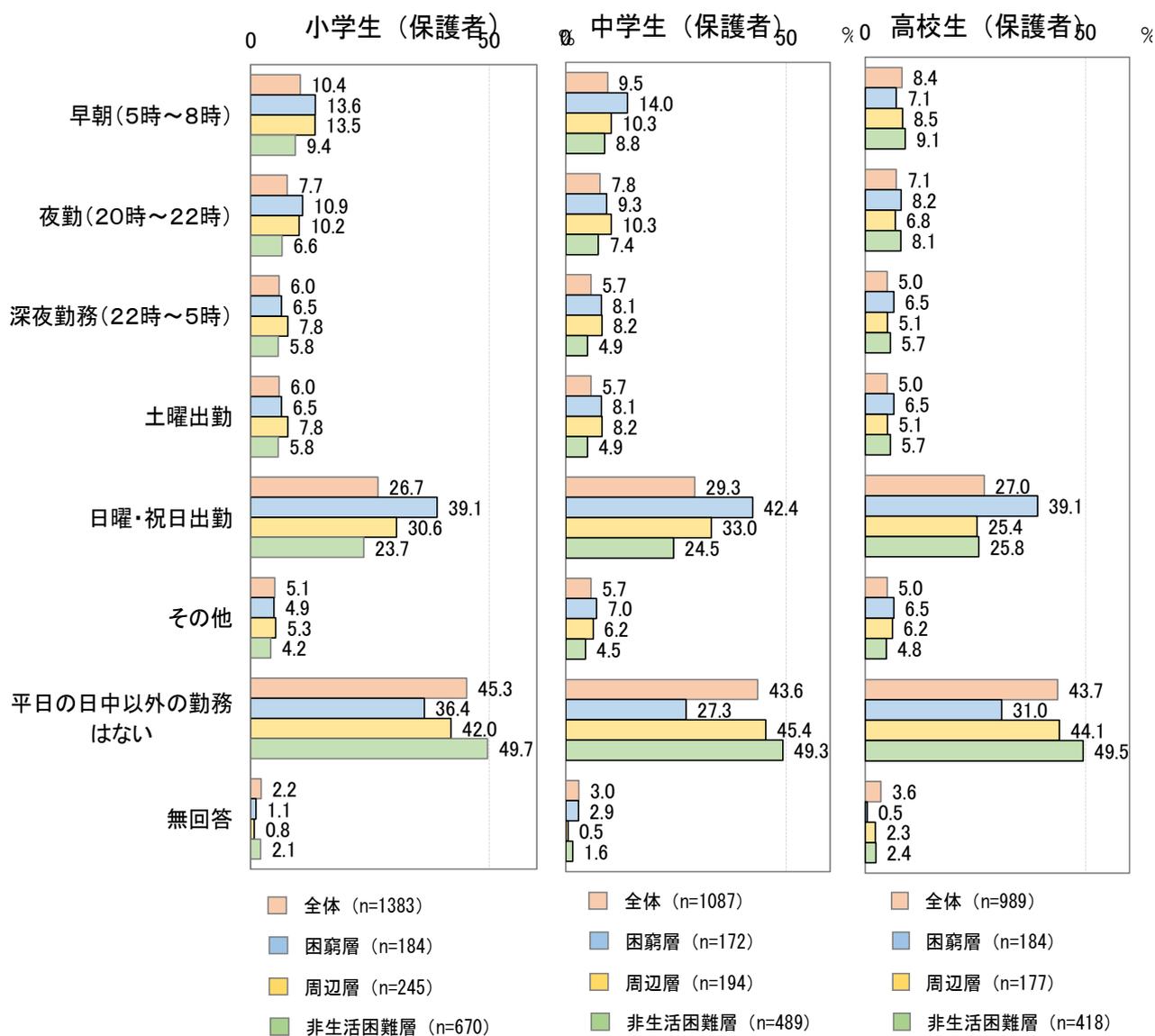
③ 共働きの状況



(10) 保護者の勤務形態保護者の就労状況

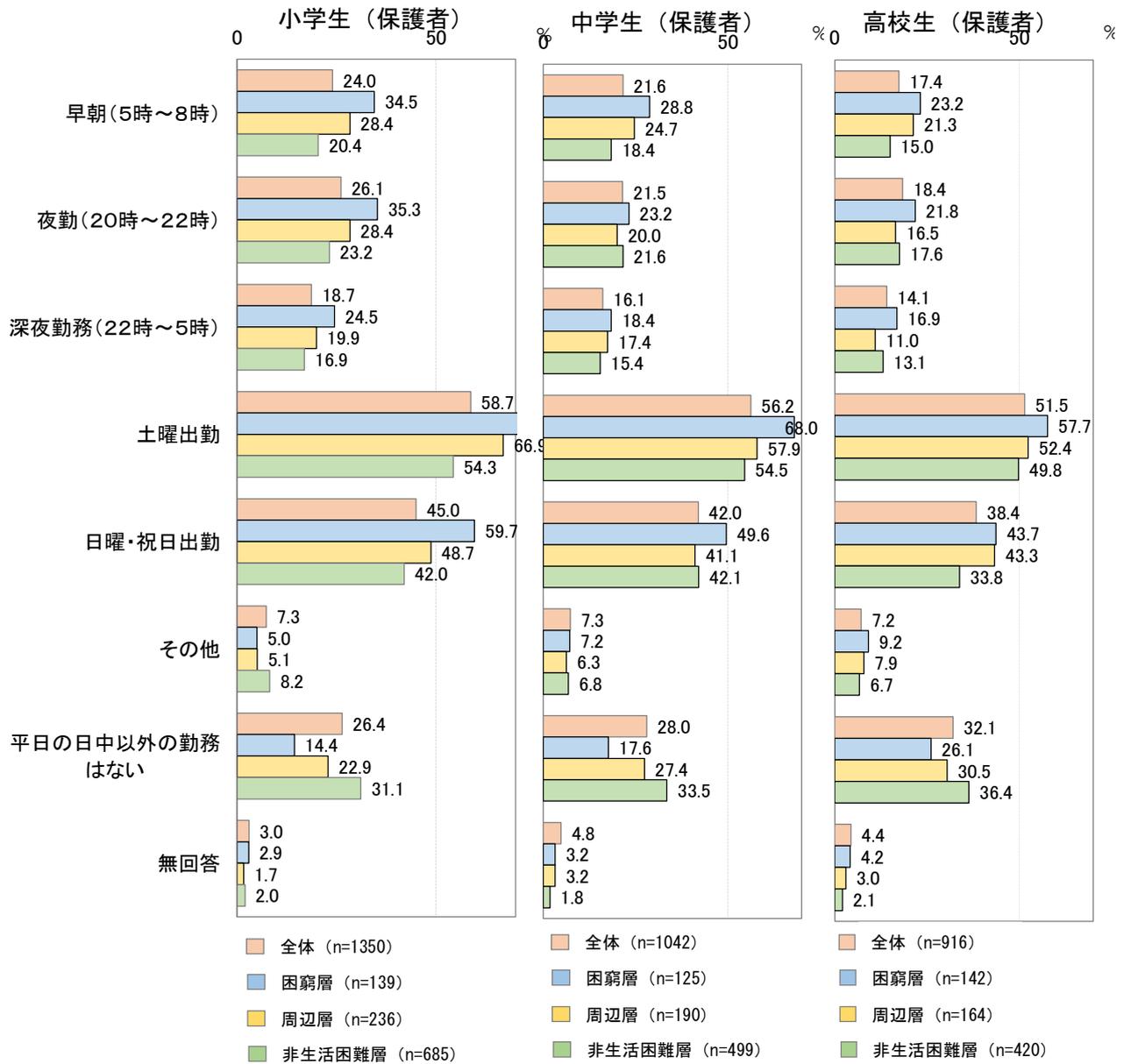
●保護者の勤務形態をみると、母親、父親のいずれも生活困難層は非生活困難層に比べ平日日中以外の勤務の割合が高い傾向にある。

① 母親の勤務形態



注)複数回答ありのため困窮区分ごとの総数は100%にならない。

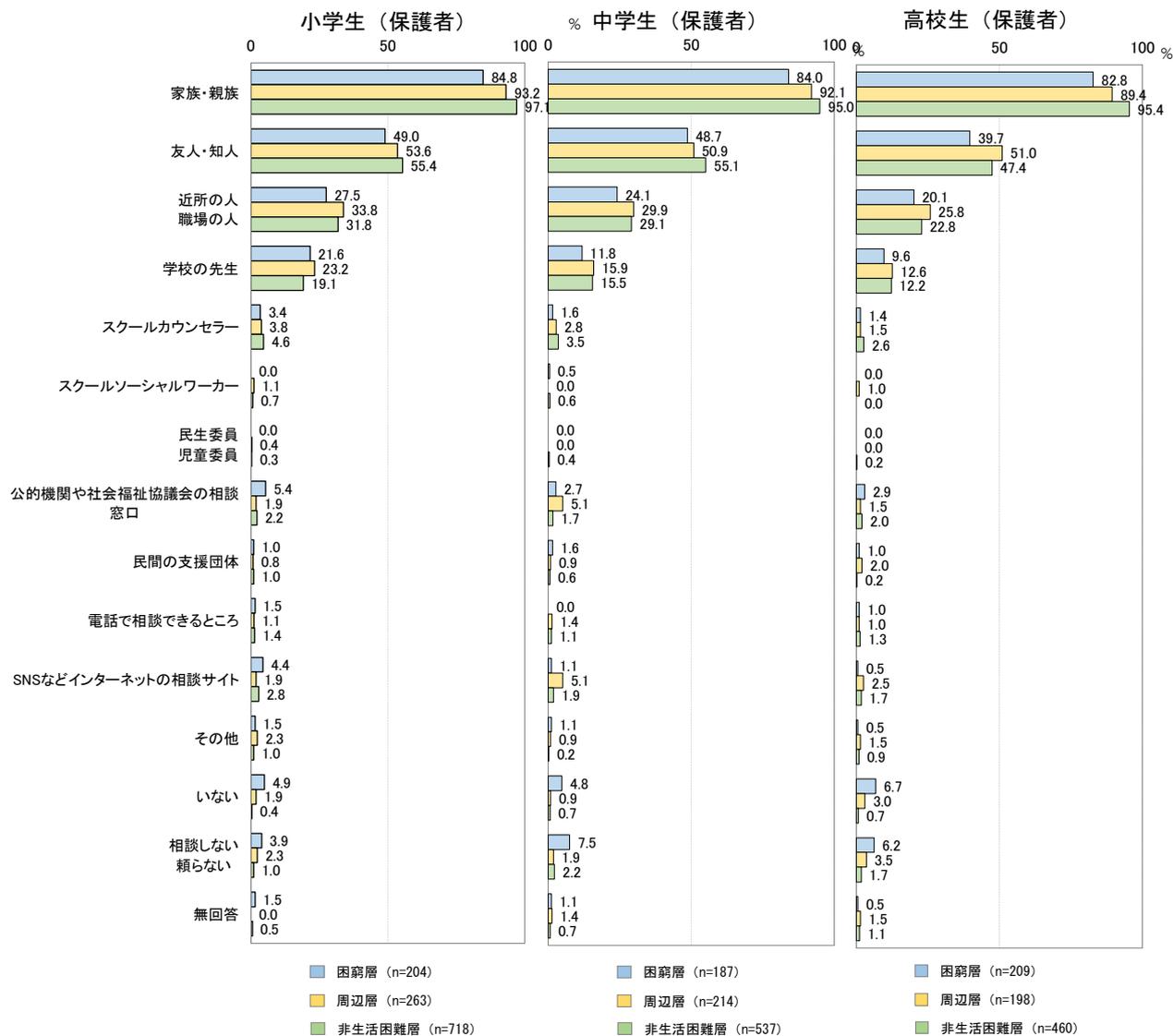
② 父親の勤務形態



注) 複数回答ありのため困窮区分ごとの総数は100%にならない。

(1-1) 保護者の相談先

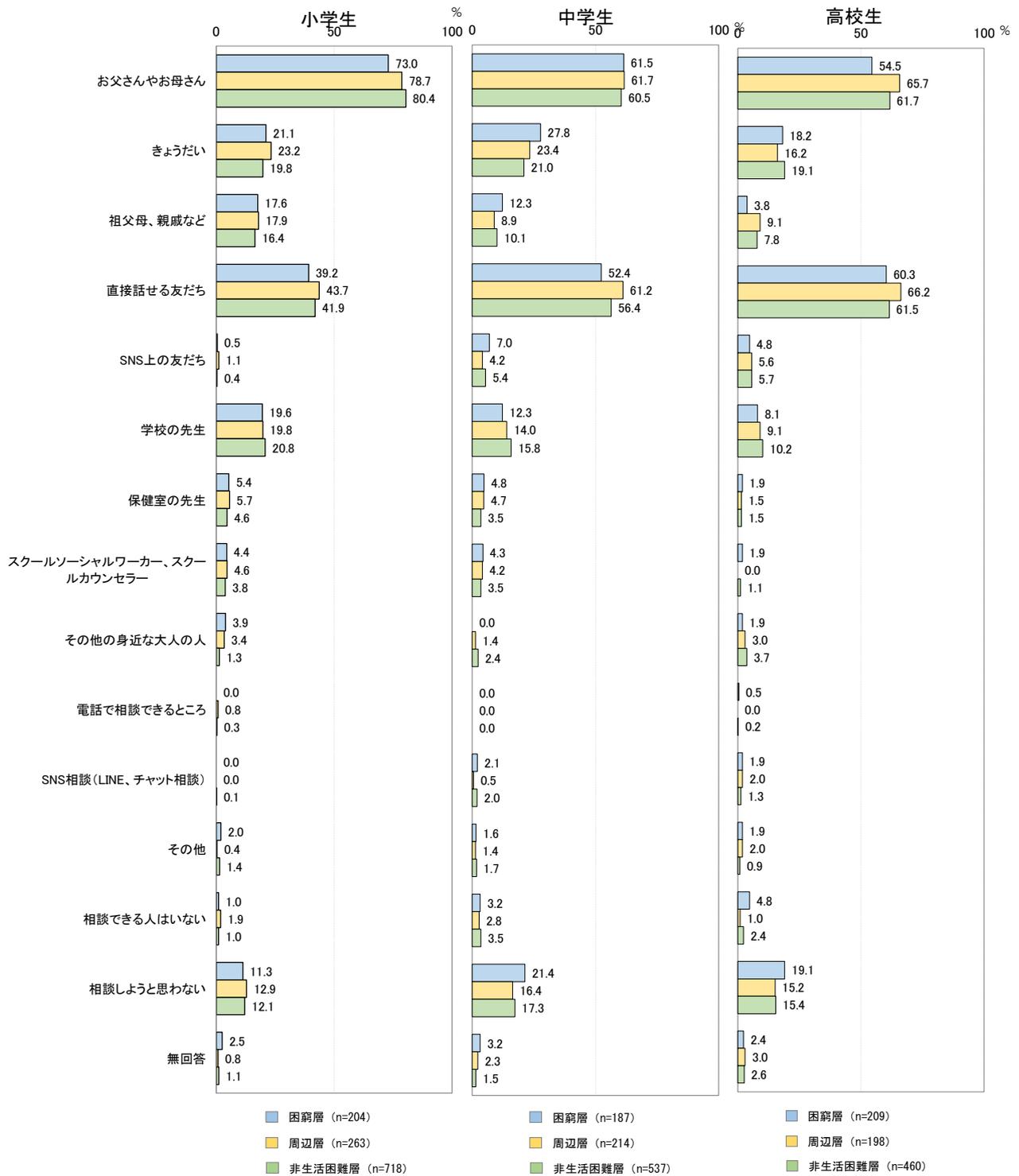
- 生活困難層、非生活困難層のいずれも、相談先として家族、親族や友人、知人等の身近な相手が多く、相談支援機関等の割合が低くなっている。
- 困窮層では、その他の層に比べて、「相談相手がいない」、「相談しない、頼らない」と回答した割合が比較的高くなっている。



注) 複数回答ありのため困窮区分ごとの総数は100%にならない。

(12) 子どもの相談先

- 相談先として家族、親族、友だち等の身近な相手が多くなっている。
- 困窮層では、中学生、高校生で「相談しようと思わない」と回答した割合が、他の層に比べ高くなっている。

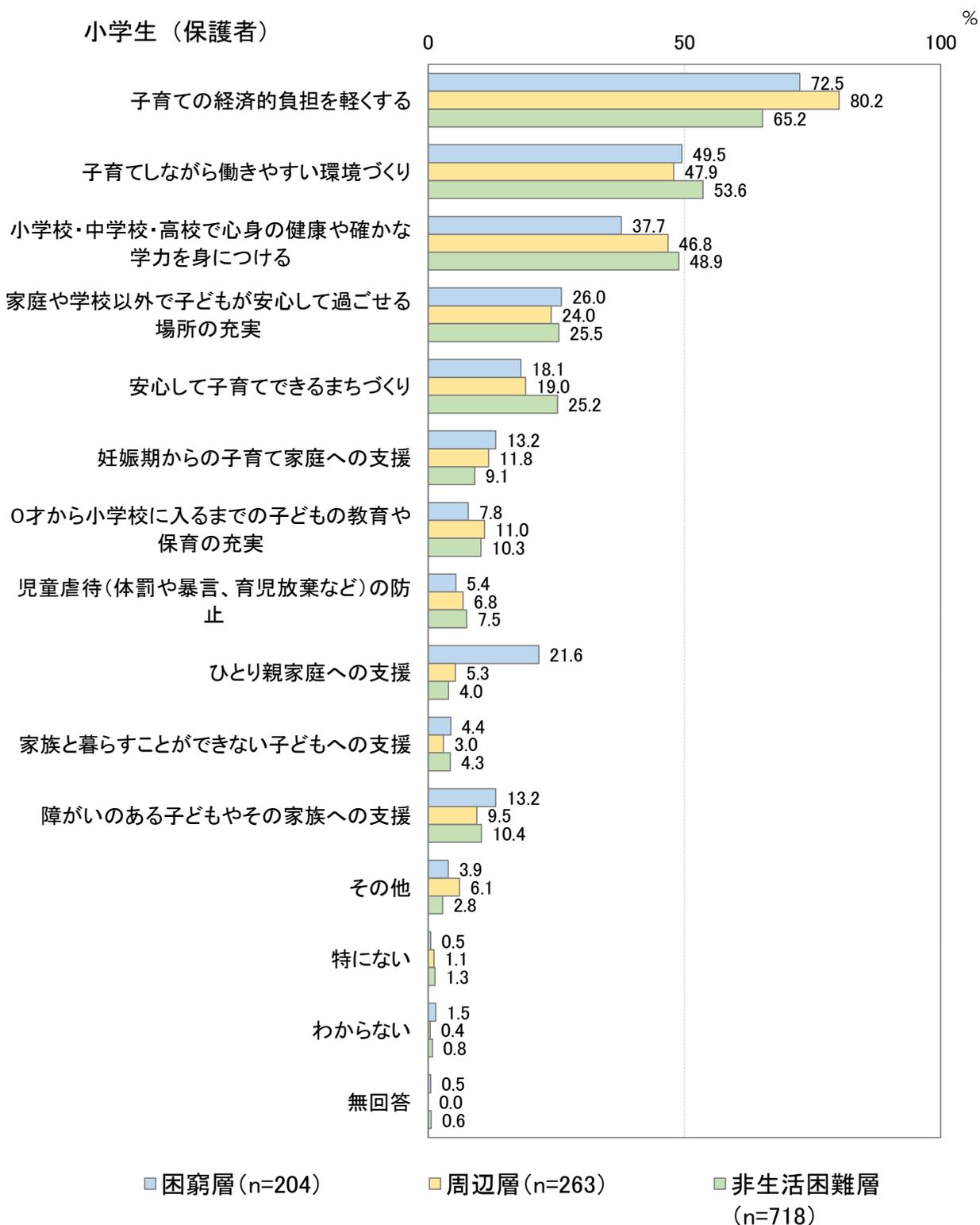


注)複数回答ありのため困窮区分ごとの総数は100%にならない。

(13) 保護者の要望

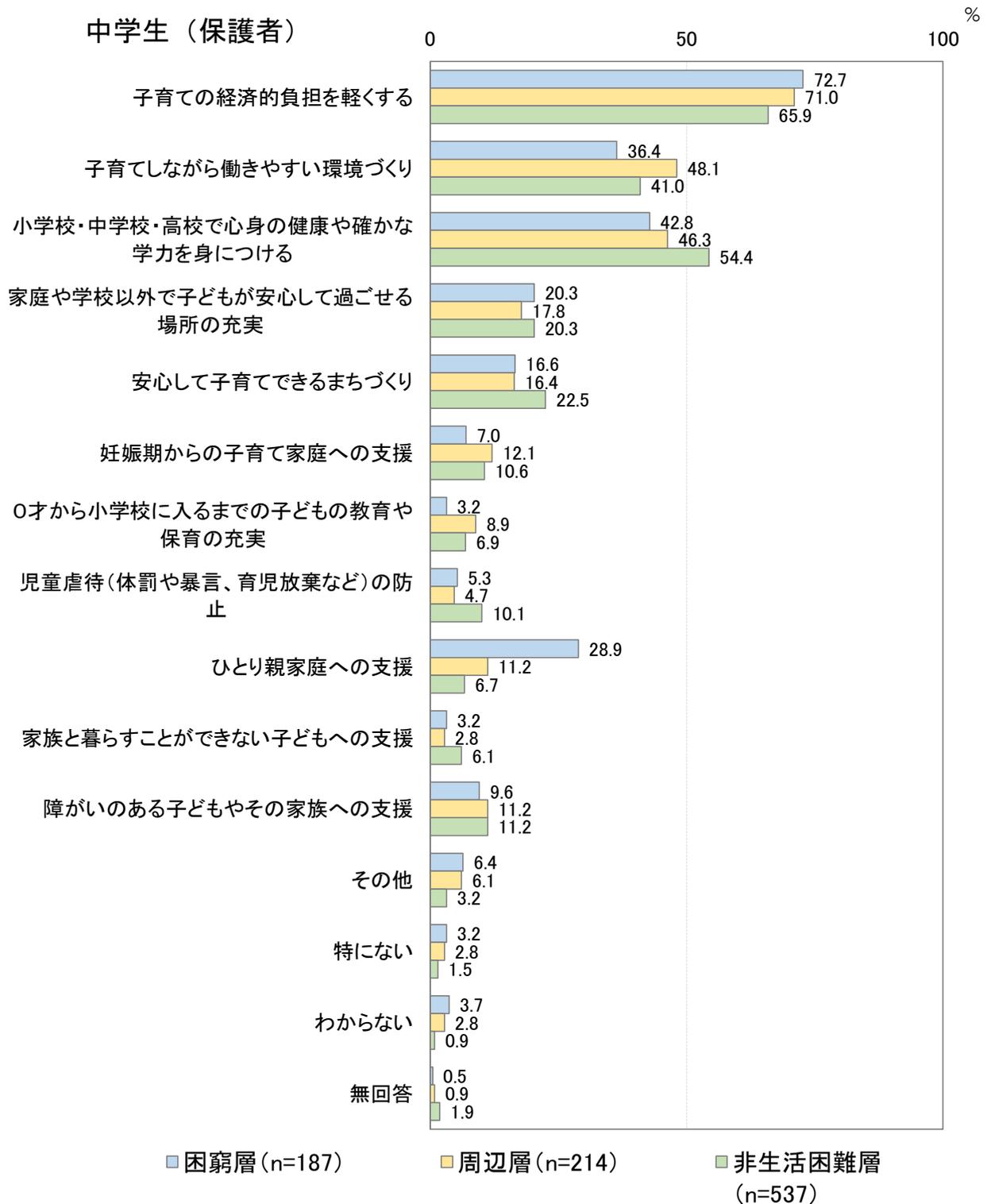
- いずれの層でも、「子育ての経済的負担の軽減」「働きやすい環境づくり」「学校に求める心身の健康と確かな学力」と回答した割合が高くなっている。
- 困窮層では、その他の層に比べて、「ひとり親家庭への支援」と回答した割合が高くなっている。

保護者が、子どもに関する取組で、県や市町村に力を入れてほしいと思うこと。

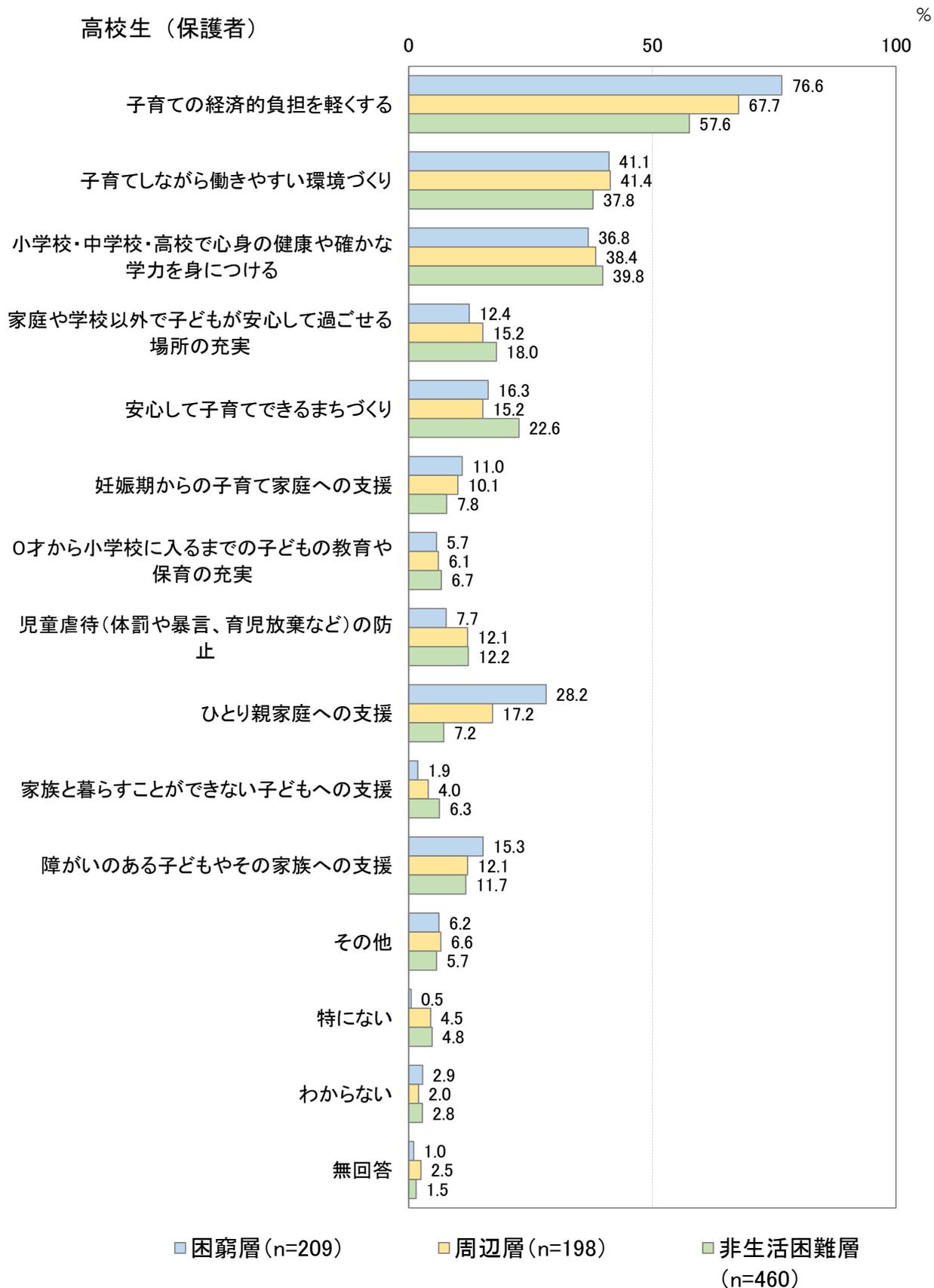


注) 複数回答ありのため困窮区分ごとの総数は100%にならない。

中学生（保護者）



注) 複数回答ありのため困窮区分ごとの総数は100%にならない。

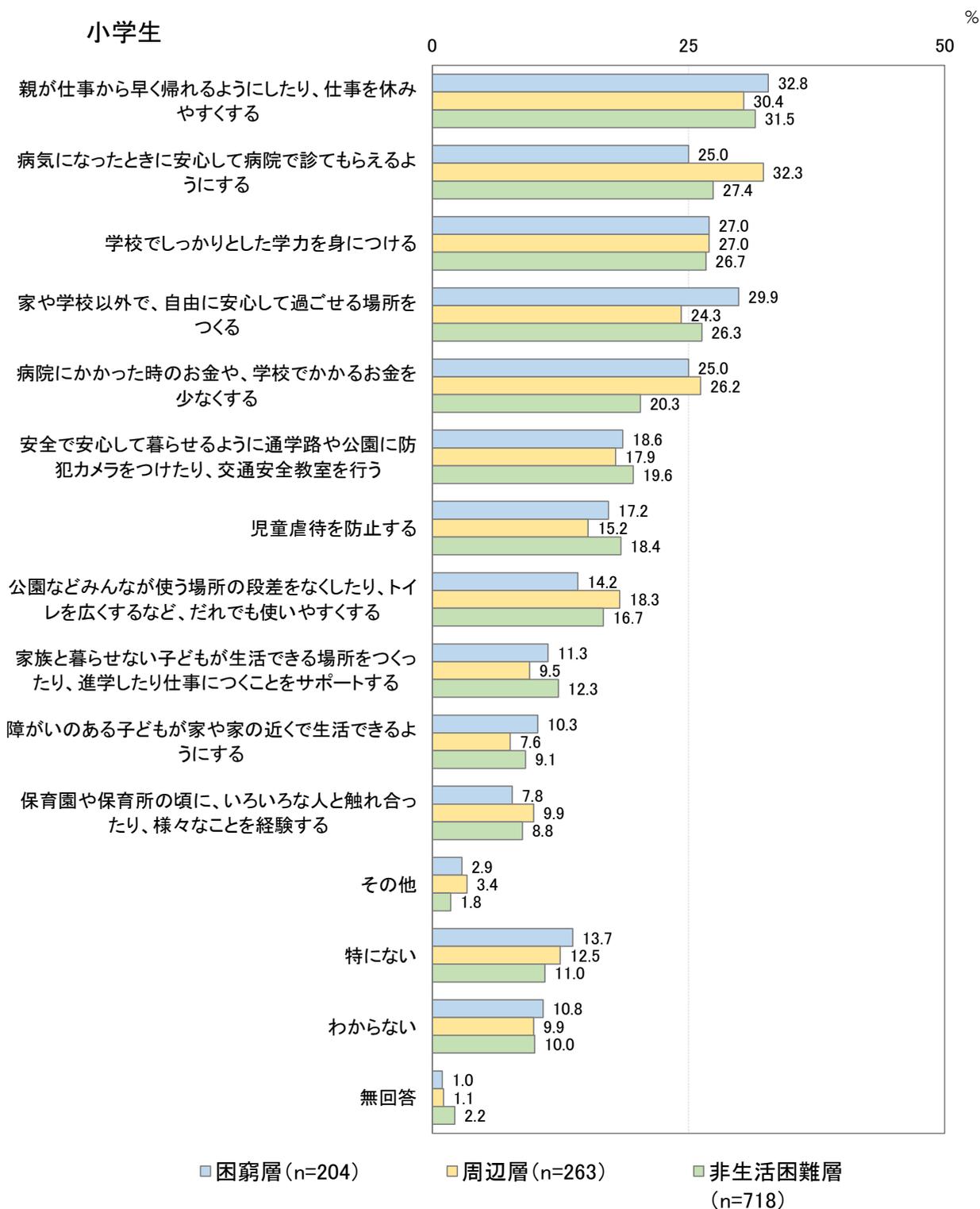


注) 複数回答ありのため困窮区分ごとの総数は100%にならない。

(14) 子どもの要望

●小学生、中学生では、いずれの層でも、「親の労働環境の改善」や「医療への期待」、「学校での学力の定着」などと回答した割合が高くなるとともに、「家や学校以外での居場所」への要望も高くなっている。

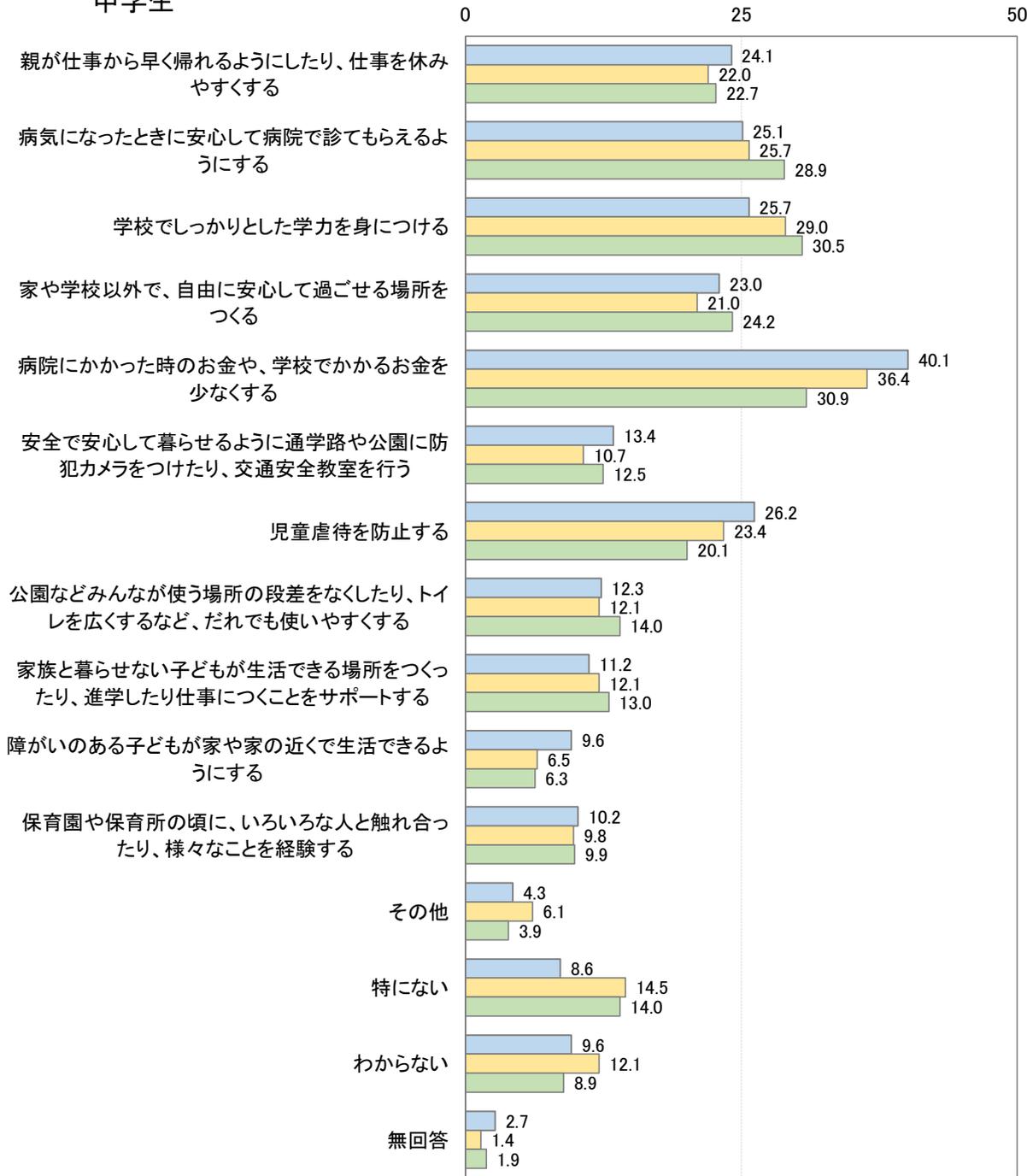
子どもが大人にしてほしいこと。



注) 複数回答ありのため困窮区分ごとの総数は100%にならない。

中学生

%



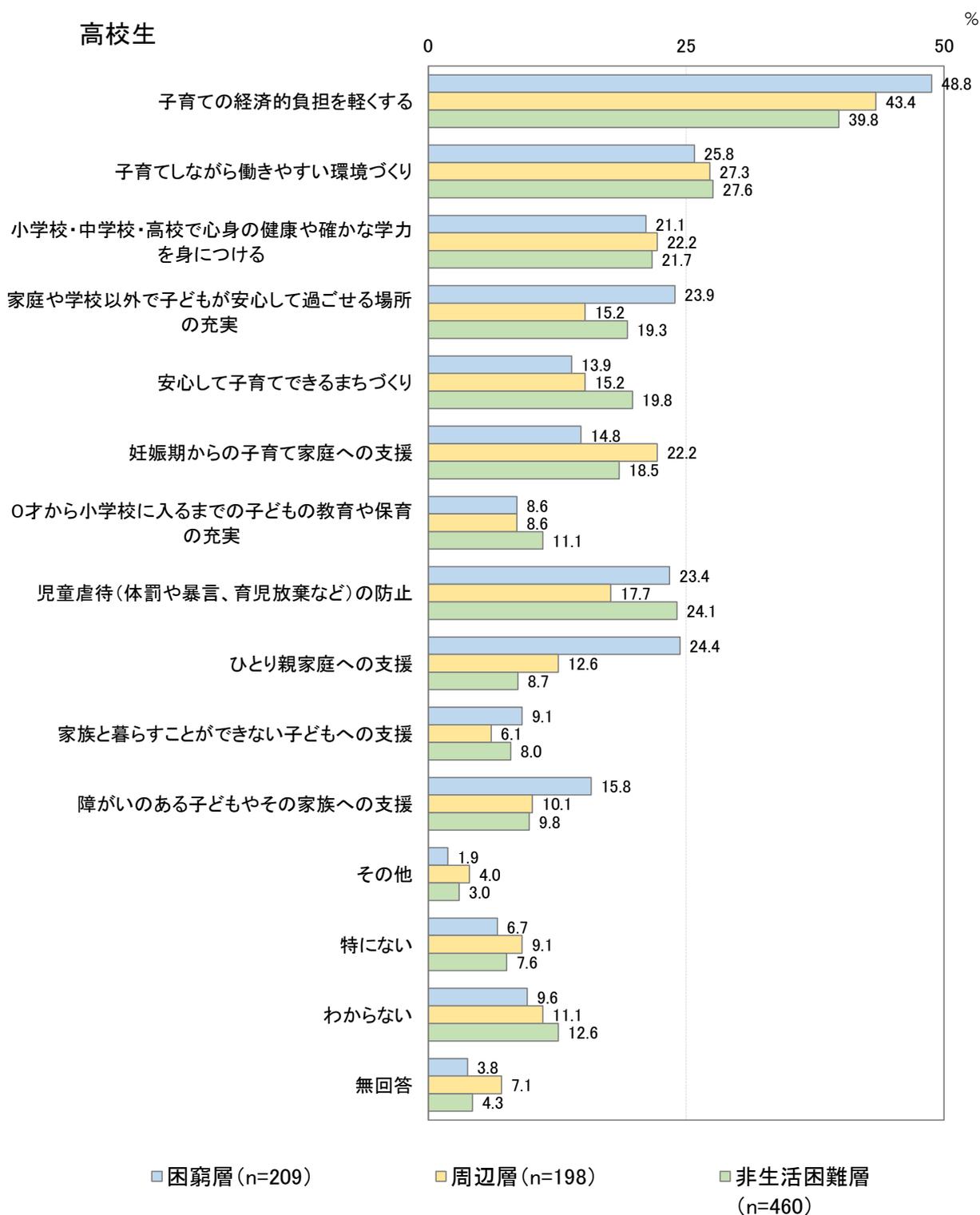
■ 困窮層 (n=187)

■ 周辺層 (n=214)

■ 非生活困難層 (n=537)

注) 複数回答ありのため困窮区分ごとの総数は100%にならない。

- 高校生では、「子育ての経済的負担の軽減」「働きやすい環境づくり」「学校に求める心身の健康と確かな学力」と回答した割合が高くなっている。
- 困窮層では、その他の層に比べて、「ひとり親家庭への支援」と回答した割合が高くなっている。

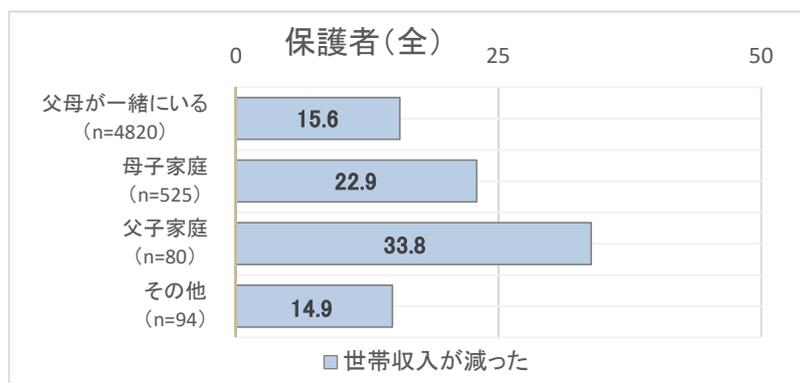
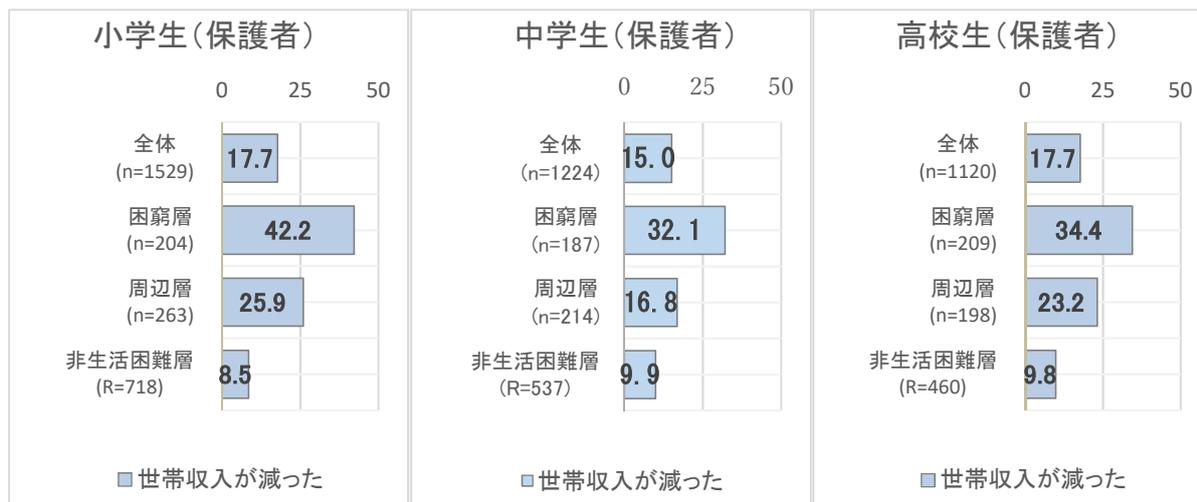


注) 複数回答ありのため困窮区分ごとの総数は100%にならない。

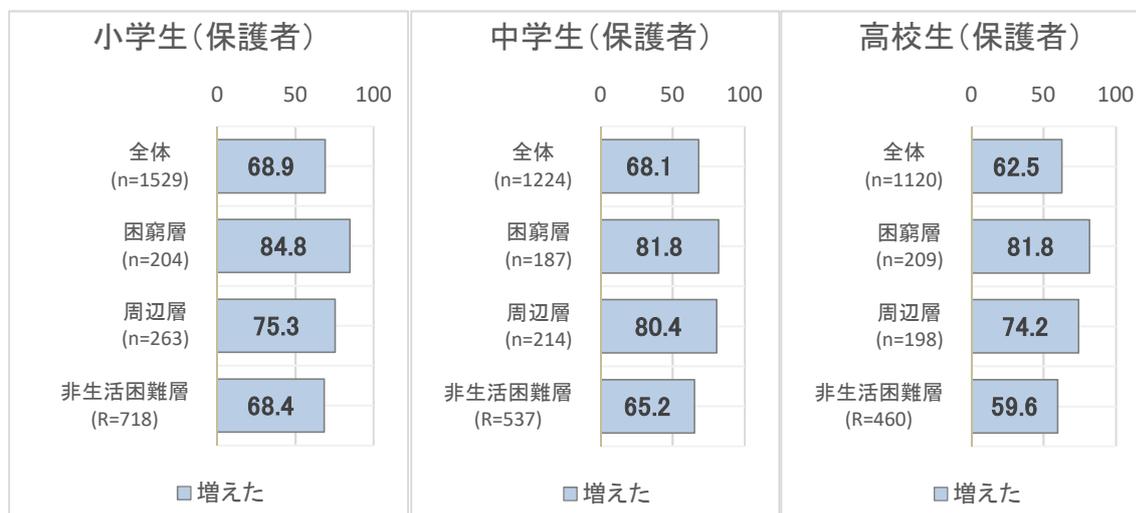
(15) コロナ前と現在の比較

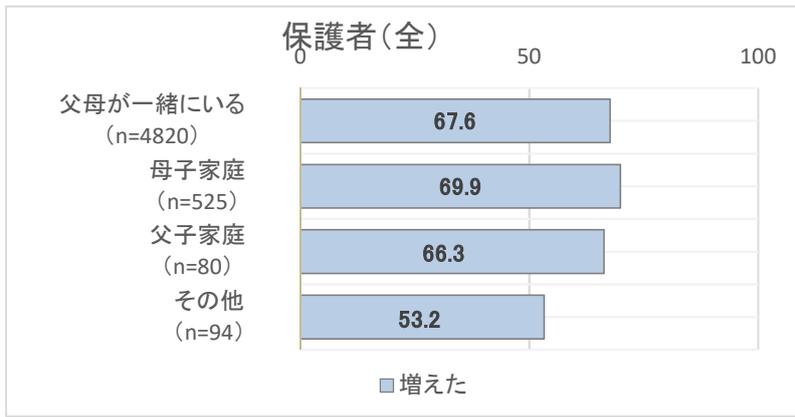
- コロナ前後を比較すると、いずれの層でも変化は見られるが、生活困難層は、非生活困難層に比べて、「世帯収入の減」「生活に必要な支出の増」とともに「家族が一緒に出掛ける機会が減った」「子どもと話をすることが減った」と回答した割合が高くなっている。
- 世帯状況別にみると、母子家庭では「世帯収入の減」「家族が一緒に出掛ける機会が減った」「子どもと話をすることが減った」と回答した割合が高く、父子家庭では「世帯収入の減」「子どもと話をすることが減った」と回答した割合が高くなっている。

① 世帯全体の収入

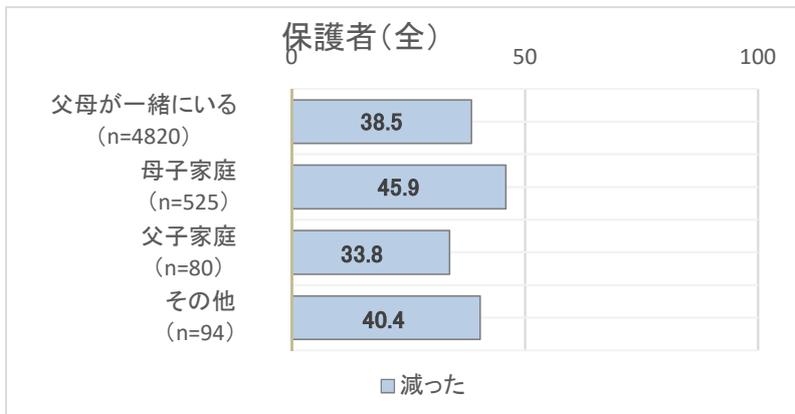
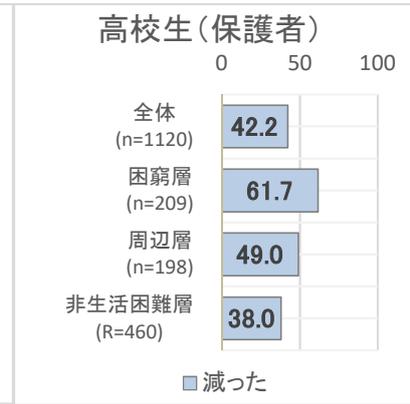
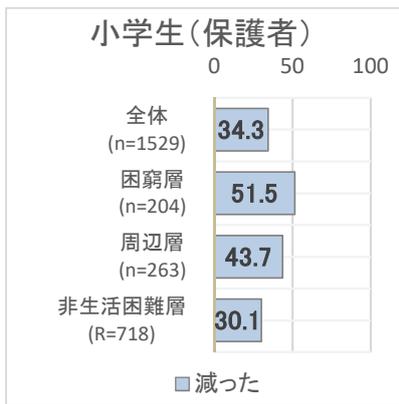


② 生活に必要な支出

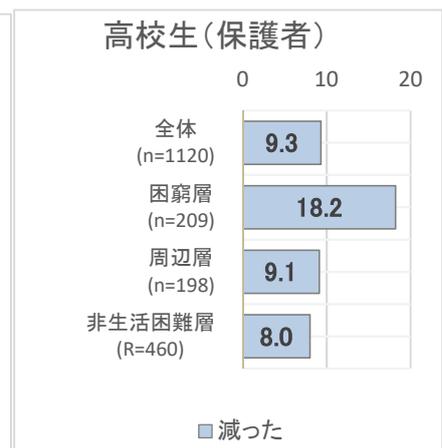


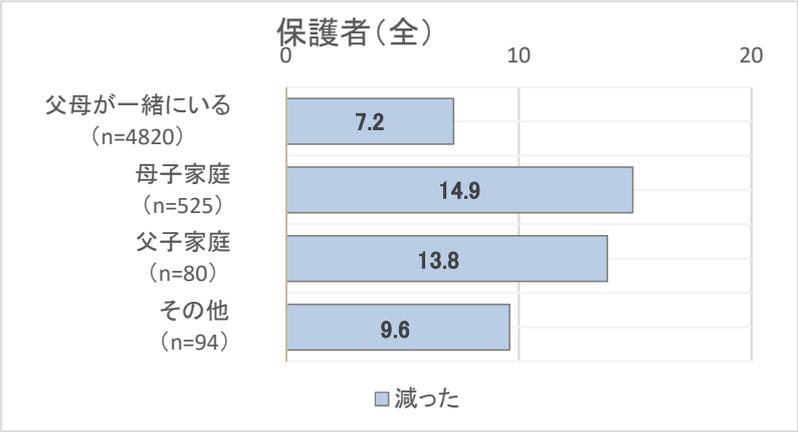


③ 家族と一緒に掛ける機会



④ 子どもと話をすること





資 料

(1) 生活困難層の割合（前回比較）

前回（R 1）

【小学生】

	実数	割合
生活困難層	972	30.1%
生活困窮層	408	12.6%
周辺層	564	17.5%
非生活困難層	2,260	69.9%

今回（R 6）

【小学生】

	実数	割合
生活困難層	467	39.4%
生活困窮層	204	17.2%
周辺層	263	22.2%
非生活困難層	718	60.6%

前回（R 1）

【中学生】

	実数	割合
生活困難層	903	32.5%
生活困窮層	373	13.4%
周辺層	530	19.1%
非生活困難層	1,873	67.5%

今回（R 6）

【中学生】

	実数	割合
生活困難層	401	42.8%
生活困窮層	187	19.9%
周辺層	214	22.8%
非生活困難層	537	57.2%

前回（R 1）

【高校生】

	実数	割合
生活困難層	906	35.3%
生活困窮層	395	15.4%
周辺層	511	19.9%
非生活困難層	1,663	64.7%

今回（R 6）

【高校生】

	実数	割合
生活困難層	407	46.9%
生活困窮層	209	24.1%
周辺層	198	22.8%
非生活困難層	460	53.1%

前回（R 1）

【全体】

	実数	割合
生活困難層	2,781	32.4%
生活困窮層	1,176	13.7%
周辺層	1,605	18.7%
非生活困難層	5,796	67.6%

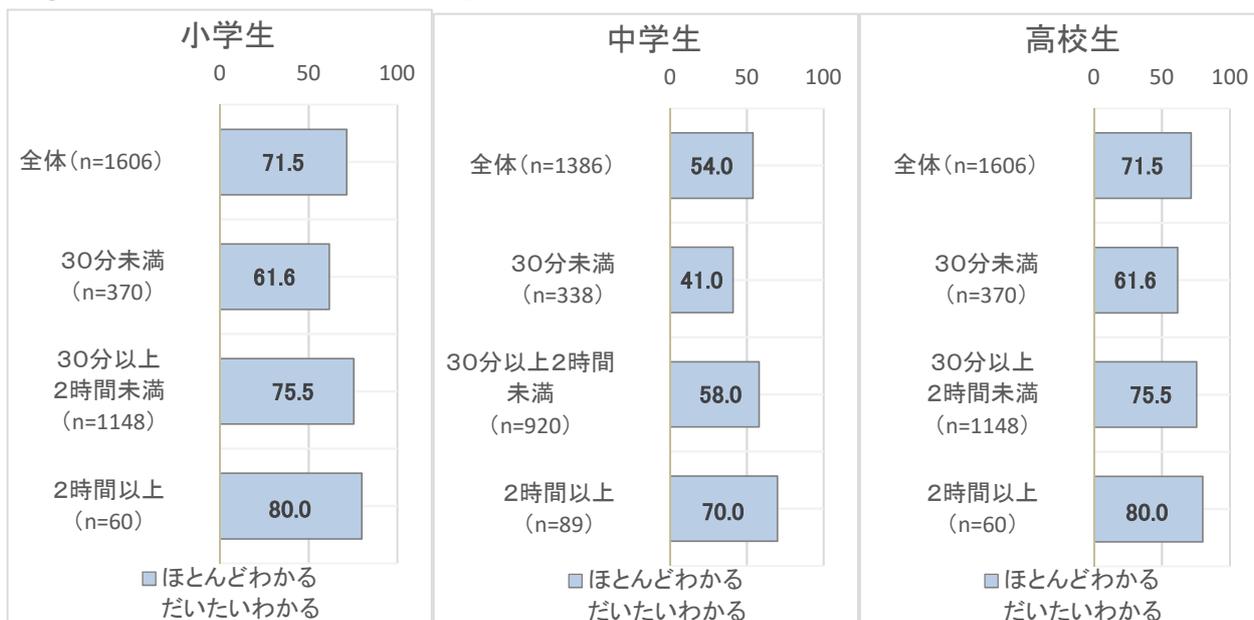
今回（R 6）

【全体】

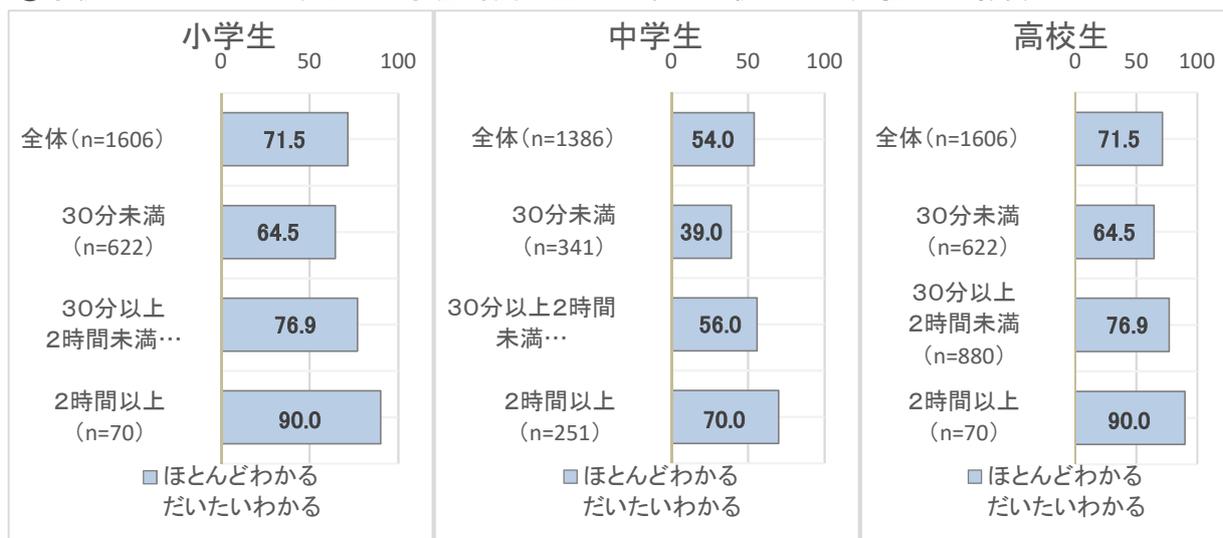
	実数	割合
生活困難層	1,275	42.6%
生活困窮層	600	20.1%
周辺層	675	22.6%
非生活困難層	1,715	57.4%

(2) 子どもの学習時間と勉強の理解度

①学校以外での1日あたりの学習時間（月～金曜日）×勉強の理解度



②学校以外での1日あたりの学習時間（土・日曜日・祝日）×勉強の理解度



- 学校以外での学習時間が長い子どもほど、「ほとんどわかる・だいたいわかる」と回答した割合が高い。

③学校以外での1日あたりの学習時間（月～金曜日）

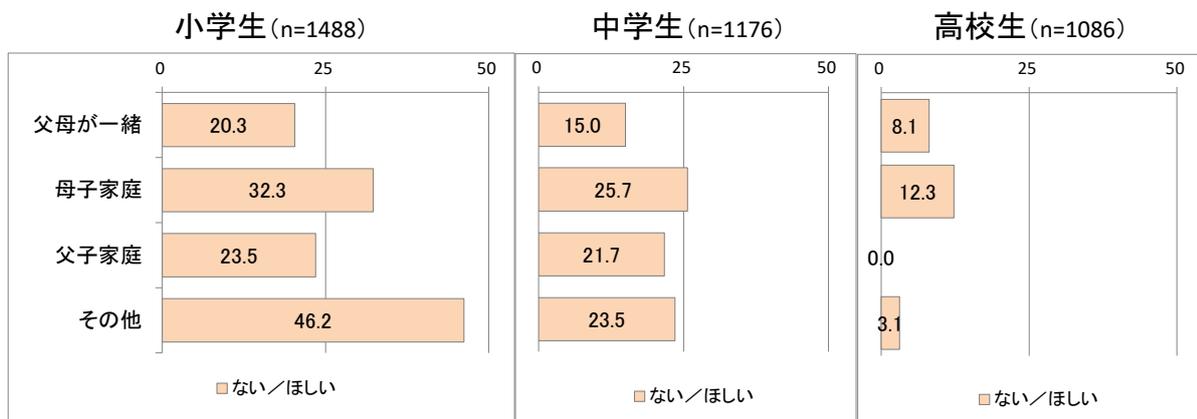
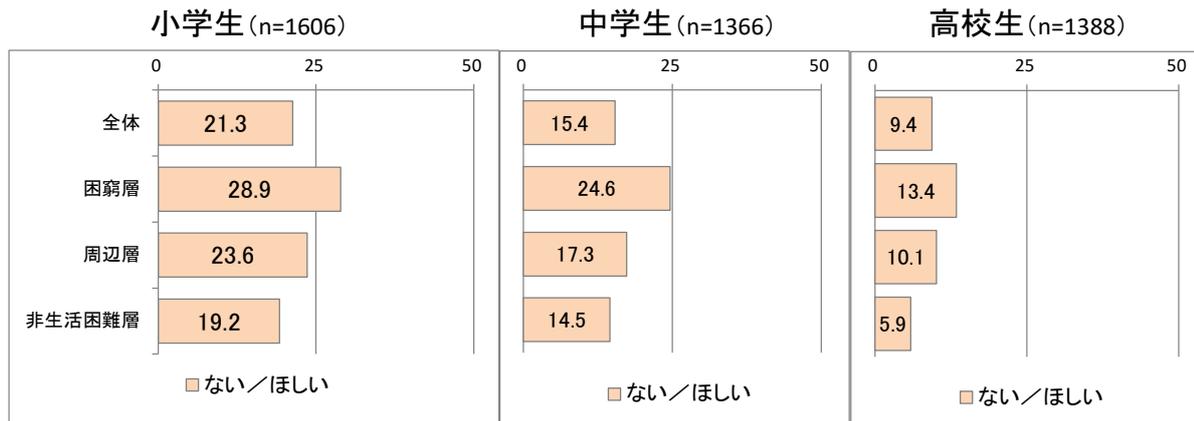


④学校以外での1日あたりの学習時間（土・日曜日・祝日）

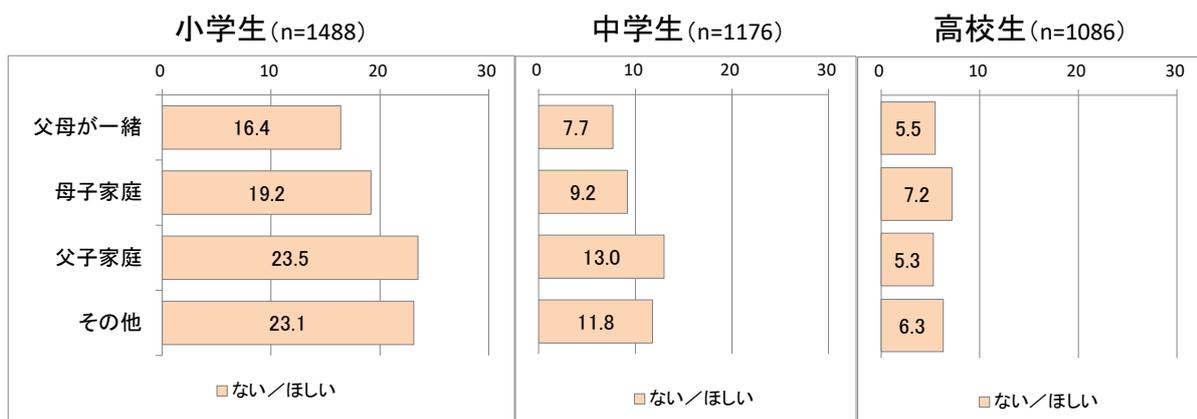
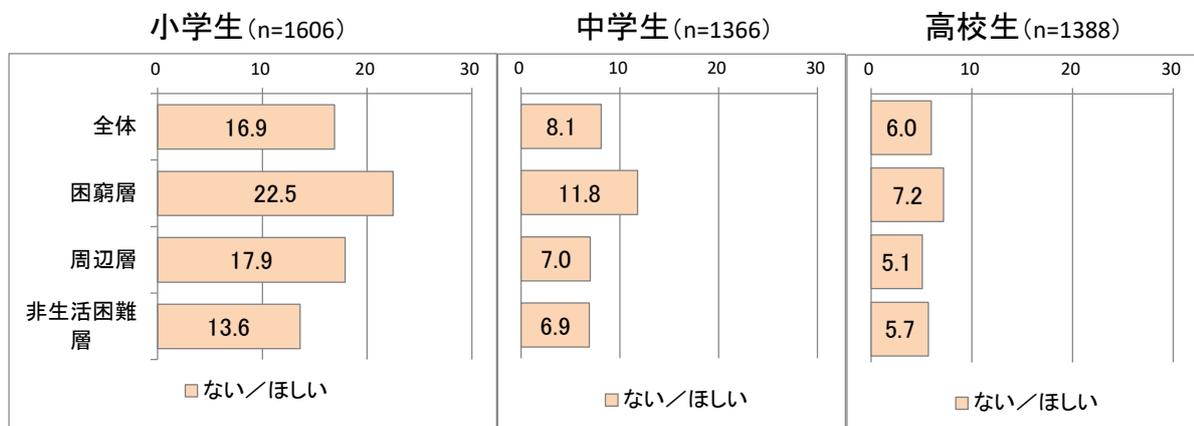


・1日あたりの学習時間が30分未満の子どもの割合は、生活困難層は非生活困難層に比べ高くなっている。

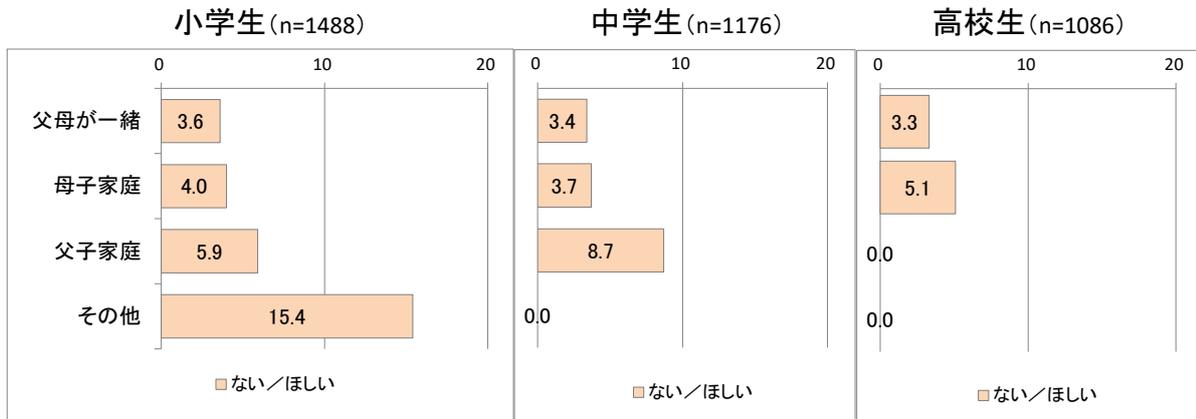
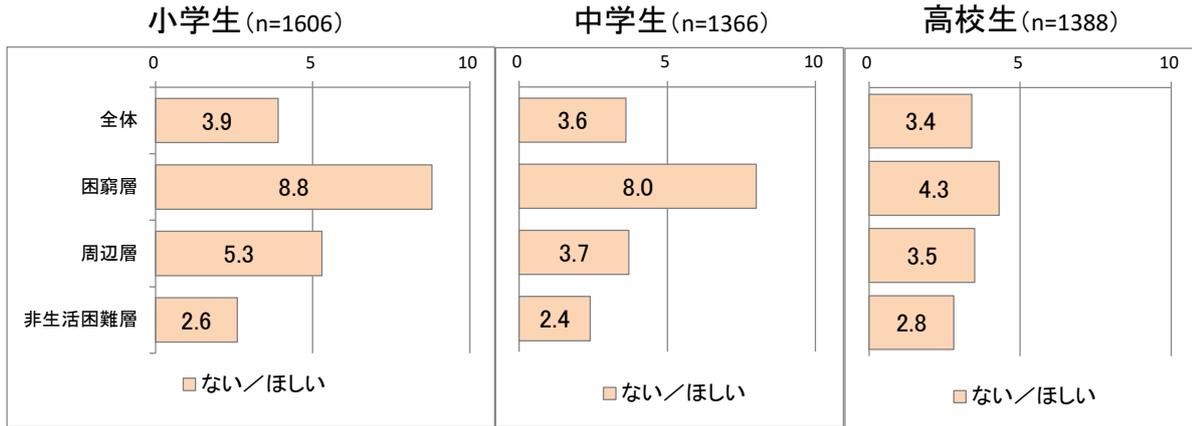
⑤ 自分が使える子ども部屋が「ない」が「ほしい」



⑥ 自分専用の勉強机が「ない」が「ほしい」

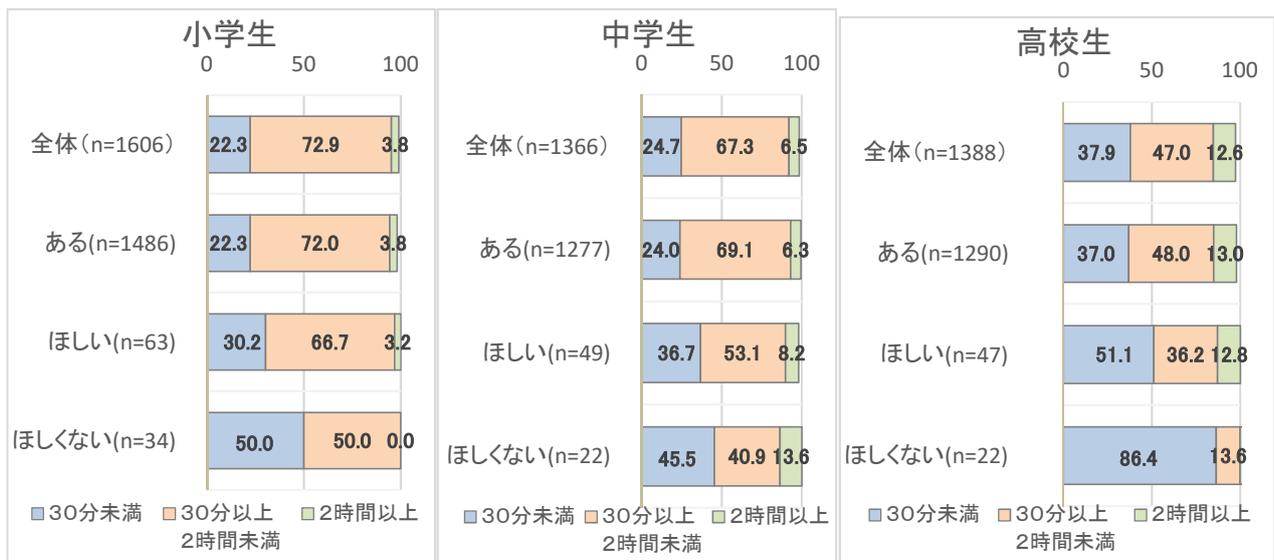


⑦ 自宅で宿題をすることができる場所が「ない」が「ほしい」

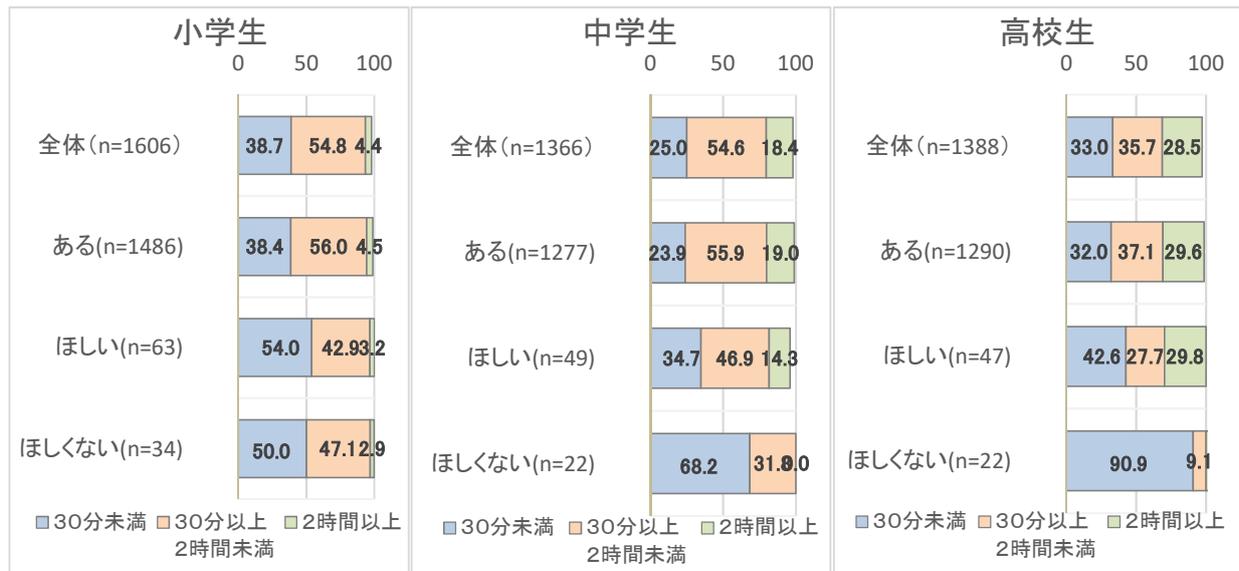


- ・自分が使える「子ども部屋」「勉強机」「宿題ができる場所」がないため「ほしい」と回答した子どもの割合は、非生活困難層に比べ生活困難層が高くなっている。
- ・世帯状況別に見ると、ひとり親家庭で高い傾向となっている。

⑨ 自宅で宿題をすることができる場所があるか×学校以外での勉強時間（平日）



⑩ 自宅で宿題をすることができる場所があるか×学校以外での勉強時間（土日祝日）



・自宅で宿題ができる場所がない(「ほしい」と回答した)と回答した子どもは、「ある」と回答した子どもより、1日当たりの学習時間が30分未満の割合が高くなっている。